

しみずがみ
清水上遺跡

南陽市埋蔵文化財調査報告書第9集

平成27年3月

南陽市教育委員会



ST1カマド遺物出土状況（北より）



ST1カマド一括出土遺物
巻頭写真1



清水上遺跡周辺状況 空中撮影(南西より)



完掘状況 調査区北半(西より)

序

この度、「清水上遺跡発掘調査報告書」を発行する運びとなりました。

本書は、民間店舗開発事業に伴い埋蔵文化財保護との調整を図るために南陽市教育委員会が実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

清水上遺跡は市内沖郷地区北部の蒲生田地区にあり、中世城館址である蒲生田館跡の北西に位置しています。平成25年10月に試掘調査を、平成26年7～8月に本調査を実施しました。これら成果から、古墳時代から平安時代に亘るこの地域の様子について理解が深まるものと存じます。

本市は、北に丘陵、南に沃野と豊かな自然に恵まれ、旧石器時代から中世に至る多くの遺跡が存在します。人々が生活した住居跡・古墳・役所跡・城館等の「遺跡」と、石器や土器等の「遺物」は、大地に埋まっている貴重な文化財という意味から「埋蔵文化財」といいますが、市内の至る所に悠久の歴史を語るこの埋蔵文化財が眠っています。

現代に生きる私たちは、埋蔵文化財を大切にし、やむを得ず破壊される場合は、記録として保存し、歴史を後世に引き継いでいく責任があります。

結びに、本調査にご指導とご協力をいただいた佐藤庄一先生をはじめとする関係各位に、厚く感謝を申し上げます。

平成27年3月

南陽市教育委員会

教育長 猪野 忠

本書は、株式会社薬王堂店舗建設に係る「^{しみずがみ}清水上遺跡」の発掘調査報告書である。

既刊の概報、調査説明資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。

調査は、南陽市教育委員会が実施した。

出土遺物、調査記録類は報告書作成後、南陽市教育委員会が保管する。

調査要項

遺 跡 名	^{しみずがみ} 清水上遺跡			
遺 跡 番 号	平成 26 年度登録			
所 在 地	山形県南陽市蒲生田字清水上			
調 査 主 体	南陽市教育委員会			
調 査 実 施 機 関	南陽市教育委員会スポーツ文化課埋蔵文化財係			
調 査 期 間	平成 26 年 7 月 1 日～8 月 29 日			
調 査 担 当 者	スポーツ文化課長	江口和浩	スポーツ文化課長補佐 (兼埋蔵文化財係長)	角田朋行
	埋 蔵 文 化 財 係	鈴木輝生	嘱 託	吉田江美子
報告書作成担当者	スポーツ文化課長	江口和浩	スポーツ文化課長補佐 (兼埋蔵文化財係長)	角田朋行
	埋 蔵 文 化 財 係	鈴木輝生		
	嘱 託	吉田江美子	山田 渚 岩瀬順子 佐藤加奈子	
調 査 指 導	山形県教育庁文化財・生涯学習課 佐藤鎮雄 佐藤庄一			
調 査 協 力	株式会社薬王堂			

凡 例

1 本書の執筆は、Ⅰ・Ⅱは角田朋行、Ⅲは吉田江美子が担当した。

2 遺構図に付す高さは海拔高で表す。方位は真北を示す。

3 本書で使用した遺構の分類記号は下記のとおりである。

S A・・・柵列	S B・・・掘立柱建物跡	S D・・・溝跡
S K・・・土坑	S P・・・ピット	S T・・・竪穴住居跡
S H・・・方形周溝	S X・・・性格不明遺構	
R P・・・登録土器	P・・・土器	W・・・木製品 S・・・石

4 遺構実測図の縮尺は各図に示し、各々スケールを付した。遺物実測図は 1/3 で採録している。

5 写真図版は任意の縮尺で採録した。

6 基本層序および遺構覆土の色調記載については、1997 年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版基準土色帖」によった。

7 発掘調査及び本書を作成するにあたり、下記の方々からご協力、ご助言をいただいた。(敬称略)

佐藤鎮雄 佐藤庄一 三上喜孝

8 委託業務は下記のとおりである。

遺構測量図化業務 株式会社パスコ

目次

I	調査の経緯	1
1	調査に至る経過	1
2	調査の概要	1
II	遺跡の立地と環境	3
1	地理的環境	3
2	歴史的環境	3
III	遺跡の概要	7
1	検出遺構	7
2	出土遺物	38
3	まとめ	62

図版

第1図	南陽市遺跡位置図	5	第24図	S B 10・11 掘立柱建物跡	34
第2図	調査区グリッド配置図	7	第25図	S B 13 掘立柱建物跡	35
第3図	清水上遺跡基本層序	8	第26図	S B 14 掘立柱建物跡	36
第4図	清水上遺跡遺構配置図	8	第27図	S B 15 掘立柱建物跡	37
第5図	S H 3 方形周溝跡	12	第28図	S H 4 出土遺物	39
第6図	S H 4 方形周溝跡	13	第29図	S T 1 出土遺物 (1)	40
第7図	S T 1 竪穴住居跡	14	第30図	S T 1 出土遺物 (2)	41
第8図	S T 1 竪穴住居跡遺物出土状況	15	第31図	S T 1 出土遺物 (3)	42
第9図	S T 1 竪穴住居跡・S B 12 掘立柱建物	17	第32図	S T 1 出土遺物 (4)	43
第10図	S T 2 竪穴住居跡遺物出土状況	19	第33図	S T 2 出土遺物 (1)	44
第11図	S T 347・348 竪穴住居跡	20	第34図	S T 2 出土遺物 (2)	45
第12図	S T 350・356 竪穴住居跡	19	第35図	S T 2 出土遺物 (3)	46
第13図	S T 356 カマド・敷石検出状況	22	第36図	S T 2 出土遺物 (4)	47
第14図	S T 359・360 竪穴住居跡	23	第37図	S T 2・350・356 出土遺物	48
第15図	S D 353・366 溝跡	24	第38図	S T 347・348 出土遺物	49
第16図	S B 1 掘立柱建物跡	25	第39図	S T 357・359 出土遺物	50
第17図	S B 2・3 掘立柱建物跡	26	第40図	S D 366・S K 357 出土遺物	51
第18図	S B 4 掘立柱建物跡	27	第41図	S P・E P 出土遺物	52
第19図	S B 5 掘立柱建物跡 (1)	29	第42図	遺構外出土遺物 (1)	53
第20図	S B 5 掘立柱建物跡 (2)	30	第43図	遺構外出土遺物 (2)	54
第21図	S B 6・7・8 掘立柱建物跡 (1)	31	第44図	遺構外出土遺物 (3)	55
第22図	S B 6・7・8 掘立柱建物跡調 (2)	32	第45図	遺構外出土遺物 (4)	56
第23図	S B 9 掘立柱建物跡	33			

表

表1	遺跡位置図	6	表6	清水上遺跡 遺物観察表 (3)	59
表2	清水上遺跡 遺構観察表 (1)	10	表7	清水上遺跡 遺物観察表 (4)	60
表3	清水上遺跡 遺構観察表 (2)	11	表8	清水上遺跡 遺物観察表 (5)	61
表4	清水上遺跡 遺物観察表 (1)	57	表9	清水上遺跡 遺物観察表 (6)	62
表5	清水上遺跡 遺物観察表 (2)	58			

写真図版

巻頭写真1	S T 1 カマド遺物出土状況 S T 1 カマド一括出土遺物	写真図版 13～14	S T 347・348 調査状況
巻頭写真2	清水上遺跡周辺状況 空中撮影 完掘状況 調査区北半	写真図版 15～16	S T 350・356 調査状況
写真図版1	遺構発掘調査作業状況	写真図版 17	S T 359・360 調査状況
写真図版2	遺構確認状況	写真図版 18～19	S D 353・366、S K 357 調査状況
写真図版3	完掘状況 空中撮影	写真図版 20～22	S B 柱穴土層断面
写真図版4	S H 3・4 調査状況	写真図版 23	S H 4 出土遺物
写真図版5	S H 4 調査状況	写真図版 24～29	S T 1 出土遺物
写真図版6	S T 1・2 調査状況	写真図版 30～37	S T 2 出土遺物
写真図版7	S T 1 調査状況 (1)	写真図版 38	S T 350・356 出土遺物
写真図版8～9	S T 1 カマド調査状況	写真図版 39～40	S T 347・348 出土遺物
写真図版10	S T 1 調査状況 (2)	写真図版 41	S T 359・360 出土遺物
写真図版11～12	S T 2 調査状況	写真図版 42	S K 357・SP・EP 出土遺物
		写真図版 43～51	遺構外出土遺物

I 調査の経緯

1 調査に至る経過

清水上遺跡のある蒲生田地区は、中世に蒲生田館^{かもうだたて}が築かれた地域である。清水上遺跡は、蒲生田館本丸跡から北西へ約 400m、安養寺から北へ約 180m の位置にあたる。清水上遺跡と蒲生田館本丸跡の間には、吉野川の旧河道が南北に走り、両岸の微高地一帯が蒲生田館跡として登録されている。

平成 25 年度に今次調査地について民間店舗開発計画に係る事前協議がなされ、市教育委員会が踏査・試掘調査を実施したところ、古墳時代～平安時代の遺物及び柱穴等が検出されたことから、平成 26 年度に民間受託事業として市教育員会が本調査を実施した。

当初「蒲生田遺跡」として発掘届を提出したものの、調査の結果、中世に遡る遺構・遺物が確認出来なかったことから、蒲生田館跡の範囲を修正し、旧吉野川右岸に広がる本遺跡を新たに清水上遺跡として登録し報告するものである。

2 調査の概要

調査は、事業地内 3,446㎡を対象として実施された。事前にこれまで知られているデータ・文献等の再確認を行った。地形的には、当該地中央を南北に旧河道が走り、調査地東側の字名「塚田」であることから古墳が存在する可能性も留意しなければならないこと、昭和 20 年代まで条里制水田がみられた地域の東端にあたることを確認した。文献では、沖郷村史に「安養寺の北に存在したという清水付近に、法相宗の古庵があった」と記録されていることを把握した。耕地整理等の履歴は不明であったが、水田が現代的な圃場に変化していることから、耕地整理が既に実施された地域と考えられた。

1. 地表面踏査

地表面踏査は、平成 25 年 10 月 10 日、16 日に対象地及び周辺地域について実施した。事業地の南に位置する安養寺及び八幡神社付近一帯で須恵器片が表採される。旧吉野川右岸の微高地上に遺跡が広がっている状況を確認した。

2. 試掘調査

試掘調査は、平成 25 年 10 月 21 日から 10 月 22 日まで、延べ2日間実施した。調査地に 5 m× 5 mを 1 単位とするグリットを配し、29 カ所の試掘地点を設定のうえ、手掘りにより無遺物層まで掘り下げた。試掘穴は、1 m四方とし、記録の終了したものから順次埋めもどしを行った。試掘を実施した 29 カ所中、遺構及び遺物が検出されたのは 8 カ所で、主に古墳時代及び平安時代とみられる遺物が出土したことから、古墳時代と平安時代の遺跡が存在するものと判断された。

3. 本調査

本調査は、平成 26 年 7 月 1 日から 8 月 29 日まで、延べ 37 日間実施した。本調査区の他、遺跡の範囲確認と条里制遺構の把握を意図したトレンチを 3 箇所設定し、調査開始時に T T 1 ・ T T 2 を、調査後半に T T 3 の掘下げと記録を実施した。以下に調査の経過を略記する。

7 月 1 日 資材運搬と調査範囲設定作業を行う。重機による表土剥離作業開始。T T 1、T T 2 を掘下げし、記録を行う。

7 月 2 日～ 3 日 重機による表土剥離作業、表土剥離の終了した南側から粗掘りを開始。

7 月 4 日 粗掘りと並行し、面整理を開始。調査区四方の壁切を行い、土層断面を観察。

7 月 7 日 規準杭設置作業、東北側の面整理を実施。

7 月 8 日 南西側の面整理。竪穴住居跡検出、竪穴住居跡の切り合い精査。

7 月 14 日 東側の面整理、検出遺構の精査。遺構に白線を設定。

7 月 15 日 面整理、1 /100 平面図作成

7 月 16 日 遺構検出状況写真撮影、平面図作成、竪穴住居跡ベルト設定・掘下げ

7 月 17 日～ 23 日 竪穴住居跡掘下げ、平面図作成、掘立柱建物跡精査

7 月 24 日～ 28 日 竪穴住居跡掘下げ、柱穴半裁、断面図作成・写真撮影

7 月 28 日～ 30 日 方形周溝跡掘下げ

7 月 29 日 竪穴住居跡ベルト断面図・カマド付近の土器出土状況平面図・柱穴断面図の作成

7 月 30 日 竪穴住居跡写真撮影、竪穴住居跡切合いの精査、周溝跡記録・写真撮影

7月31日～8月4日 竪穴住居跡掘下げ、柱穴断面図作成・写真撮影、遺物写真撮影

8月5日 西側中央の竪穴住居跡掘下げ、溝跡掘下げ、柱穴断面写真撮影

8月6日～18日 竪穴住居跡掘下げ、竪穴住居跡ベルト断面図作成、柱穴完掘作業、柱穴断面記録・写真撮影

8月19日 竪穴住居跡ベルト外し、東南側竪穴住居カマド写真撮影、竪穴住居内柱穴半裁

8月20日 竪穴住居跡ベルト外し、溝跡掘下げ、カマドベルト外し、竪穴住居跡全景写真撮影

8月21日 竪穴住居跡ベルト外し、竪穴住居跡平面図記録

8月22日 竪穴住居跡柱穴完掘、西側中央の竪穴住居内炉跡精査

8月25日 竪穴住居下の土壌等掘下げ、竪穴住居跡平面図作成

8月26日 西側中央の竪穴住居内炉跡記録・完掘、トレンチ3掘下げ

8月27日 竪穴住居内遺物出土状況記録、トレンチ3掘下げ・記録

8月28日 トレンチ3記録、全体清掃、資器材撤収準備

8月29日 航空測量写真撮影、資器材撤収作業

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

清水上遺跡は、南陽市蒲生田字清水上地内に所在し、今回調査した地点の緯度及び経度は、北緯38度3分48秒、東経140度8分23秒である。J R奥羽本線赤湯駅から北西約2kmの地点の国道113号沿いに位置し、標高は、233.59～233.79mを測る。

本遺跡が所在する南陽市は、山形県南部の置賜地方米沢盆地の北部に位置し、東西15km、南北24km、白鷹山山頂を北端とする三角形の市域をなす。周囲は山々に囲まれ、東に奥羽山脈、南に吾妻連峰、北に白鷹丘陵、南西に飯豊連峰、北西に朝日連峰を望む。

市の面積は、約160km²で、北部の山地が70%、南部の平地が30%である。気候は、盆地特有の内陸型気候を示し、寒暖差が大きい。積雪も比較的多く、年間降水量は1500mm前後を測る。

吉野の大窪山を源とする吉野川は、市域を北の丘陵地帯から南の平野部へと貫流している。吉野川は、かつては宮内から沖郷に向かって南流し、平野部西側の漆山を南流する織機川・上無川などと共に複合扇状地である宮内扇状地を形成して、宮崎付近で最上川に合流していた。現在は、宮内から赤湯に向かって東南方向に流れ、高畠町から西流する屋代川と合流した後に大橋付近で最上川に合流している。

宮内扇状地は、吉野川、織機川、上無川などの中小河川的作用によって形成された複合扇状地である。扇状地を流れる各河川の流域には、流路沿いに自然堤防の微高地が形成されており、吉野川流域では、主に沖郷に流れる旧河道に沿って、宮内の関口から沖郷の宮崎までその兩岸に自然堤防がほぼ連続して形成されている。織機川・上無川流域では、梨郷の砂塚から沖郷の坂井まで河川の流路に沿って広範囲に自然堤防の広がりがみられる。

遺跡の所在する蒲生田地区は、宮内扇状地の扇中央部に位置し、吉野川の旧河道が地区のやや東側を南流し、その兩岸の自然堤防上に集落を形成している。元は宮内新田と言い宮内に属していたが、地区名を蒲生田に改め現在は沖郷に属している。地区内を飯詰堰と厨川堰が南流している。

遺跡は、吉野川旧河道右岸の自然堤防上に立地し、蒲生田館本丸跡から北西へ約400m、郡衙の推定地区で

ある郡山地区からは北へ約2kmで、遺跡の現況は水田である。今次調査区の中央部を旧吉野川の支流のひとつが北西から南へ流れていたものと思われる。蒲生田館は、現在水田及び果樹園となっており、本丸、北曲輪・西曲輪・南曲輪・根小屋等があったが、現在は本丸と水堀が残る。本丸の北西に築城者蒲生賞積の菩提を弔うとされる安養寺が位置する。

2 歴史的環境

清水上遺跡の所在する南陽市では、平成26年度現在で257箇所の遺跡が確認されている。

旧石器時代の遺跡は、長岡山丘陵に立地する長岡山遺跡とその東側に位置する長岡山東遺跡が知られており、後期旧石器時代に属するとみられるナイフ形石器がみつかっている。

縄文時代の遺跡は、市内に広く分布している。縄文草創期の遺跡は、長岡山遺跡、北町遺跡、松沢遺跡が知られている。早期から中期の遺跡は数が多い。早期の遺跡では、大野平遺跡、月ノ木B遺跡、上大作遺跡が発掘調査されており、前期の遺跡では、総合公園内遺跡群、中期の遺跡では、長岡山遺跡、長岡山東遺跡、百刈田遺跡等で発掘調査が実施されている。後期・晩期の遺跡は、数が少なくなる傾向にあり、石畑遺跡、加藤屋敷遺跡等で発掘調査が実施されている。

弥生時代の遺跡は、宮内扇状地の扇中央部の旧吉野川沿いの自然堤防上に多く立地している。旧吉野川の上流から下流へ、中期の円田式や後期の天王山式並行の土器が出土した沢田遺跡、中期の土器と石包丁が採集された萩生田遺跡と続き、さらに1km下流の百刈田遺跡では、十数基の中期の再葬墓が確認されている。織機川沿いでは、中期の円田式の土器が採集された東高堰遺跡や大仏遺跡、中期の桜井式の土器が表採された掛在家遺跡、後期の竪穴住居跡が発見された庚壇遺跡等が知られ、扇状地中央部の自然堤防を中心に弥生時代の集落が展開していたものと思われる。

古墳時代の遺跡は、旧吉野川や織機川沿いの自然堤防上、長岡山丘陵などの独立丘陵上、扇状地の北東部、東部、西部の丘陵の尾根や斜面に立地し、奈良時代の終末期古墳も宮内扇状地北東に位置する山々の枝尾根の南斜

面に分布している。

古墳は、平成26年度現在で終末期古墳を含め106基の存在が確認されており、古墳が50基、方形周溝墓24基、終末期の横穴式古墳32基となっている。

前期の古墳では、前方後方墳の蒲生田山3号墳・4号墳と前方後円墳の蒲生田山2号墳、方墳及び方形周溝墓が10余基確認された大塚遺跡、円墳が3基確認された天王遺跡、4世紀後半に築かれた県内最大の前方後円墳である国指定史跡稲荷森古墳等があり、長岡山遺跡でも長岡山丘陵上に4基の方形周溝墓が確認されている。5世紀代には、経塚山古墳群、天王山古墳群、稲荷山古墳群等が扇状地西部の山々の尾根に築かれている。大谷地東側の松沢赤石山の急斜面に立地する松沢古墳群は、5世紀末～6世紀前半の合掌型石室を持つ積石塚古墳である。集落は、旧吉野川沿いの自然堤防上に立地する沢田遺跡や百刈田遺跡等、沖郷地区を中心として広い範囲に存在したと考えられる。

奈良・平安時代の遺跡は、主に宮内扇状地の自然堤防上に立地し、唐越遺跡、中落合遺跡、沢田遺跡、庚壇遺跡、檜原遺跡、西中上遺跡、矢の目館跡、沢口遺跡、植木場一遺跡、富貴田遺跡や宮内扇状地北西部の丘陵地に立地する平野古窯などが確認されており、発掘調査が実施された遺跡も多い。本市一帯は、平安時代には赤井郷・宮城郷と呼ばれ、「郡山」という地名から沖郷地区には古代置賜郡衙があったとみられている。郡庁の所在地は未確認であるが、沢田遺跡を中心に郡山遺跡群と称される濃密な遺跡群が広がり、周辺に広大な条里制が敷かれていることから、郡庁はこの周辺に存在したと考えられている。中落合遺跡や唐越遺跡の発掘調査では区画施設を有する官衙的な建物群が検出され、置賜郡衙の関連施設か末端官衙とみられる。郡山周辺は小河川が鳥足状に流れ、その間に微高地が点在する地形となっていることや広範囲に広がる遺跡の状況から郡衙機能を分散配置している可能性もある。中落合遺跡や唐越遺跡では、条里制の区画に影響された遺構配置が見られる。清水上遺跡のある蒲生田地区は沖郷条里制の条里水田が明瞭に残されていた地区にあたる。

中世の遺跡は、多くの城館址が確認されている。最上氏と伊達氏、上杉氏の領国の境にあたる吉野地区や中川地区には特に城館址が多いが、宮内扇状地内でも自然堤防上や北部の山地との境付近に多くの城館址が立地している。旧吉野川の両岸には、蒲生田館、若狭郷屋敷、中屋敷、中落合館等が立地し、独立丘陵上には、長岡山館、柵塚館等が立地している。扇端部を流れる最上川沿

いには、大橋城、畿内城、宮崎館、梨郷南館等が立地している。山沿いでは、二色根館、宮沢城、漆山館、片岸館、梨郷上館等が立地している。発掘調査が実施された遺跡としては、単郭方形館と考えられる屋敷跡を検出した鶴ノ木館跡や方形館を検出した天王遺跡等がある。

調査地の東南に位置する蒲生田館跡は、長軸350m、単軸230mである。本丸は、蛤形で水堀は幅10～20m、本丸は南北120m、東西90mほどである。城主は、蒲生飛弾守氏郷（東置賜郡史）と蒲生右近大夫賞積（沖郷村史）の2説がある。



第1図 南陽市遺跡位置図
遺跡位置図(国土地理院発行2万5千分の1地形図「赤湯」「羽前小松」使用)

表1 遺跡位置図

番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	清水上	墳墓・集落跡	古墳・平安	61	庚壇	集落跡	縄・弥・古・奈～平
2	北館	館	中世	62	北前	散布地	縄文
3	宮沢城	館、城館	中世	63	長瀬館	館	中世
4	宮内南館	館	中世	64	檜原	散布地	平安
5	慶海山館	館	中世	65	中落合	古墳・集落地	古墳・奈良～平安
6	双松公園内	散布地	縄文・奈良～平安	66	中落合館	館	中世
7	館山	散布地	縄文・奈良～平安	67	梅ノ木	散布地	奈良～平安
8	別所山経塚	経塚	平安(保延6年)	68	井戸尻	散布地	奈良～平安
9	別所A	散布地	平安	69	萩生田	集落跡・散布地	弥生・奈良
10	別所B	散布地	縄文	70	上河原	散布地	平安
11	宮内熊野大社敷地内	散布地	縄文・平安	71	島貫	集落跡	奈良～平安
12	宮内小学校敷地内	集落跡	縄文	72	沢田	集落跡	奈良～平安
13	久保	集落跡	縄文	73	前畑	散布地	平安
14	丸山館	館	中世	74	矢ノ目館	集落跡・館	奈良～平安・中世
15	漆山館	館	中世	75	諏訪前	古墳・集落跡	縄文・古墳・平安
16	漆山(学校下)	集落跡	縄文	76	東六角	散布地	縄文・平安
17	漆山	集落跡	縄文	77	李の木	包蔵地	平安
18	大根在家	散布地	平安	78	柗塚館	館	中世
19	高山原	集落跡	縄文・平安	79	柗塚館ノ山	集落跡・館	縄文・中世
20	漆山	集落跡	縄文	80	西畑	散布地	平安
21	西田中	散布地	縄文	81	馬ノ墓	散布地・古墳	古墳・奈良～平安
22	東高堰	散布地	弥生	82	大塚	古墳・集落跡	縄・古・奈～平
23	富貴田	集落跡	縄文・奈良～平安	83	六角壇	散布地	奈良～平安
24	斎藤館	館	中世	84	西中上	集落跡	奈良～平安
25	猫子前	散布地	縄文・奈良～平安	85	将監屋敷	散布地	奈良～平安
26	馬場	馬場	中世	86	長割	散布地	古墳
27	大清水	散布地	縄文・平安	87	西原東	集落跡	奈良～平安
28	久根崎	集落跡	縄文	88	沢口	集落跡	奈良～平安
29	源兵平	散布地	縄文・平安	89	百川田	集落跡・墓跡	縄・弥・古・奈～平・中・近
30	源兵工山	散布地	縄文・古墳	90	前小屋	散布地	縄文
31	内原三	散布地・古墳	古墳	91	間々ノ上	散布地	奈良
32	蒲生田山古墳	古墳	古墳	92	早稲田	散布地	奈良
33	山居沢山D	包蔵地	平安	93	長岡山	集落跡	石・縄・古・奈～平
34	山居沢山B	古墳	古墳	94	長岡館	館	中世
35	山居沢山A	散布地	平安	95	長岡山東	散布地	縄文・古墳・平安
36	山居沢山C	散布地	平安	96	稻荷森古墳	散布地・古墳	旧石・縄・古・平
37	大仏	散布地	縄文	97	長岡西田	散布地	縄文
38	天王	集落跡・古墳	古・奈～平・中	98	長岡南森	散布地	縄文・古墳・平安
39	木之美小屋	散布地	奈良～平安	99	太子堂	散布地	平安
40	東弁天	散布地	縄文	100	露橋A館	館	中世
41	蒲生田館	館跡	中世	101	植木場一	古墳・集落跡・館	古墳・平安・中～近世
42	蒲生田館南	散布地	縄文・奈良～平安	102	宮崎館	館	中世
43	当時作	散布地	縄文・平安	103	冨塚	散布地	古墳
44	若狭郷屋敷	館	中世	104	沖田館	館	中世
45	中屋敷	散布地	奈良～平安	105	沖田	散布地	平安
46	西田	散布地	縄文・奈良・平安	106	寺田	散布地	奈良・平安
47	観音堂	散布地	縄文・平安	107	大屋敷	散布地	平安
48	唐越	集落跡	縄文・奈良～平安	108	畿内城館	館	中世
49	東唐越館	館	中世	109	畿内田	散布地	平安
50	上野	集落跡	縄文・平安・中～近世	110	南屋敷館	館	中世
51	狸沢山古墳群	古墳	弥生・古墳	111	亀屋敷	散布地	平安
52	二色根館	館	中世	112	中ノ目下	散布地	奈良～平安
53	二色根古墳群	古墳	古墳	113	内城館	館	中世
54	横沢	散布地	縄文・奈良	114	鶯ノ木館跡	集落跡・城館跡	古墳・平安・中～近世
55	上野山古墳群	古墳	弥生・古墳	115	熊の前館	館	中世
56	中野山館	館	中世	116	水上	散布地	奈良・平安
57	上ノ山	散布地	縄文	117	東畑A	集落跡	奈～平・近世・近代
58	烏帽子山経塚	経塚	平安	118	東畑B	散布地	平安
59	烏帽子山古墳	古墳	古墳	119	俎柳館	館	中世
60	上野山館	館	中世				

III 遺跡の概要

1 検出遺構

清水上遺跡はJ R赤湯駅から北北西の方向約2.5km地点に位置する。調査区は東西約35m×南北30m、1,050㎡の範囲で、調査以前は稲作の圃場として利用されていた(第2図)。

今回の調査で、主な遺構として、方形周溝2基、竪穴住居跡6棟、掘立柱建物跡14棟、道路側溝とみられる溝跡2本などが確認され、調査面積に対し遺構密度が非常に高い。

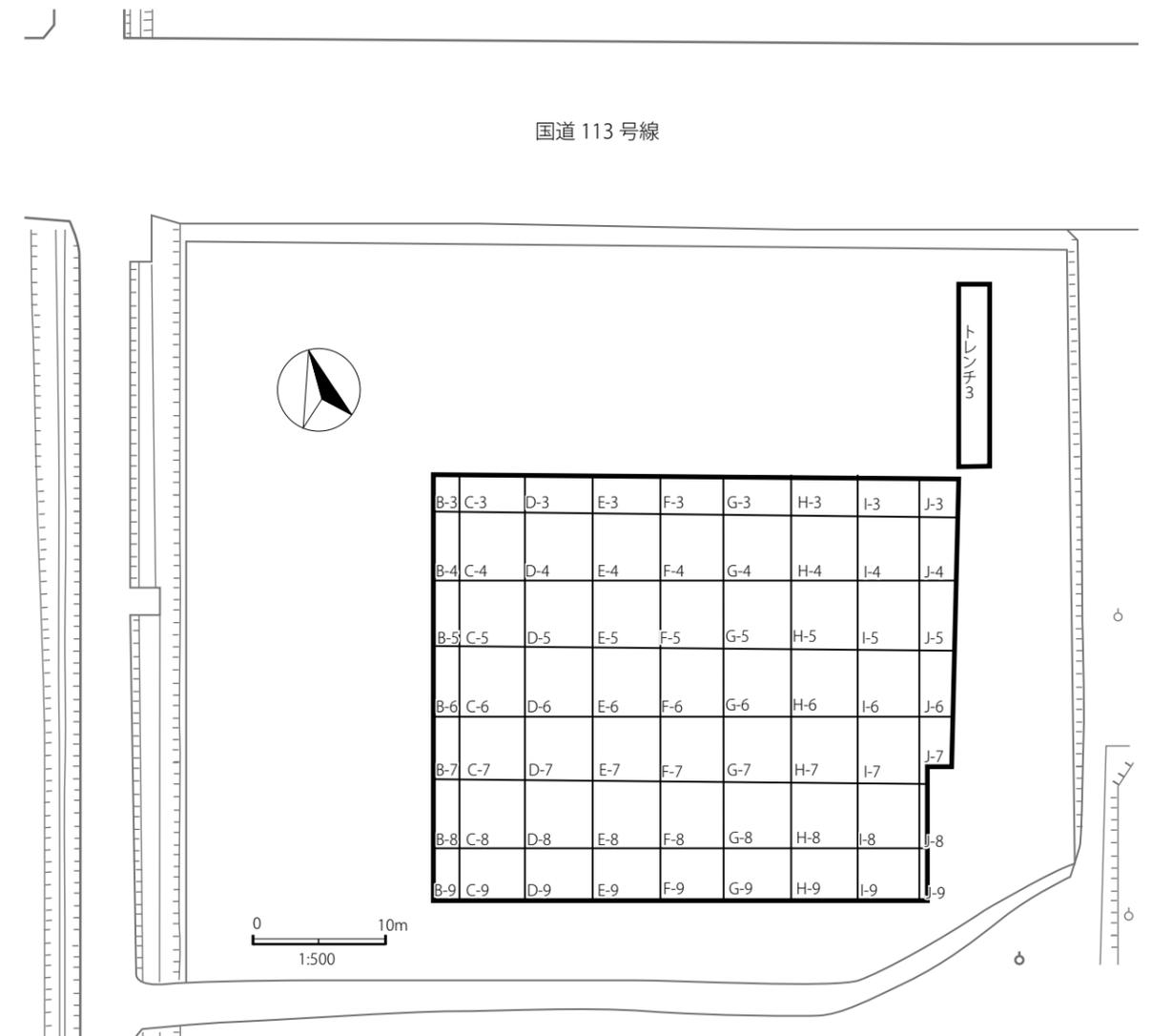
ただし、基本層序に示したとおり、耕作土40～

60cm直下は遺構検出面であり、圃場整備などで遺構自体も大きく削平されている(第3図)。

なお、遺構個別の規模、向きなどの詳細は遺構観察表(表2・3)に記載し、本文中では省略する。

SH3方形周溝跡(第5図)

調査区北東端隅で検出された。北東調査区外に試掘トレンチを入れたところ北角が確認できたことから一辺4m程度の方形周溝であることが判明した。溝幅は40～50cm、溝深は10cm程度のみと削平されてい



第2図 調査区グリッド配置図

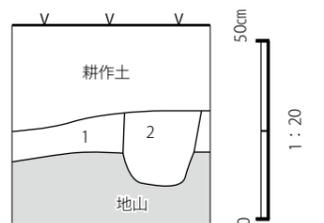
ることから残存状態は良好とはいえない。しかし、溝底部が比較的平らなことから方形周溝の一部とみられる。墳丘の存在も削平されているため不明。遺物の出土はなかった。

SH4 方形周溝跡 (第6図)

調査区中央北側に位置する。北東辺は検出出来なかったが、SH3との位置関係を考えれば一辺12m程度の方形周溝跡と考えられる。また西角は旧河川跡にかかっていることから水流により削られたものとみられる。墳丘は削平されているため不明である。溝は底面が比較的平坦なU字の形状を呈しているが、削平が著しく南辺は深さ30cm、他の部分については10cm弱を残すのみである。溝幅は50~110cmと場所によりややばらつきがみられる。この周溝の特徴として挙げられるのは、南角で周溝が一旦途切れていること、そしてその西側で溝が極端に深くなっていることから、この部分に関して陸橋の可能性を考慮したい。遺物は古墳時代前期~中期の土師器、奈良時代の土師器や須恵器などが出土している(第28図)。

ST1 竪穴住居跡 (第7図)

調査区南東端で検出された。ST2と重複しているがプラン検出段階の状況および切り合いからST1がST2より新しいと考えた。内部施設について、南壁にはカマドが確認され、カマド周辺からは土師器甕、須恵器坏などが良好な状態で出土している(第8図・巻頭写真1・写真図版9)。カマド内部および周辺には堅く粘土床が貼られ、被熱のためか橙色に変色していた。またカマド内部に小型甕(29-5)が逆位で

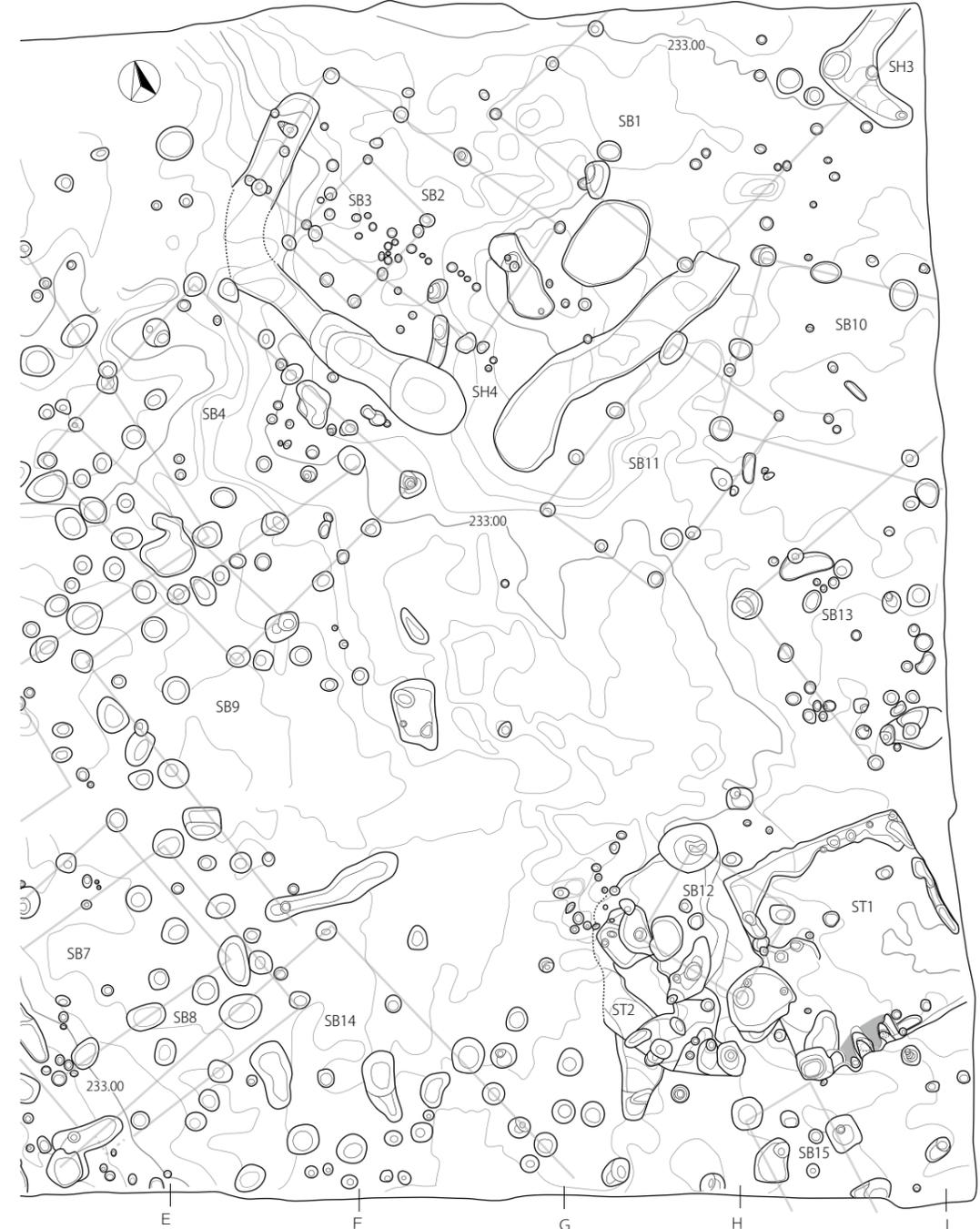


基本層序
 1 10YR3/1 黒褐粘土 細砂ブロック状に入る
 2 10YR2/1 黒粘土 細砂ブロック状に入る

第3図 清水上遺跡基本層序



(グリッド)



0 5m
 1:160

第4図 清水上遺跡遺構配置図

埋設固定されていたことから支脚として使用されたものとみられる（写真図版 8）。記録調査後カマドを外したところその下からピット 1 基ずつ計 2 基を検出した。カマドのソデ内部にはソデ石などの基材はなかった。また住居内北東側に周溝が廻るが、その覆土は堅くしまった砂利である。主柱穴は北側 2 か所は確認出来たものの南側 2 か所に関しては確認できなかった。E K 2 について調査中は S T 1 の貯蔵穴としてみなしてきたが、形状や間隔からその南側に並ぶ E P 1、E P 2 と同時期の柱穴とみるのが自然であり、S B 14 の一部として報告することにした。

出土遺物は奈良時代～平安時代初期に属するとみられる土師器・須恵器が中心であるが、古墳時代前期の土師器も多数混入している。また粘板岩製の紡錘車（30 - 15）のほか、高台坏底部を加工転用し紡錘車とした可能性のある土師器坏 2 点（30 - 11・31 - 21）が出土しているのもこの住居跡の特徴であろう。

S T 2 竪穴住居跡（第 9 図）

この竪穴住居跡は東側が S T 1 と S B 11 によって破壊されているとともに西角が河川から浸食されたとみられ、正確な形状は不明である。しかしカマドの位置や貼り床の範囲からある程度の住居跡の範囲や方向を推測した。カマドについて破壊されているもののカマドのソデの一部と焼土が確認できたこと、またカマド脇から支脚もしくは転用支脚とみられる小型甕が 3 点重ねられた状態で出土している（第 10 図・写真図版 11）。そのことからこの場所について火を使用した場所であると推測できる。また、支脚はカマド脇の堅くしめられた粘土の台のような場所に据えられている。

S T 2 内には S T 2 よりも新しい柱穴 E K 1・2・3（S B 11）が確認されている。なお、E K 1 からは土器と礫が出土しているが（写真図版 12）、何らかの目的で石込めされたものとみられる。

出土遺物について、奈良時代～平安時代の土師器・須恵器、および古墳時代前期の土師器が出土している。S T 2 の特徴として複数個体の土師器甕破片が覆土中層から出土している（第 10 図・写真図版 11）。この部分は S B 11 柱穴に囲まれた範囲であり興味深

表 2 清水上遺跡 遺構観察表（1）

SH3	軸方向 規模（一辺） 墳丘 備考	N-38° -W 4.0 ? 不明 東半は調査区外	
SH4	軸方向 規模（一辺） 墳丘 備考	N-40° -W (最大) 11.9 不明 南角に陸橋? 北東辺削平	
ST1	長軸方向 規模 (m) カマド方向 備考	N-6° -W 5.5 × 5.0 南向き カマド良好な 状態で残存	
ST2	長軸方向 規模 (m) カマド方向 備考	N-20° -W ? 不明 南向き 削平著しい為 遺構全体形状 不明 ST1 より古い	
ST347 ST348	長軸方向 規模 (m) カマド方向 備考	N-8° -W 3.0 × 3.5 4.2 × 4.0 南向き ST347 → (拡張) → ST348	
ST350	長軸方向 規模 (m) カマド方向 備考	N-70° -E 3.5 × 2.5 不明 削平著しい	
ST356	長軸方向 規模 (m) カマド方向 備考	N-70° -E ? 3.3 × 3.0 東向き 円形に近い 小型カマド有 小鍛冶遺構?	
ST359	長軸方向 規模 (m) カマド方向 備考	N 3.6 × 3.3 不明 削平著しい ST360 より新 しい	
ST360	長軸方向 規模 (m) カマド方向 備考	N-2° -E 3 × 3.2 ? 不明 削平著しい	

表 3 清水上遺跡 遺構観察表（2）

SB1	長軸方向 規模 (m) 構造 (柱間) 備考	N-26° -W 7.5 以上 × 5.0 2 × 3 ? 備考	
SB2	長軸方向 規模 (m) 構造 (柱間) 備考	N-37° -W 7.0 × 3.6 3 × 2 備考	
SB3	長軸方向 規模 (m) 構造 (柱間) 備考	N-58° -E 2.8 × 2.4 2 × 1 備考	
SB4	長軸方向 規模 (m) 構造 (柱間) 備考	N-25° -W 7.2 × 4.8 3 × 3 南面底有 ?	
SB5	長軸方向 規模 (m) 構造 (柱間) 備考	N-10° -W 10.7 × 4.8 3 × 2 備考	
SB6	長軸方向 規模 (m) 構造 (柱間) 備考	N-15° -W 5.5 × 5.0 3 × 3 備考	
SB7	長軸方向 規模 (m) 構造 (柱間) 備考	N-15° -E 5.0 × 4.6 3 × 2 備考	
SB8	長軸方向 規模 (m) 構造 (柱間) 備考	N-20° -E 6.0 × 5.2 2 × 2 ? 備考	
SB9	長軸方向 規模 (m) 構造 (柱間) 備考	N-22° -W 不明 3 × 2 以上 備考	
SB10	長軸方向 規模 (m) 構造 (柱間) 備考	N-32° -W 5.5 以上 × 4.5 2 以上 × 2 備考	
SB11	長軸方向 規模 (m) 構造 (柱間) 備考	N-42° -E 5.1 × 3.3 3 × 2 備考	
SB12	長軸方向 規模 (m) 構造 (柱間) 備考	N-40° -E 3.0 × 2.5 1 × 2 ? ST2 内で確認。 数個体の甕を 内部で廃棄 ?	
SB13	長軸方向 規模 (m) 構造 (柱間) 備考	N-22° -W 不明 3 以上 × 2 備考	
SB14	長軸方向 規模 (m) 構造 (柱間) 備考	N-22° -W 不明 不明 備考	
SB15	長軸方向 規模 (m) 構造 (柱間) 備考	N-10° -W 不明 2 × 1 ? E P 1 に柱根 引抜痕あり	

い点である。そしてST2はST1・SB11から攪乱を受けているためやや幅広い時期の遺物が出土しており、時期決定がやや困難な印象を受ける。

ST 347・348 竪穴住居跡 (第11図)

調査区南西端に位置する。後世の削平が著しく遺構は数cm程度残すのみであったこと、遺構が複雑に重複していることから、プラン検出は遺構面の平面観察および断面観察によるプラン確定を行った。小規模のものをST347、ひとまわり大きいものをST348とし、検出プランと覆土の断面観察からST348が新しいと判断した。この2棟については周溝は大小2本確認されたものの、カマドと思われる部分が1か所であることから、ST347がなんらかの理由により手狭になり拡張したものがST348だったのではないかと推測される。ST347には北側に支柱穴2基が確認できたが、それ以外は攪乱のため詳細は不明である。

出土遺物は8世紀後半～末頃の土師器・須恵器、および古墳時代前期の土師器とみられる(第38図)。

ST 350 竪穴住居跡 (第12図)

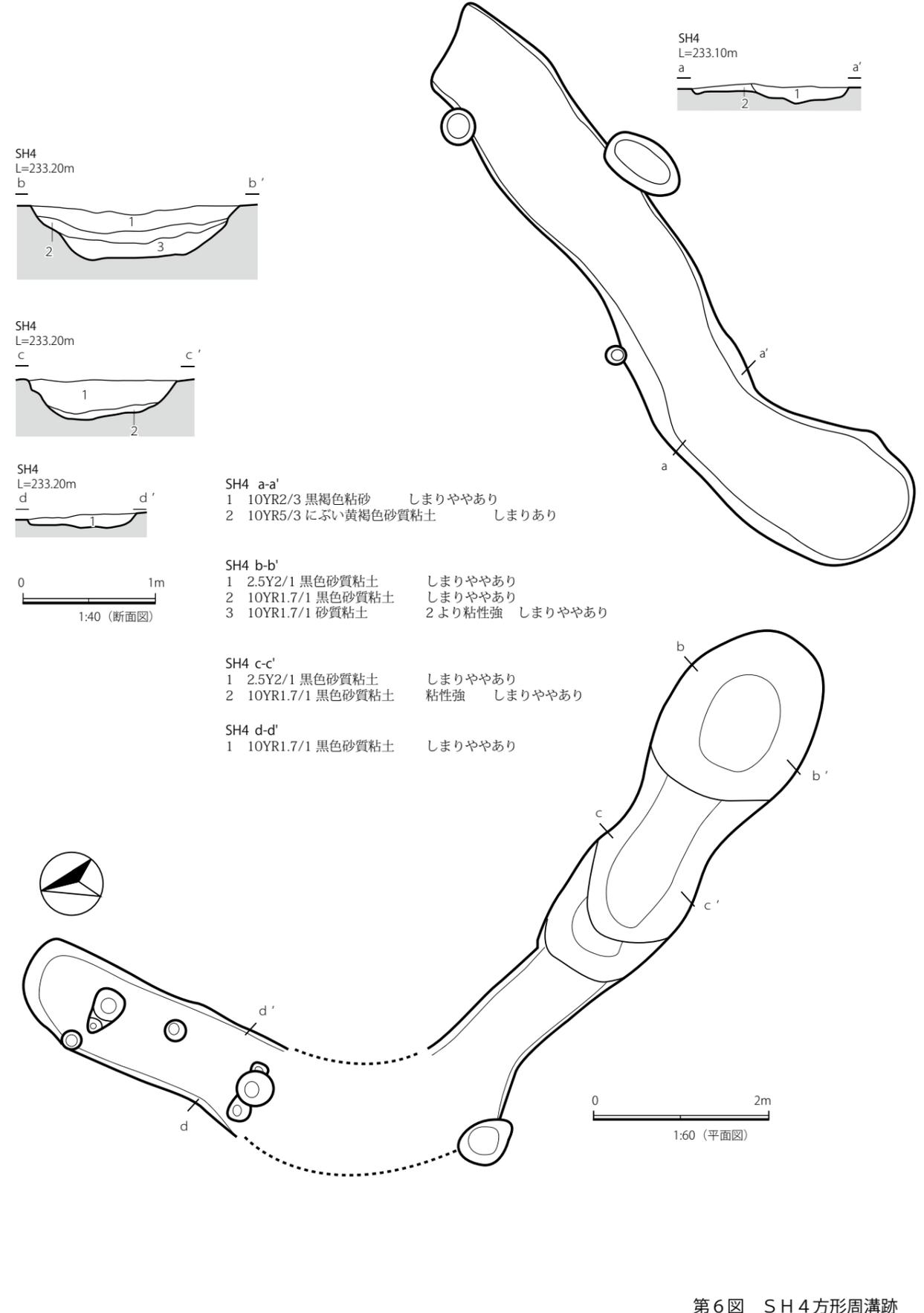
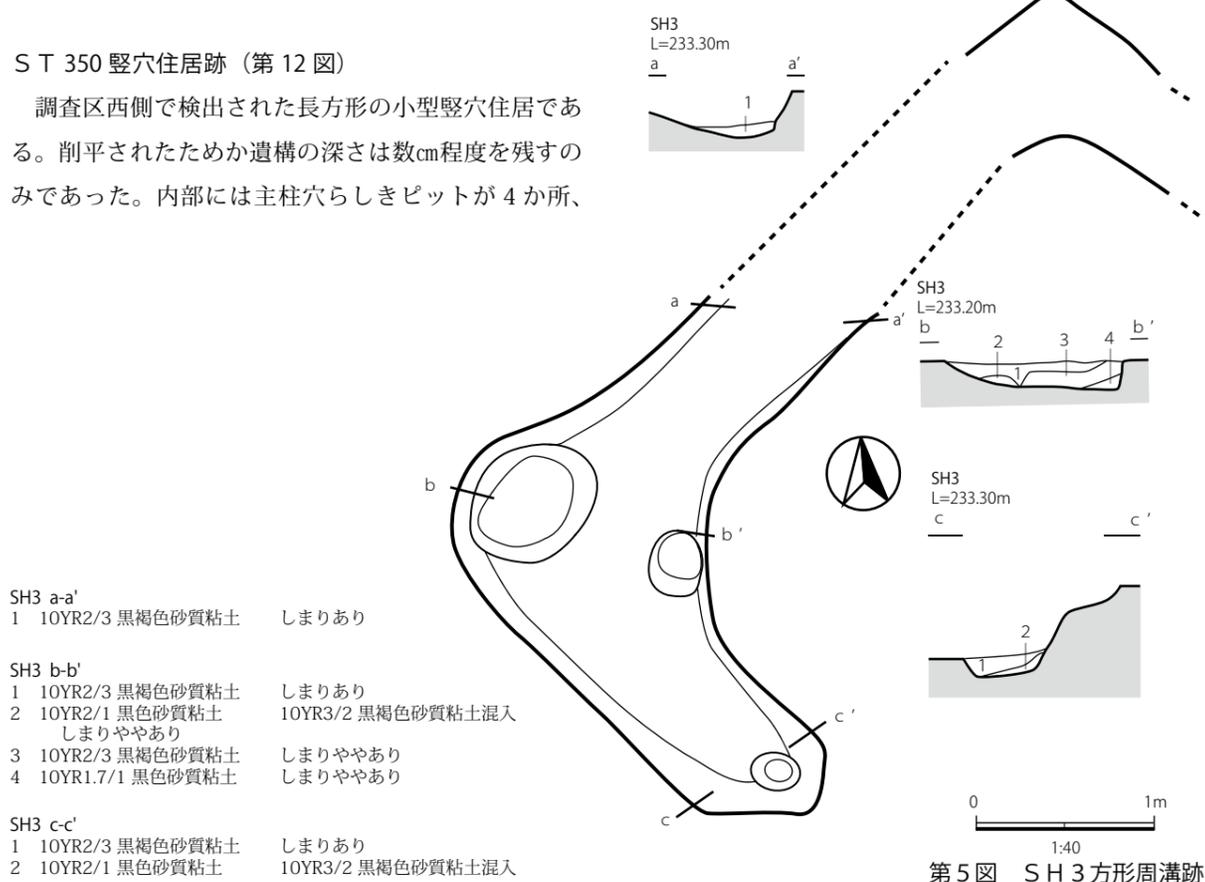
調査区西側で検出された長方形の小型竪穴住居である。削平されたためか遺構の深さは数cm程度を残すのみであった。内部には支柱穴らしきピットが4か所、

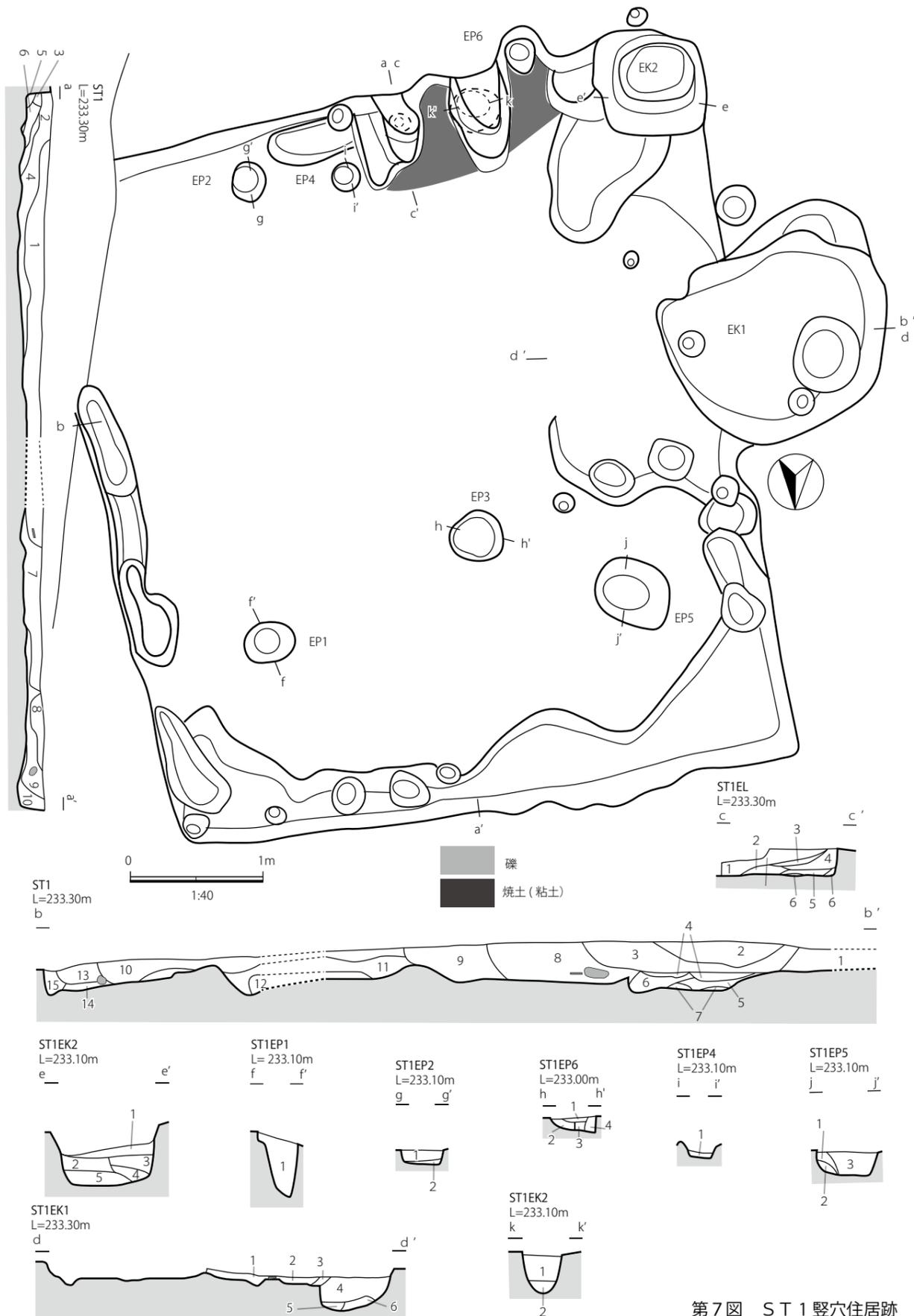
壁際および住居中央南北方向二列に小型のピットが並んでいる。構造からみて住居用建物とは考えにくい。

出土遺物は縄文土器1点のみである(第37図)。しかしながら隣接するST356と同方向をむいて建てられることから、ST356と同時期の建物の可能性は十分考えられる。

ST 356 竪穴住居跡 (第12図)

調査区西側ST350の北隣で検出された。プランは六角形に近い不整形である。内部施設について、東向き的小型のカマドおよび煙道が確認された。同遺跡内で確認された住居内カマドと比較して粘性の強い白色粘土を使用している特徴を持つ(第13図)。また竪穴覆土第2層を中心に礫が込められているが、地山を床面とせず、礫を当時の使用面と考えるとカマドとの高さ、隣接するST350との床面の高さに違和感が少ない(写真図版16)。柱穴は南側2基に対し北側は5基である。建物北西側には階段的な段差が数段





第7図 ST1 竪穴住居跡

ST1 a-a'

1	10YR3/2 黒褐色砂質粘土	砂多い しまりややあり
2	10YR3/2 黒褐色砂質粘土	7.5YR5/6 明褐色の焼けた粘土含む しまりややあり
3	5YR3/1 黒褐色砂質粘土	7.5YR5/6 明褐色の焼けた粘土含む しまりややあり
4	5YR3/3 暗赤褐色	7.5YR5/6 明褐色の焼けた粘土多く含む しまりややあり
5	5YR3/4 暗赤褐色砂質粘土	7.5YR5/6 明褐色の焼けた粘土含む しまりややあり
6	7.5YR4/3 褐色砂質粘土	7.5YR5/6 明褐色の焼けた粘土含む しまりややあり
7	7.5YR3/3 暗褐色砂質粘土	7.5YR5/6 明褐色の焼けた粘土含む しまりややあり
9	7.5YR2/2 黒褐色砂質粘土	しまりあり
10	10YR2/3 黒褐色砂質粘土	しまりあり

ST1 b-b'

1	10YR2/2 黒褐色砂質粘土	しまりなし
2	10YR3/3 暗褐色砂質粘土	橙色斑に混入 しまりなし 礫混入
3	7.5YR2/1 黒色砂質粘土	しまりあり 礫混入
4	10YR2/1 黒色砂質粘土	橙色斑に混入 しまりあり
5	10YR2/2 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
6	10YR2/2 黒褐色砂質粘土	橙色斑に混入 しまりあり
7	2.5Y2/1 黒色砂質粘土	しまりあり 礫混入
8	10YR2/2 黒褐色砂質粘土	橙色斑に混入 しまりあり 礫混入
9	10YR2/3 黒褐色砂質粘土	橙色斑に混入 しまりあり
10	10YR2/1 黒色砂質粘土	しまりややあり
11	10YR2/3 黒褐色砂質粘土	橙色斑に混入 しまりややあり
12	10YR3/2 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
13	10YR2/3 黒褐色砂質粘土	しまりあり
14	10YR2/3 黒褐色砂質粘土	しまりあり
15	10YR2/2 黒褐色砂質粘土	砂利多く入る。橙色斑に混入 しまりあり

ST1EL c-c'

1	7.5YR3/3 暗褐色砂質粘土	橙色斑に混入 しまりややあり
2	7.5YR3/4 暗褐色砂質粘土	しまりややあり
3	10YR4/2 灰黄褐色砂質粘土	白粘土混入 しまりややあり
4	10YR2/3 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
5	10YR4/2 灰黄褐色砂質粘土	白粘土混入 しまりややあり
6	10YR3/3 暗褐色砂質粘土	しまりややあり

ST1EK2 d-d'

1	10YR2/2 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
2	10YR3/1 黒褐色砂質粘土	しまりなし
3	10YR2/3 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
4	10YR2/2 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
5	10YR2/1 黒色砂質粘土	しまりなし
6	10YR3/3 暗褐色砂質粘土	しまりややあり

ST1EK1 e-e'

1	2.5Y2/1 黒色砂質粘土	しまりややあり
2	10YR3/1 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
3	2.5Y3/1 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
4	10YR3/1 黒褐色砂質粘土	白粘土混入 しまりややあり
5	10YR3/3 暗褐色砂質粘土	しまりややあり

ST1SP1 f-f'

1	10YR2/1 黒色砂質粘土	
---	----------------	--

ST1EP2 g-g'

1	10YR3/2 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
2	10YR4/3 にぶい黄褐色砂質粘土	しまりややあり

ST1EP3 h-h'

1	10YR2/1 黒色砂質粘土	しまりややあり
---	----------------	---------

ST1EP4 i-i'

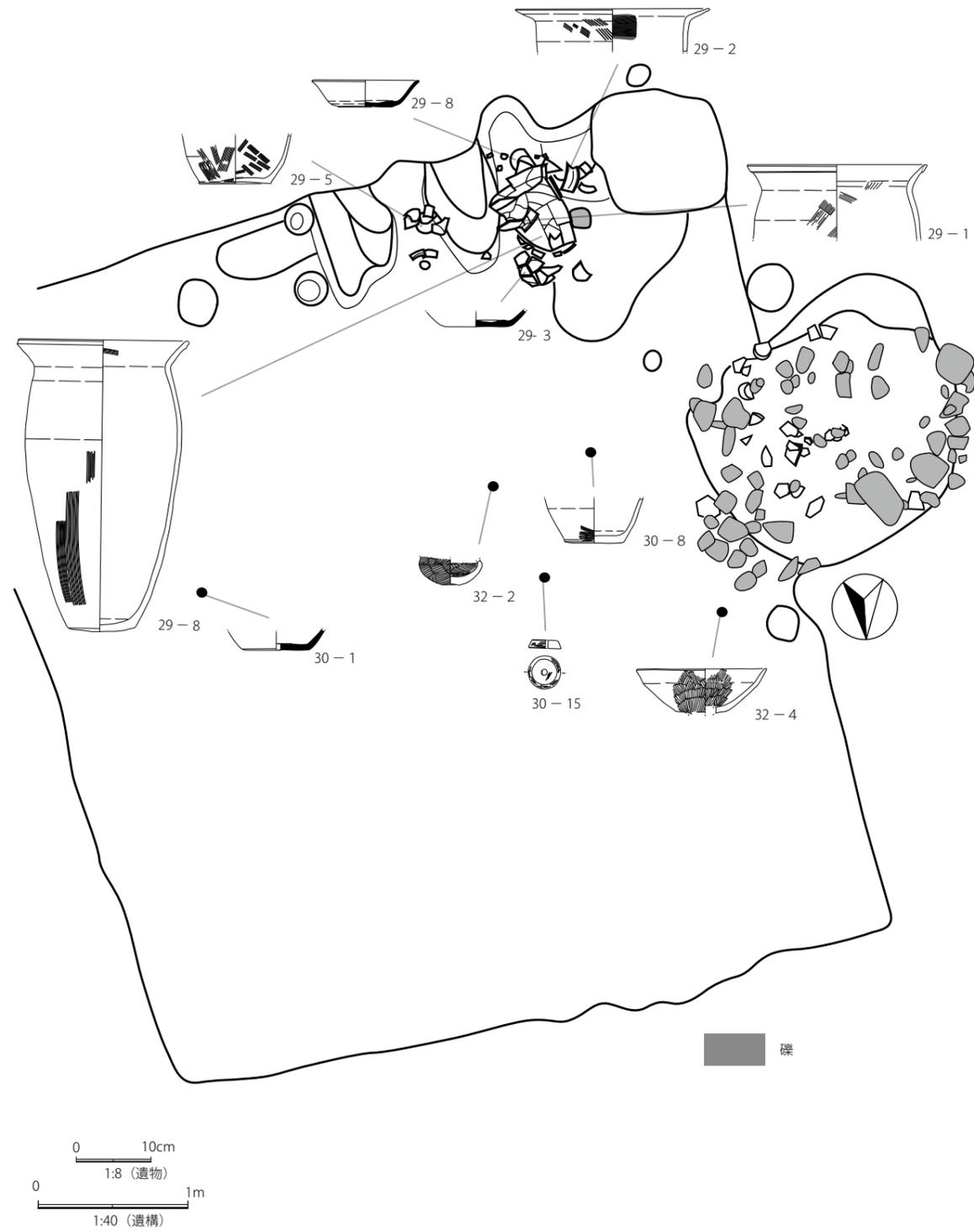
1	10YR3/3 暗褐色砂質粘土	しまりややあり
---	-----------------	---------

ST1EP5 j-j'

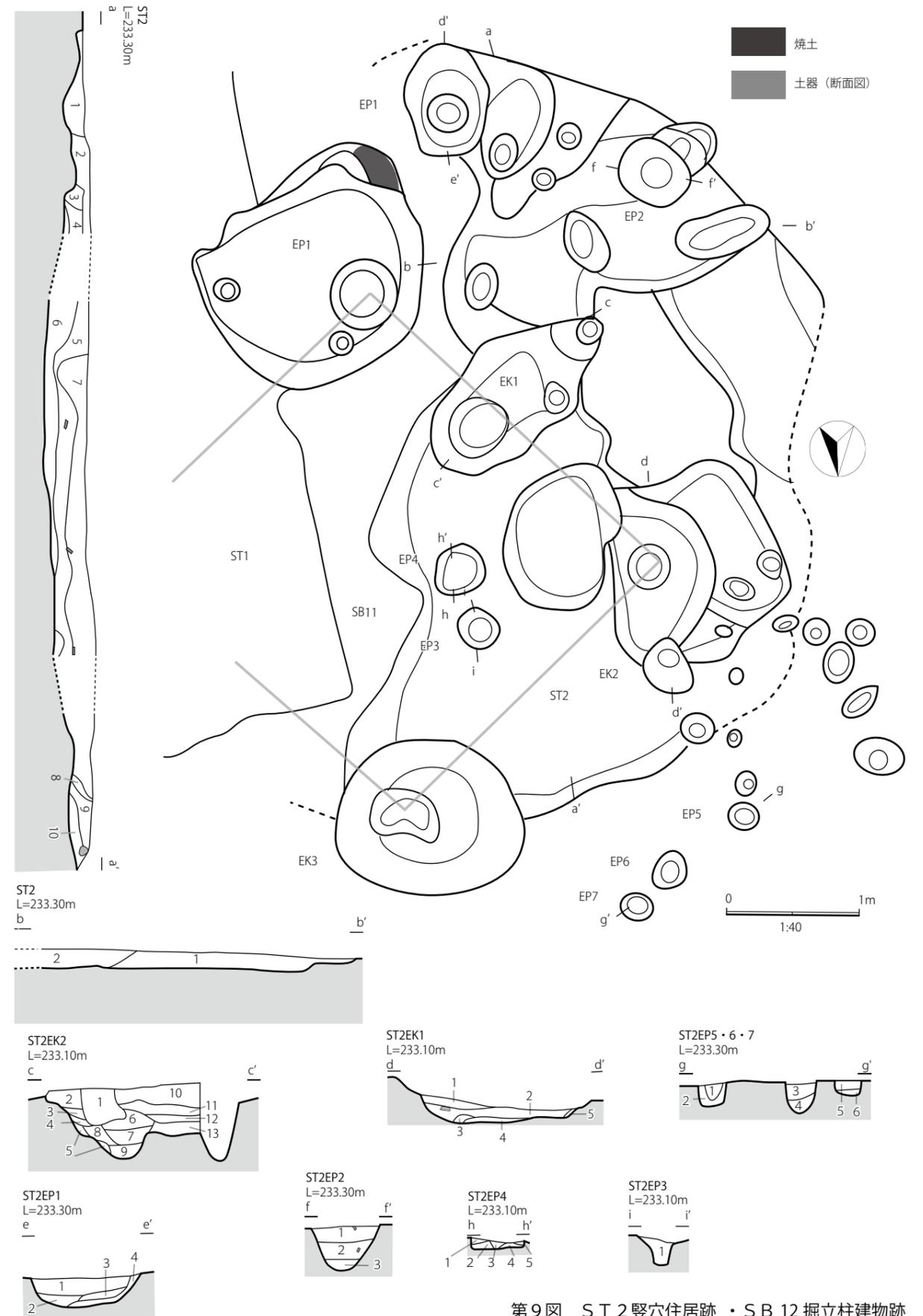
1	10YR2/1 黒色砂質粘土	しまりややあり
2	10YR3/2 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
3	7.5YR2/1 黒色砂質粘土	しまりややあり

ST1EP6 h-h'

1	2.5Y2/1 黒色砂質粘土	しまりややあり
2	10YR3/1 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
3	2.5Y3/1 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
4	10YR3/1 黒褐色砂質粘土	白粘土混入 しまりややあり



第8図 ST1 竪穴住居跡遺物出土状況



第9図 ST2 竪穴住居跡・SB12 掘立柱建物跡

- ST2 a-a'
- | | | | |
|----|-------------------|--------|-------|
| 1 | 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 | しまりあり | |
| 2 | 10YR3/4 暗褐色砂質粘土 | 橙色斑に混入 | しまりあり |
| 3 | 10YR3/4 暗褐色砂質粘土 | 橙色斑に混入 | しまりあり |
| 4 | 7.5YR3/3 暗褐色砂質粘土 | 橙色斑に混入 | しまりあり |
| 5 | 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 | しまりあり | |
| 6 | 7.5YR2/3 極暗褐色砂質粘土 | しまりあり | |
| 7 | 10YR2/3 黒褐色砂質粘土 | しまりあり | |
| 8 | 10YR2/3 黒褐色砂質粘土 | しまりあり | |
| 9 | 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 | しまりあり | |
| 10 | 7.5YR2/2 黒褐色砂質粘土 | しまりあり | |

- ST2 b-b'
- | | | | |
|---|--------------------|---------|--|
| 1 | 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 | しまりあり | |
| 2 | 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質粘土 | しまりややあり | |

- ST2EK2 c-c'
- | | | | |
|----|--------------------------------|-------------------|---------|
| 1 | 10YR2/2 砂質粘土 | しまりややあり | |
| 2 | 10YR2/2 砂質粘土 10YR3/3 暗褐色砂質粘土混入 | しまりややあり | |
| 3 | 10YR2/1 黒色砂質粘土 | 10YR3/3 暗褐色砂質粘土混入 | しまりややあり |
| 4 | 10YR2/1 黒色砂質粘土 | 10YR3/3 暗褐色砂質粘土混入 | しまりややあり |
| 5 | 10YR2/1 黒色砂質粘土 | しまりややあり | |
| 6 | 10YR2/1 黒色砂質粘土 | しまりややあり | |
| 7 | 10YR1.7/1 黒色砂質粘土 | しまりややあり | |
| 8 | 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 | 10YR4/4 褐色粘土混入 | しまりややあり |
| 9 | 10YR4/4 褐色砂質粘土 | しまりややあり | |
| 10 | 10YR2/1 黒色砂質粘土 | しまりあり | |
| 11 | 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 | 10YR4/4 褐色粘土多く混入 | しまりややあり |
| 12 | 10YR2/1 黒色砂質粘土 | しまりあり | |
| 13 | 2.5Y4/2 暗灰黄色粘砂 | 10YR2/1 黒色粘土混入 | しまりややあり |

- ST2EK1 d-d'
- | | | | |
|---|--------------------|---------|--|
| 1 | 2.5Y3/2 黒褐色砂質粘土 | しまりややあり | |
| 2 | 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質粘土 | しまりややあり | |
| 3 | 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 | しまりややあり | |
| 4 | 10YR4/2 灰黄褐色砂質粘土 | しまりややあり | |
| 5 | 10YR3/1 黒褐色砂質粘土 | しまりややあり | |

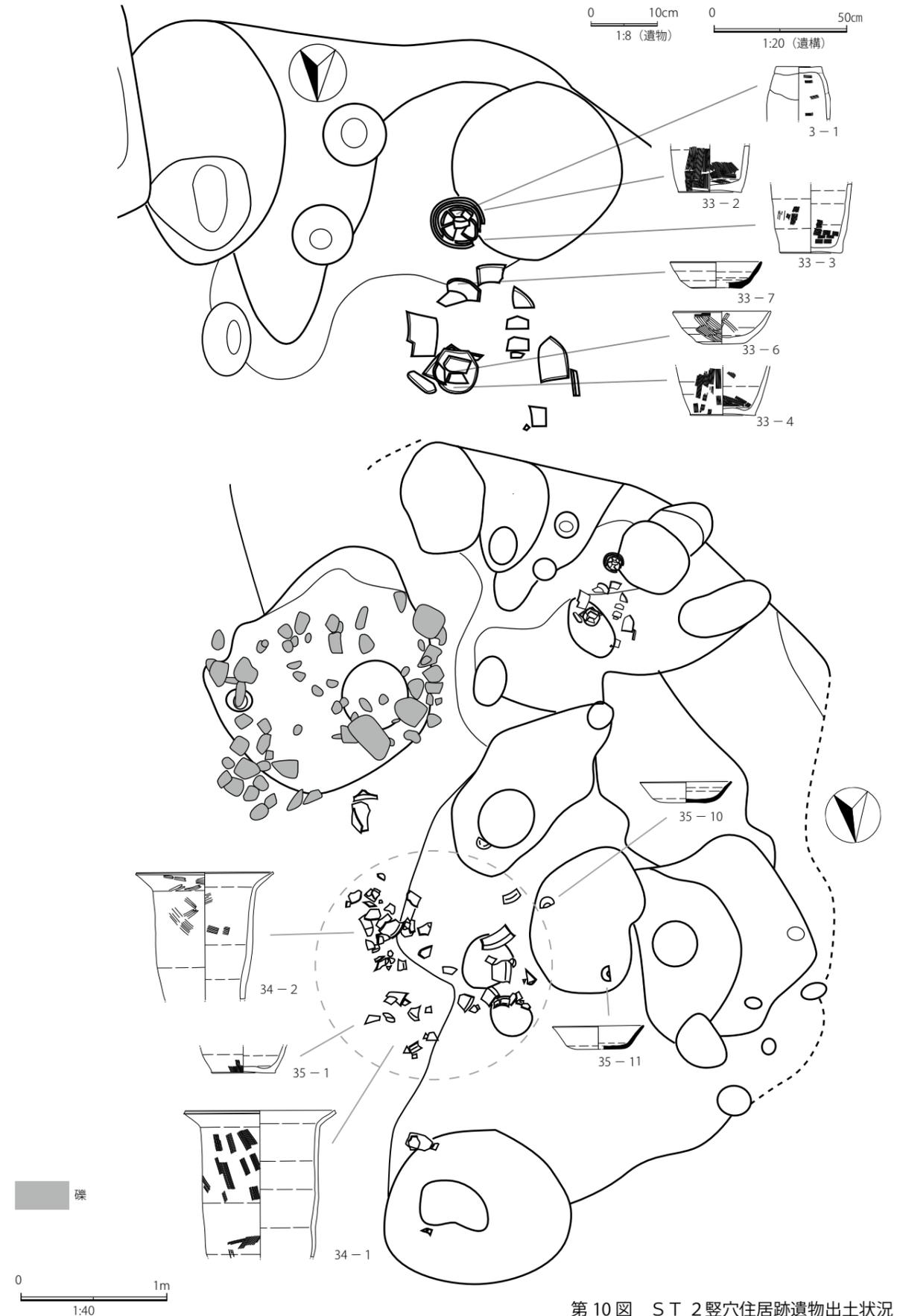
- ST2EP1 e-e'
- | | | | |
|---|-----------------|---------|---------|
| 1 | 10YR3/1 黒褐色砂質粘土 | 橙色斑に混入 | しまりややあり |
| 2 | 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 | 白粘土混入 | しまりややあり |
| 3 | 2.5Y3/1 黒褐色砂質粘土 | しまりややあり | |
| 4 | 2.5Y4/1 黄灰色砂質粘土 | 白粘土混入 | しまりややあり |

- ST2EP2 f-f'
- | | | | |
|---|-----------------|---------|--|
| 1 | 10YR2/1 黒色砂質粘土 | しまりややあり | |
| 2 | 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 | しまりややあり | |
| 3 | 7.5YR2/1 黒色砂質粘土 | しまりややあり | |

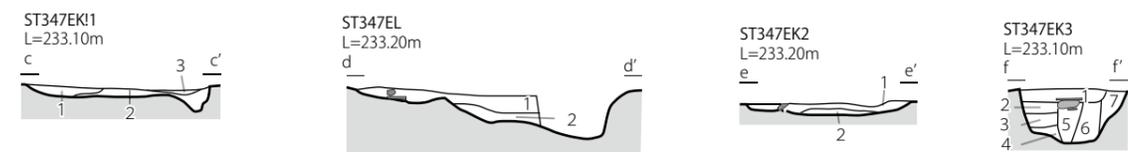
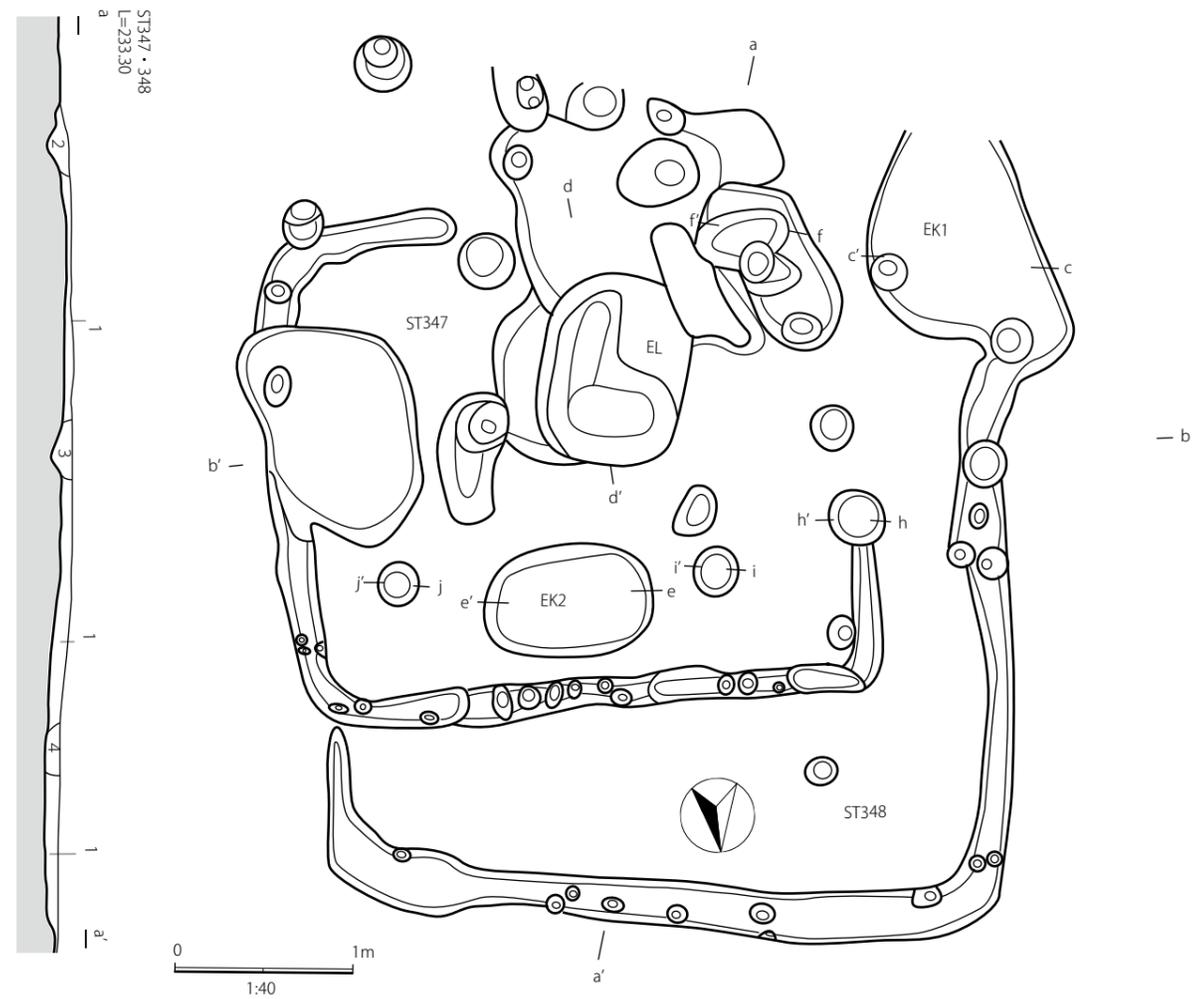
- ST2EP g-g'
- EP5
- | | | | |
|---|-----------------|---------|--|
| 1 | 2.5Y2/1 黒色砂質粘土 | しまりややあり | |
| 2 | 2.5Y3/2 黒褐色砂質粘土 | しまりややあり | |
- EP6
- | | | | |
|---|---------------------|-------|--|
| 1 | 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質粘土 | しまりあり | |
|---|---------------------|-------|--|
- EP7
- | | | | |
|---|--------------------|----------------------|---------|
| 1 | 2.5Y3/1 黒褐色砂質粘土 | しまりややあり | |
| 2 | 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 | 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質粘土混入 | しまりややあり |
| 3 | 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質粘土 | しまりややあり | |

- ST1EP4 h-h'
- | | | | |
|---|-----------------|---------|---------|
| 1 | 2.5Y2/1 黒色砂質粘土 | しまりややあり | |
| 2 | 10YR3/1 黒褐色砂質粘土 | しまりややあり | |
| 3 | 2.5Y3/1 黒褐色砂質粘土 | しまりややあり | |
| 4 | 10YR3/1 黒褐色砂質粘土 | 白粘土混入 | しまりややあり |
| 5 | 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 | しまりややあり | |

- ST2EP3 i-i'
- | | | | |
|---|----------------|---------|--|
| 1 | 10YR2/1 黒色砂質粘土 | しまりややあり | |
|---|----------------|---------|--|



第 10 図 ST 2 竪穴住居跡遺物出土状況



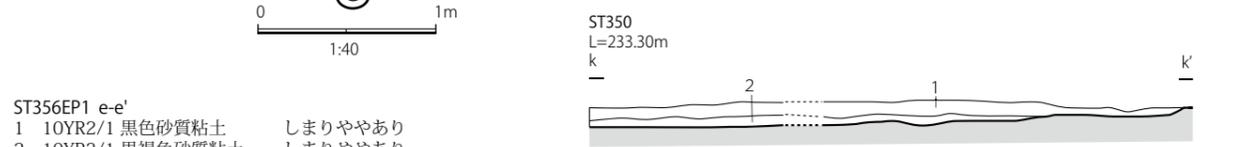
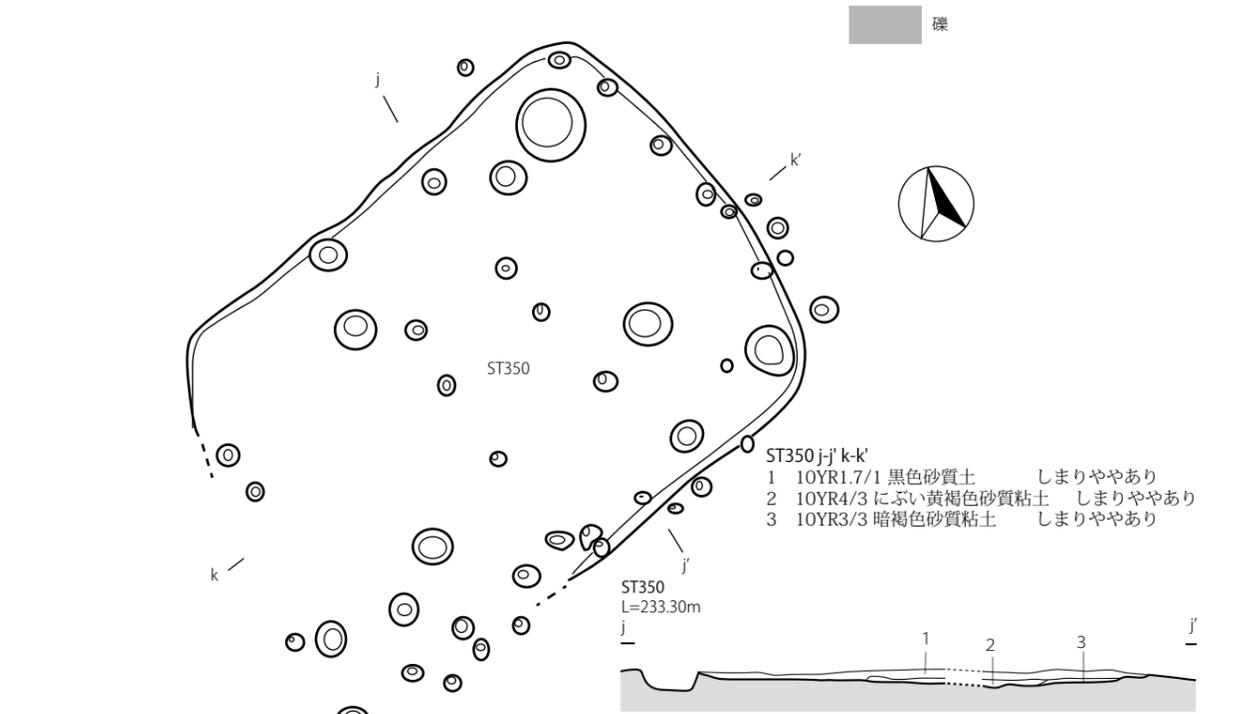
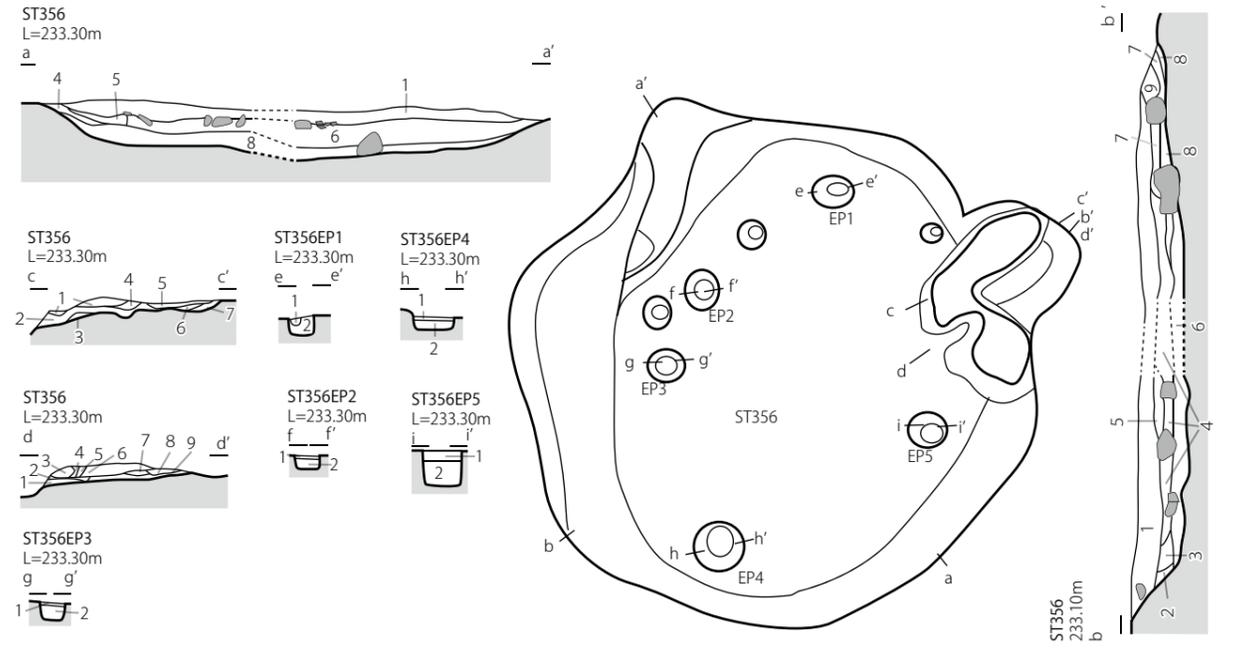
ST347 a-a' b-b'
 1 10YR2/1 黒色砂質粘土 しまりややあり
 2 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 橙色斑に混入 しまりややあり
 3 7.5YR2/2 黒褐色砂質粘土 橙色斑に混入 しまりややあり
 4 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 橙色斑に混入 しまりややあり

ST347EK1 c-c'
 1 10YR2/1 黒色砂質粘土 しまりややあり
 2 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 しまりややあり
 3 10YR2/1 黒色砂質粘土 しまりややあり

ST347EL d-d'
 1 7.5YR2/2 黒褐色砂質粘土 しまりややあり
 2 7.5YR2/1 黒色砂質粘土 しまりややあり

ST347EK3 f-f'
 1 10YR2/3 黒褐色砂質粘土 しまりあり 土器混入
 2 10YR3/4 暗褐色砂質土 しまりあり
 3 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまりややあり
 4 10YR3/4 暗褐色砂質粘土 しまりなし
 5 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 しまりなし 土器混入
 6 10YR2/3 黒褐色砂質粘土 橙色斑に混入 しまりややあり
 7 7.5YR3/2 黒褐色砂質粘土 しまりなし

第 11 図 S T 347・348 竪穴住居跡



ST356EP1 e-e'
 1 10YR2/1 黒色砂質粘土 しまりややあり
 2 10YR3/1 黒褐色砂質粘土 しまりややあり

ST356EP2 f-f'
 1 10YR3/1 黒褐色砂質粘土 しまりややあり
 2 5Y4/2 灰オリーブ色砂質粘土 しまりややあり

ST356EP3 g-g'
 1 10YR2/1 黒色砂質粘土 しまりややあり
 2 5Y4/2 灰オリーブ色砂質粘土 しまりややあり

ST356EP4 h-h'
 1 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 しまりややあり
 2 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 しまりややあり

ST356EP5 i-i'
 1 10YR3/1 黒褐色砂質粘土 しまりややあり
 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質粘土 しまりややあり

ST350 j-j' k-k'
 1 10YR1.7/1 黒色砂質土 しまりややあり
 2 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質粘土 しまりややあり
 3 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 しまりややあり

第 12 図 S T 350・356 竪穴住居跡

ST356 a-a' b-b'

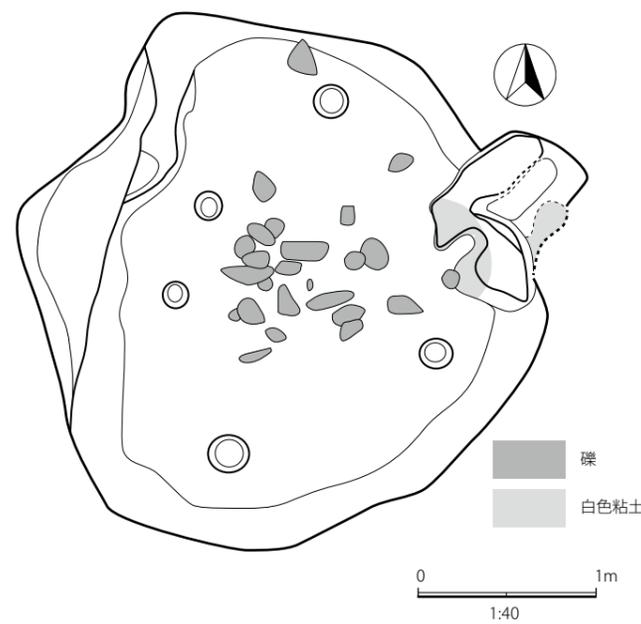
1	10YR2/3 黒褐色砂質粘土	橙色斑に混入	しまりあり
2	10YR2/1 黒色砂質粘土	しまりなし	
3	10YR2/2 黒褐色砂質粘土	しまりなし	
4	10YR2/1 黒色砂質粘土	しまりややあり	
5	7.5YR3/2 黒褐色砂質粘土	しまりややあり	
6	10YR3/4 暗褐色砂質粘土	しまりややあり	
7	10YR3/3 暗褐色砂質粘土	しまりややあり	
8	10YR2/3 黒褐色砂質粘土	しまりややあり	
9	10YR2/2 黒褐色砂質粘土	しまりややあり	

ST356EL c-c'

1	5Y8/1 灰白色砂質粘土	しまりあり	
2	10YR2/2 黒褐色砂質粘土	しまりややあり	
3	7.5YR2/1 黒色砂質粘土	しまりなし	
4	7.5YR5/8 明褐色砂質粘土	しまりなし	
5	10YR3/4 暗褐色砂質粘土	しまりなし	
6	10YR1.7/1 黒色シルト粘土	炭に近い	しまりなし
7	10YR2/2 黒褐色シルト粘土	しまりなし	

ST356 d-d'

1	7.5YR2/1 黒色砂質粘土	しまりややあり	
2	7.5YR2/2 黒褐色砂質粘土	しまりややあり	
3	5Y8/1 灰白色砂質粘土	しまりあり	
4	7.5YR8/4 浅黄褐色砂質粘土	しまりややあり	
5	10YR1.7/1 黒色シルト粘土	炭化物含む	しまりなし
5	10YR3/3 暗褐色砂質粘土	しまりややあり	
6	7.5YR4/3 褐色砂質粘土	橙色斑に混入	しまりややあり
7	7.5YR2/1 黒色砂質粘土	しまりなし	
8	10YR3/4 暗褐色砂質粘土	しまりややあり	
9	7.5YR2/1 黒色砂質粘土	しまりややあり	



第 13 図 S T 356 カマド・敷石検出状況

確認できた。

出土遺物について、須恵器・土師器の坏、鉄滓粒数点、砥石が出土している（第 37 図）。坏の形状から 9 世紀末頃とみられ、鉄滓が少量ながら出土していることなどから鍛冶遺構であろう。建物の規模はそれほど大きくはなく、覆屋に囲われた簡易な小鍛冶遺構と推測される。また S T 350 との関係性についても S T 356 の鍛冶作業関連の物置き場小屋の可能性も考えたい。

S T 359 竪穴住居跡（第 14 図）

調査区北西端に位置する。遺構検出の際、複数の遺構が重複していると思われたが、河川跡の浸食と攪乱、湧水の影響により明確なプラン検出が困難で、遺構面の断面観察を目安に住居跡の範囲を確定した。遺構の深さは 10cm 程度残すのみであるが、北辺・西辺に周溝と 4 基の支柱穴が確認された。

遺物は 9 世紀の須恵器・土師器が出土しているが、体部に饞書き（文字不明）のある須恵器坏（39-5）や耳皿と思われる土師器の一部（39-7）が出土している。

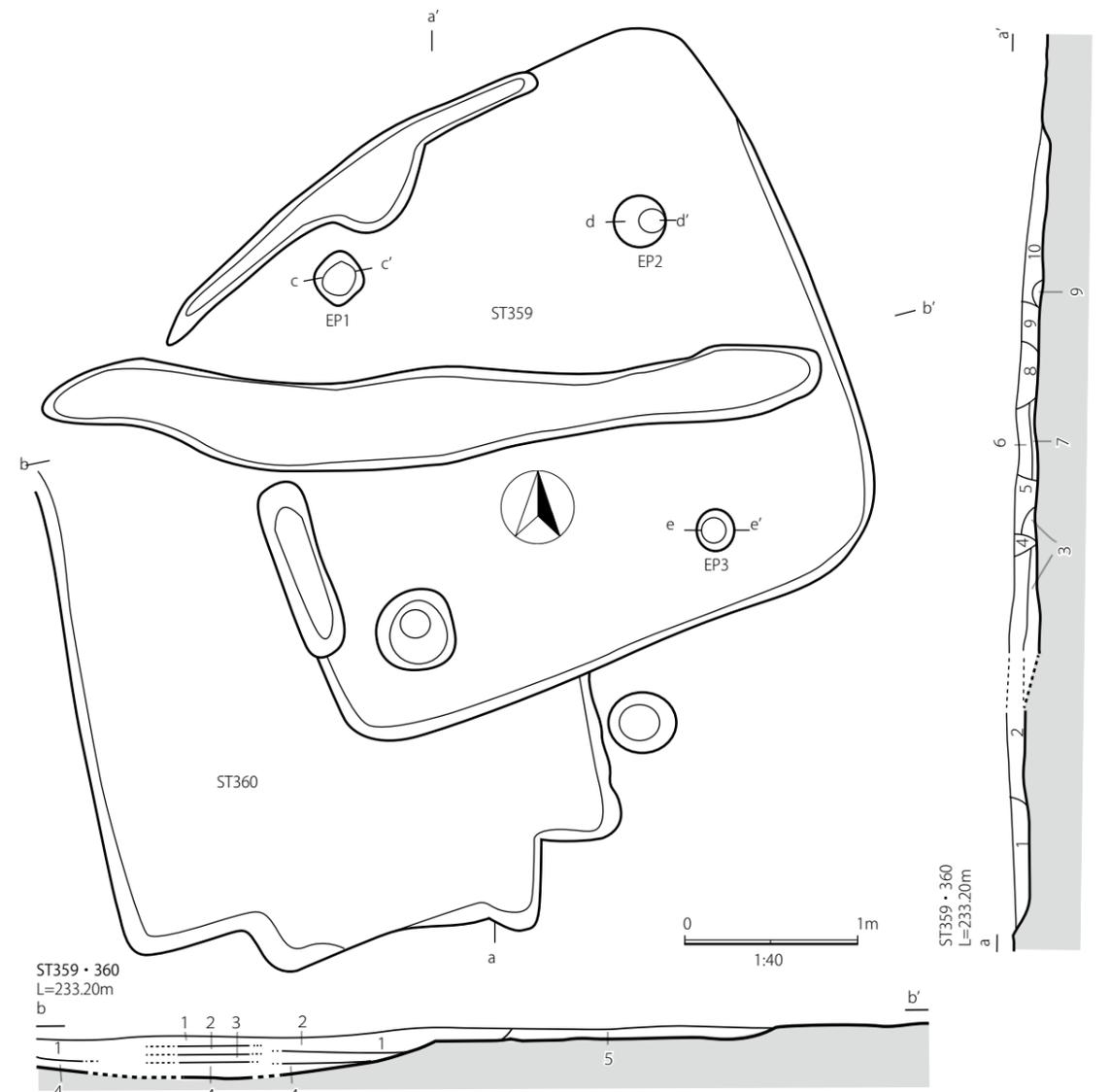
S T 360 竪穴住居跡（第 14 図）

調査区北西端 S T 359 と重複している。攪乱と削平が顕著で詳細は不明である。遺物の出土はなかった。

S D 353・366 溝跡、S K 356 土坑（第 15 図）

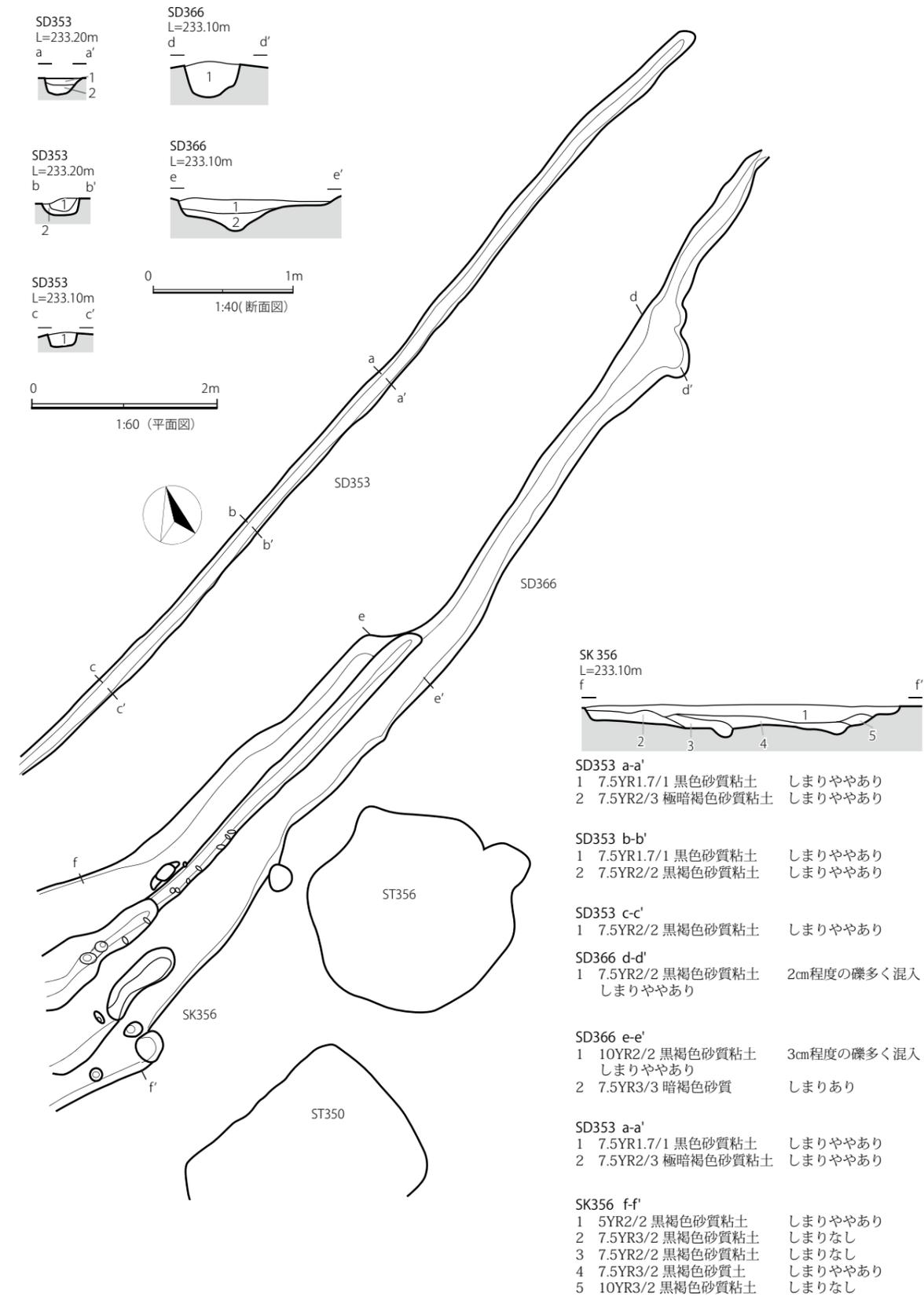
当初は 2 本の並行する溝としての認識であったが、S T 350・356 との関係を鑑みたところ、S D 353・366 は道路遺構の側溝の可能性があると推測する。2 本の溝ともにややうねりがあるが方向は概ね N-53°~58°-E を向く。S D 353 は溝幅 20cm 深さ 10cm、S D 366 はやや不整形で幅 20~60cm、深さ 10~20cm、南西部分で S K 356 と結合する。この 2 本の溝の間の幅は 9~12 m と検出された長さ約 7 m の遺構の幅にも変化がみられる。また、S K 356 の中にも S D 366 と並行する溝が確認されているが床面には小型のピットが並ぶため布堀の柵列の可能性も考えられる。

なお、出土遺物は須恵器坏・瓶類だが、S K 357 については奈良時代の様相をみせるものの、S D 366 については平安時代の要素が強い。土層断面からは遺構の新旧が不明であったが、遺物から考えた場合 S K

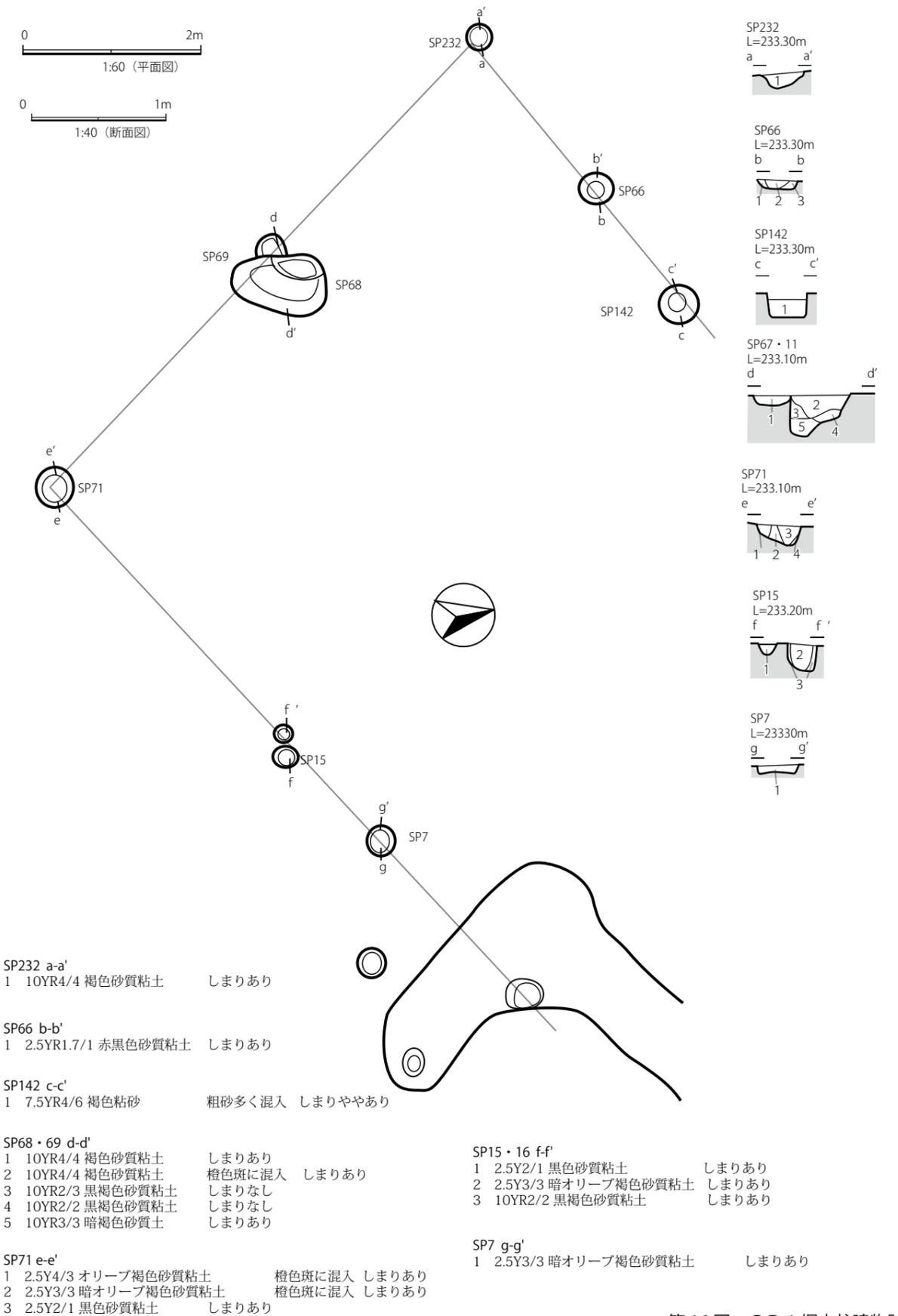


ST359EP1 233.10m c c'	ST359EP2 233.10m d d'	ST359EP3 233.10m e e'	ST359・360 b-b'	1 10YR2/2 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
				2 10YR2/1 黒色砂質粘土	しまりややあり
				4 10YR3/1 黒褐色砂質粘土	粗砂混入 しまりややあり
				5 10YR2/2 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
				6 10YR2/1 黒色砂質粘土	しまりややあり
				7 2.5Y3/1 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
				8 2.5Y3/2 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
				9 2.5Y3/1 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
				10 10YR3/2 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
ST3487EP1	1 10YR2/1 黒色砂質粘土	しまりややあり	ST359EP1 c-c'	1 10YR2/1 黒色砂質粘土	しまりややあり
	2 10YR2/3 黒褐色砂質粘土	しまりややあり		2 10YR3/1 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
ST347EP2	1 10YR3/3 暗褐色砂質粘土	しまりややあり	ST359EP2 d-d'	1 10YR3/1 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
	2 2.5Y2/1 黒色砂質粘土	しまりややあり		2 10YR3/2 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
	3 10YR3/3 暗褐色砂質粘土	しまりややあり			
ST347SP3	1 10YR2/1 黒色砂質粘土	しまりややあり	ST359EP2 e-e'	1 10YR2/1 黒色砂質粘土	しまりややあり
				2 10YR2/2 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
ST359・360 a-a'	1 10YR2/2 黒褐色砂質粘土	しまりややあり			
	2 10YR3/3 暗褐色砂質粘土	しまりややあり			
	3 10YR2/1 黒色砂質粘土	しまりややあり			
	4 10YR2/2 黒褐色砂質粘土	礫混入 しまりややあり			
	5 10YR3/1 黒褐色砂質粘土	しまりややあり			

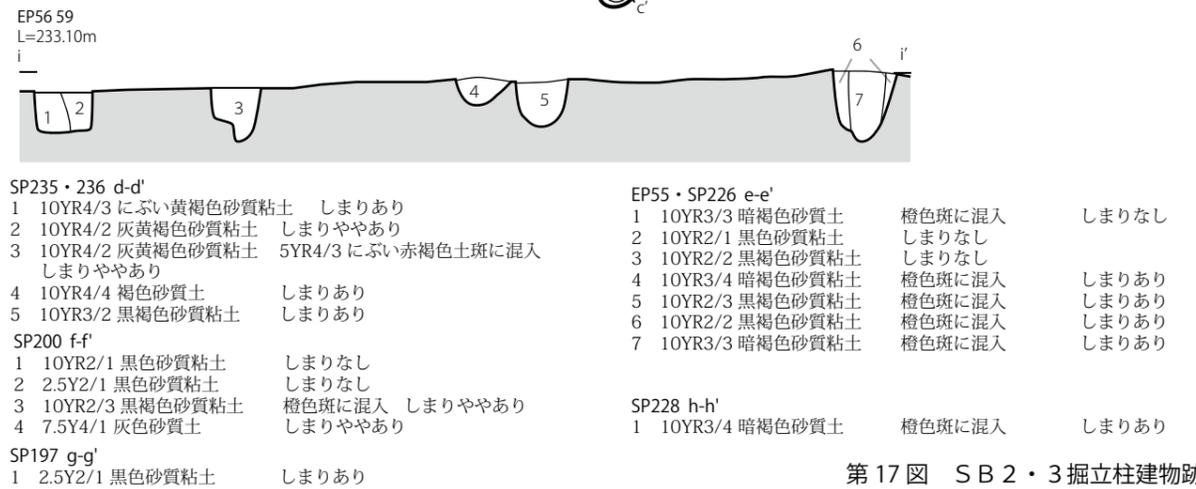
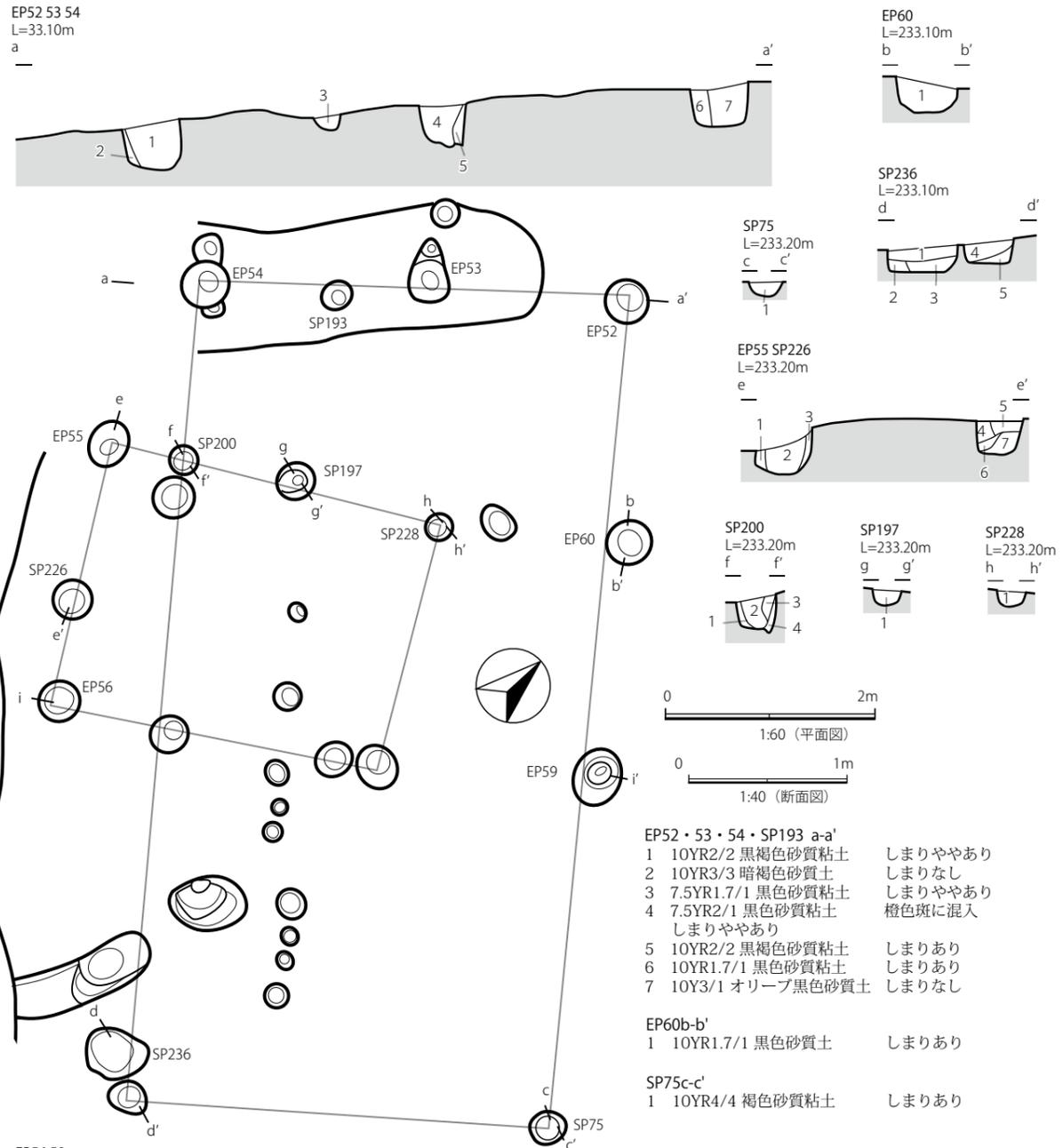
第 14 図 S T 359・360 竪穴住居跡



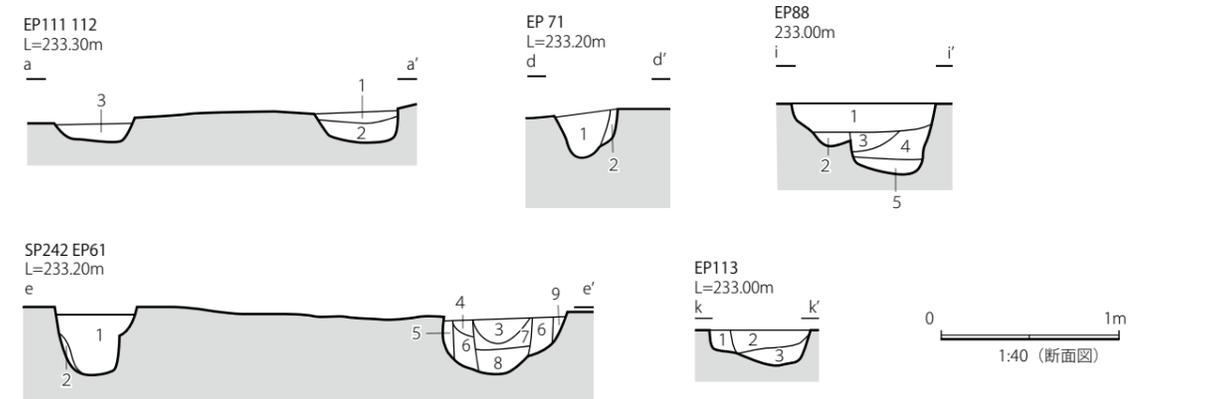
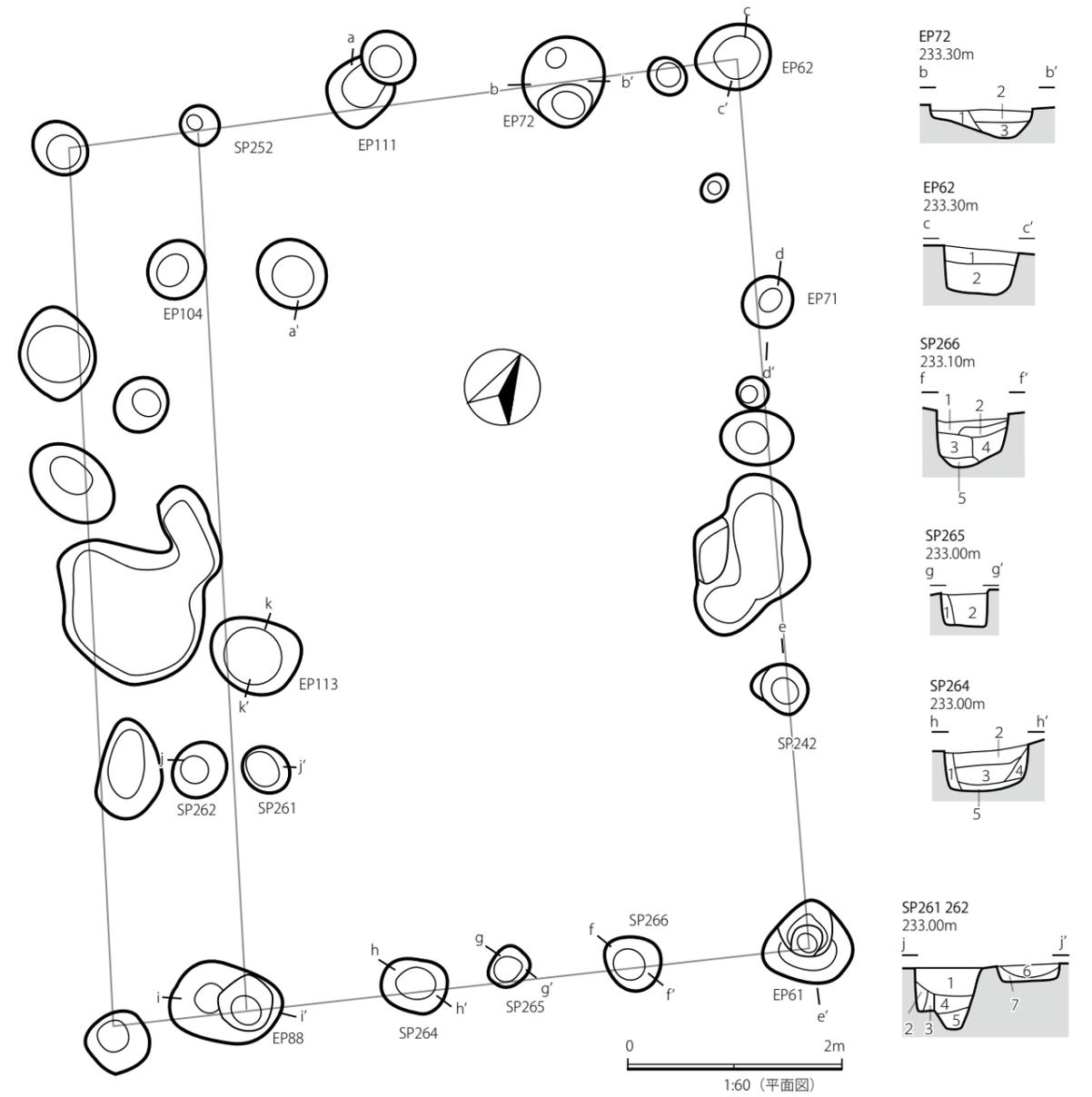
第 15 図 S D 353・366 溝跡



第 16 図 S B 1 掘立柱建物跡



第17図 SB2・3掘立柱建物跡



第18図 SB4掘立柱建物跡

- EP111・112 a-a'
 1 2.5Y3/1 黒褐色粘砂 礫多く混入しまりややあり
 2 2.5Y3/1 黒褐色粘砂 しまりややあり
 3 2.5Y3/2 黒褐色粘砂 礫多く混入しまりややあり

- EP72 b-b'
 1 2.5Y3/1 黒褐色砂質粘土 粗砂混入
 2 2.5Y3/2 黒褐色砂質粘土 粗砂混入
 3 2.5Y2/1 黒色砂

- EP62 c-c'
 1 2.5Y3/2 黒褐色粘砂 しまりややあり
 2 2.5Y3/1 黒褐色粘砂 粗砂多く混入 しまりなし

- EP71 d-d'
 1 10YR2/1 黒色砂質粘土 しまりなし
 2 10YR1.7/1 黒色砂質粘土 しまりなし

- SP242・EP61 e-e'
 1 10YR2/1 黒色砂質粘土
 2 2.5Y3/1 黒褐色シルト粘土
 3 10YR3/3 暗褐色砂質粘土
 4 2.5Y3/1 黒褐色シルト粘土
 5 10YR2/1 黒色シルト粘土
 6 2.5Y2/1 黒色シルト粘土
 7 2.5Y3/1 黒褐色シルト粘土
 8 10YR2/1 黒色粘砂
 9 2.5Y2/1 黒色シルト粘土

- SP266 f-f'
 1 2.5Y2/1 黒色砂質粘土 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質粘土混入 しまりややあり
 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質粘土 しまりややあり
 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質粘土 しまりなし
 4 5Y2/1 黒色砂質粘土 しまりなし
 5 2.5Y2/1 黒色砂質粘土 しまりなし

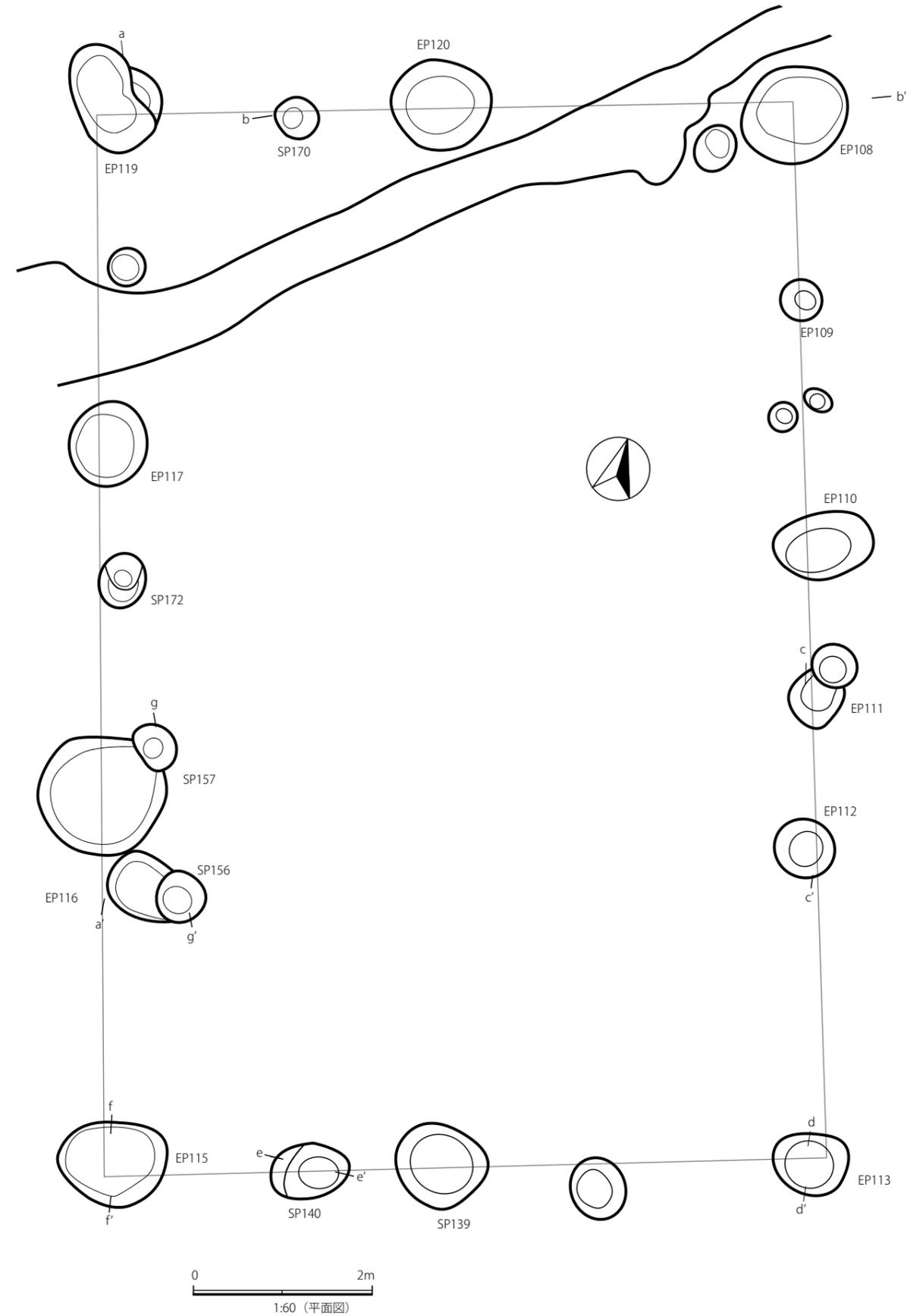
- SP265 g-g'
 1 2.5Y2/1 黒色砂質粘土 しまりややあり
 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質粘土 しまりややあり

- SP264 h-h'
 1 2.5Y2/1 黒色砂質粘土 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質粘土混入 しまりややあり
 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質粘土 しまりややあり
 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質粘土 しまりなし
 4 5Y2/1 黒色砂質粘土 しまりなし
 5 2.5Y2/1 黒色砂質粘土 しまりなし

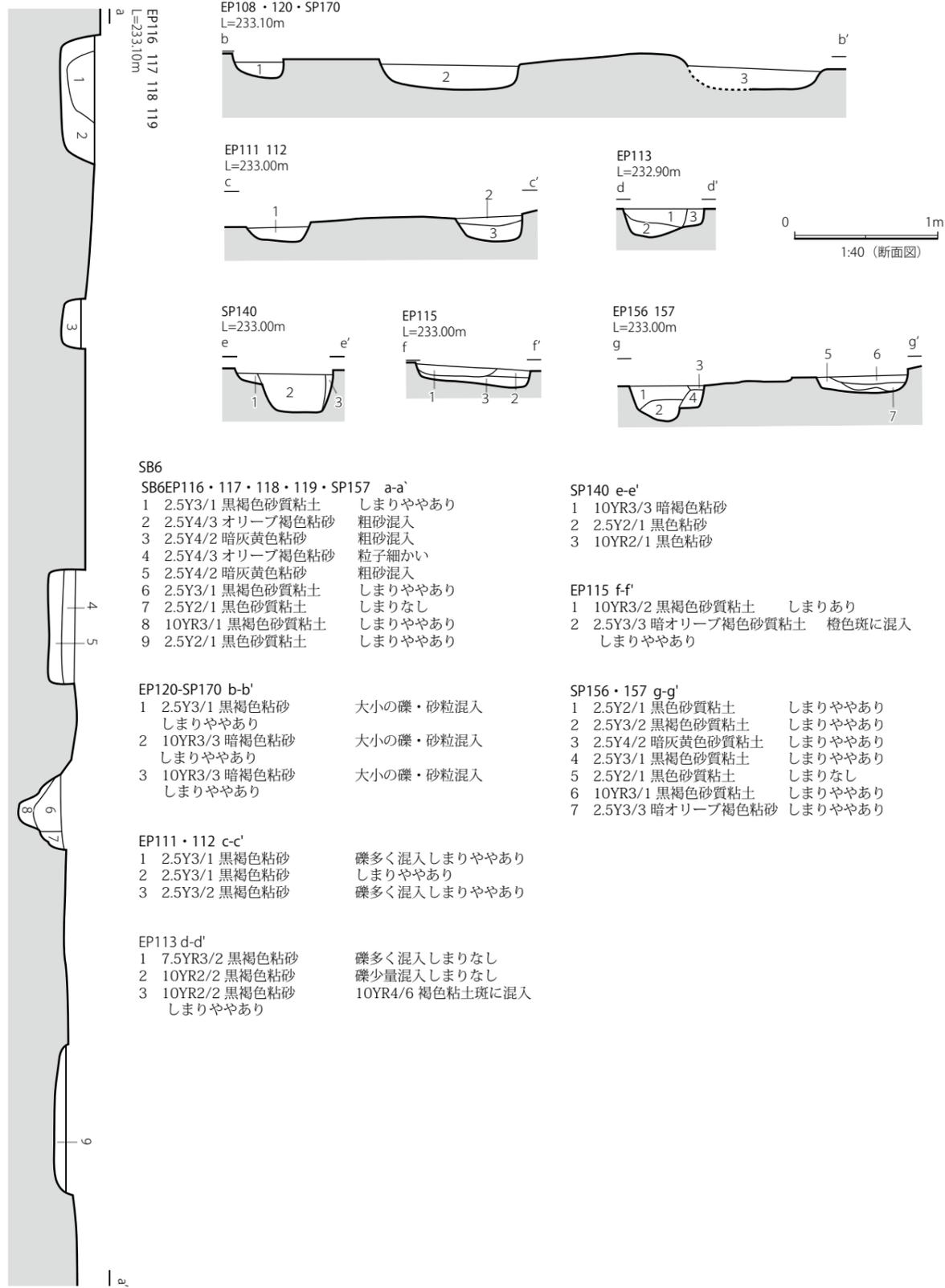
- EP88 i-i'
 1 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質粘土 しまりややあり
 2 2.5Y2/1 黒色砂質粘土 しまりややあり
 3 10YR2/1 黒色砂質粘土 しまりややあり
 4 10YR3/2 黒褐色粘砂 しまりややあり
 5 10YR1.7/1 黒色砂質粘土 しまりなし

- SP261・262 j-j'
 1 7.5YR2/1 黒色砂質粘土 しまりややあり
 2 5YR1.7/1 黒色砂質粘土 粘性強 しまりなし
 3 7.5YR1.7/1 黒色砂質粘土 粘性強 しまりなし
 4 10YR2/1 黒色砂質粘土 しまりなし
 5 10YR1.7/1 黒色砂質粘土 しまりややあり
 6 10YR1.7/1 黒色砂質粘土 しまりなし
 7 7.5YR2/1 黒色砂質粘土 しまりあり

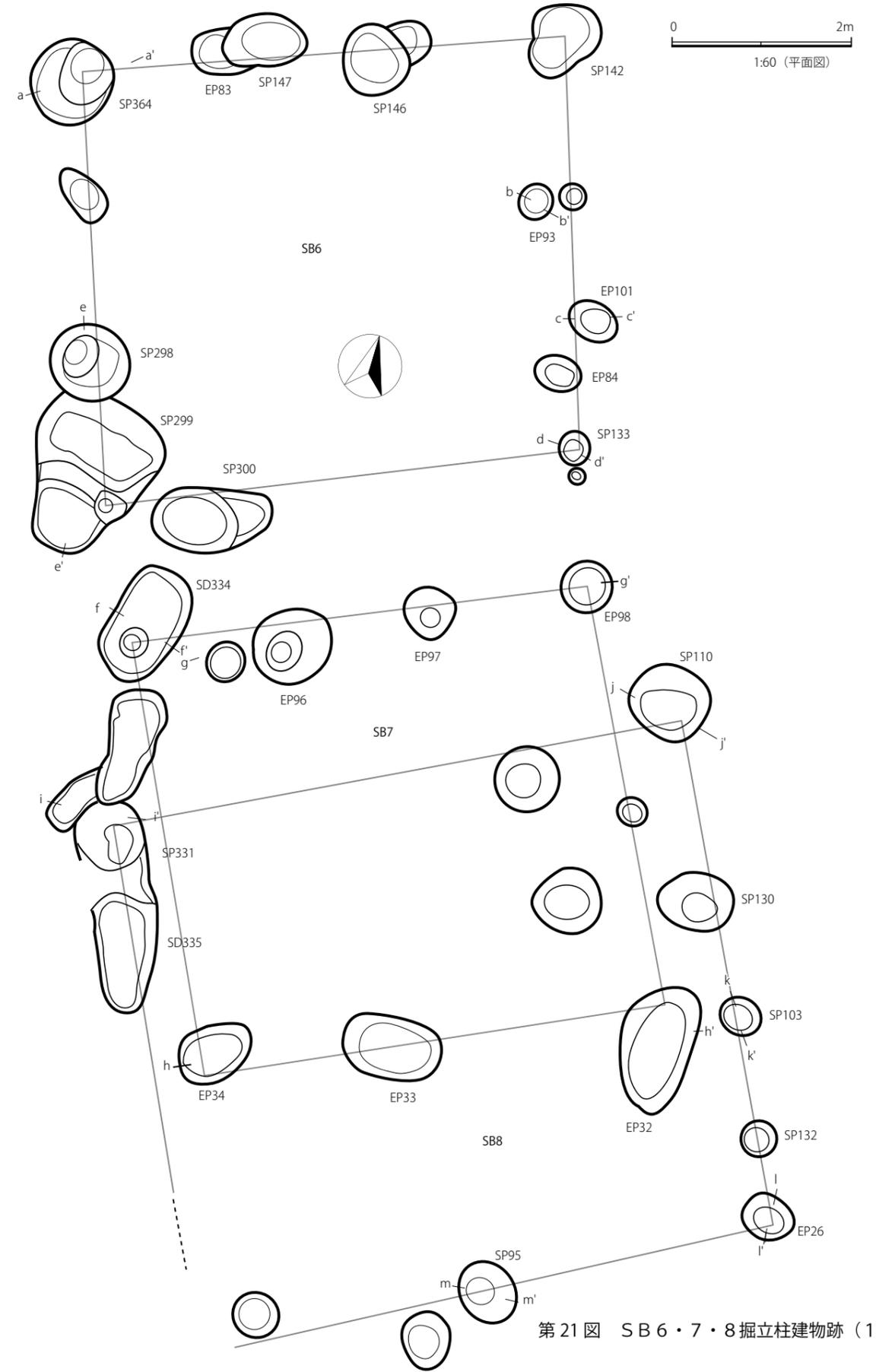
- EP113 k-k'
 1 7.5YR3/2 黒褐色粘砂 礫多く混入しまりなし
 2 10YR2/2 黒褐色粘砂 礫少量混入しまりなし
 3 10YR2/2 黒褐色粘砂 10YR4/6 褐色粘土斑に混入 しまりややあり

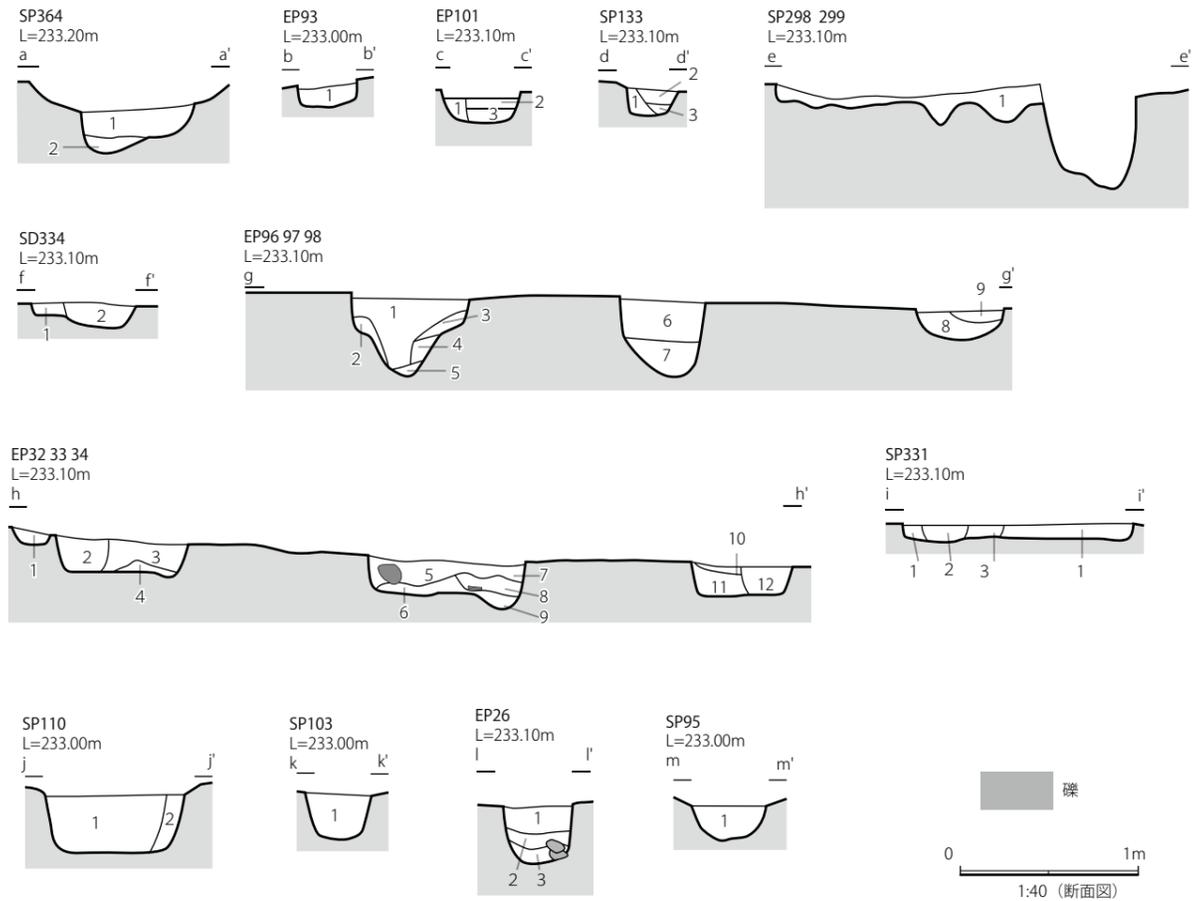


第19図 SB5 掘立柱建物跡(1)



第20図 SB5 掘立柱建物跡(2)

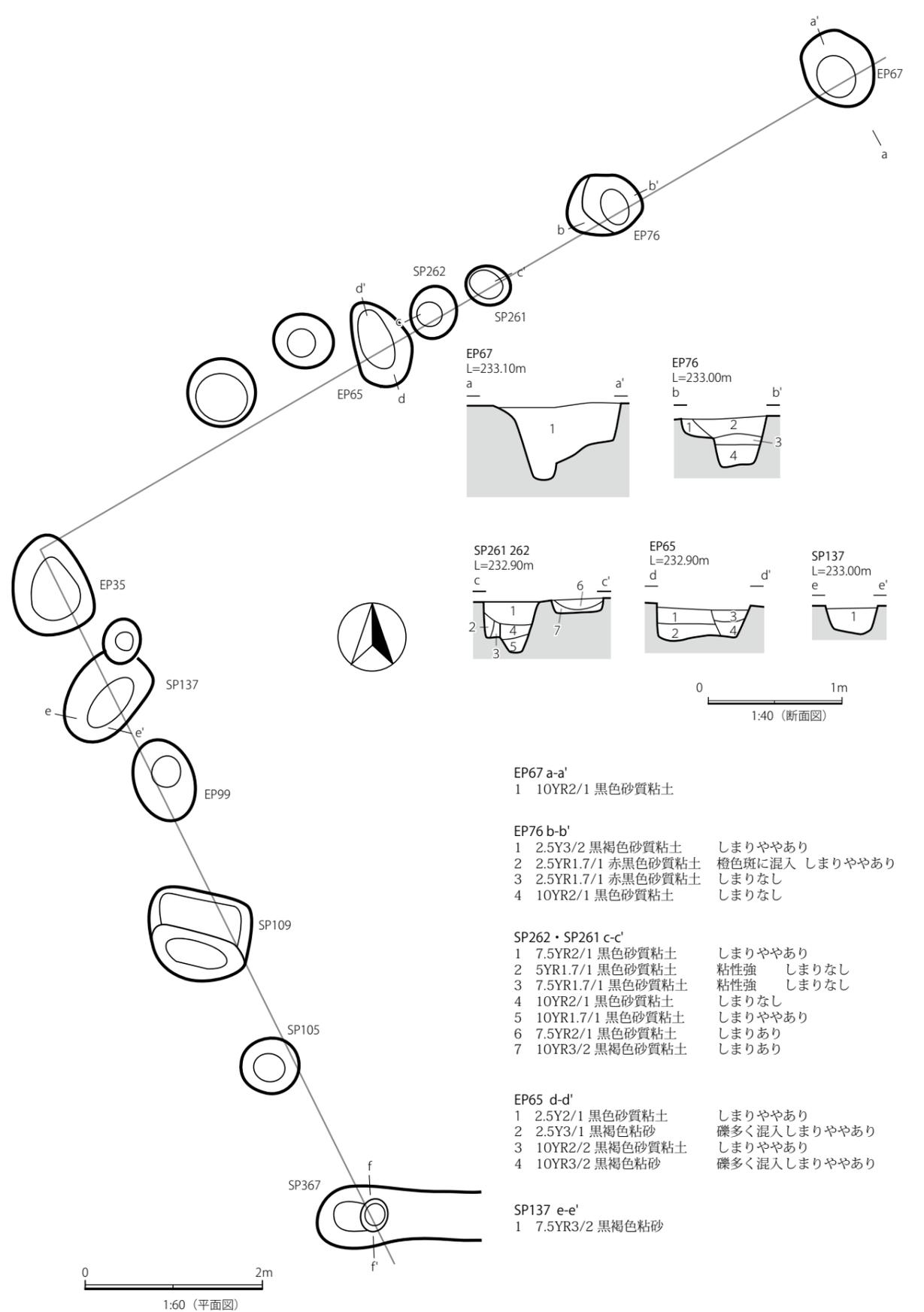




SP364 a-a'	1 7.5YR2/1 黒色砂質粘土	しまりややあり
	2 10YR2/1 黒色砂質粘土	しまりあり
EP93 b-b'	1 2.5Y2/1 黒色砂質粘土	しまりややあり
EP101 c-c'	1 10YR3/2 黒褐色粘砂	
	2 2.5Y3/1 黒褐色粘砂	
	3 2.5Y3/2 黒褐色粘砂	礫混入
SP33 d-d'	1 10YR3/4 暗褐色砂質粘土	しまりあり
	2 10YR2/3 黒褐色砂質粘土	しまりあり
	3 10YR3/4 暗褐色砂質粘土	しまりあり
SP298・299 e-e'	1 10YR2/3 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
SD334 f-f'	1 7.5YR1.7/1 黒色シルト粘土	しまりなし
	2 10YR2/2 黒褐色シルト粘土	しまりなし
EP96・97・98 g-g'	1 10YR3/2 黒褐色シルト粘土	橙色斑に混入 しまりなし
	2 10YR2/2 黒褐色シルト粘土	しまりなし
	3 2.5Y2/1 黒色シルト粘土	しまりなし
	5 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質粘土	しまりなし
	6 10YR2/1 黒色砂質粘土	しまりなし
	7 10YR2/1 黒色砂質粘土	橙色斑に混入 しまりややあり
	8 2.5Y3/1 黒褐色砂質粘土	しまりなし
	9 10YR1.7/1 黒色粘砂	しまりあり

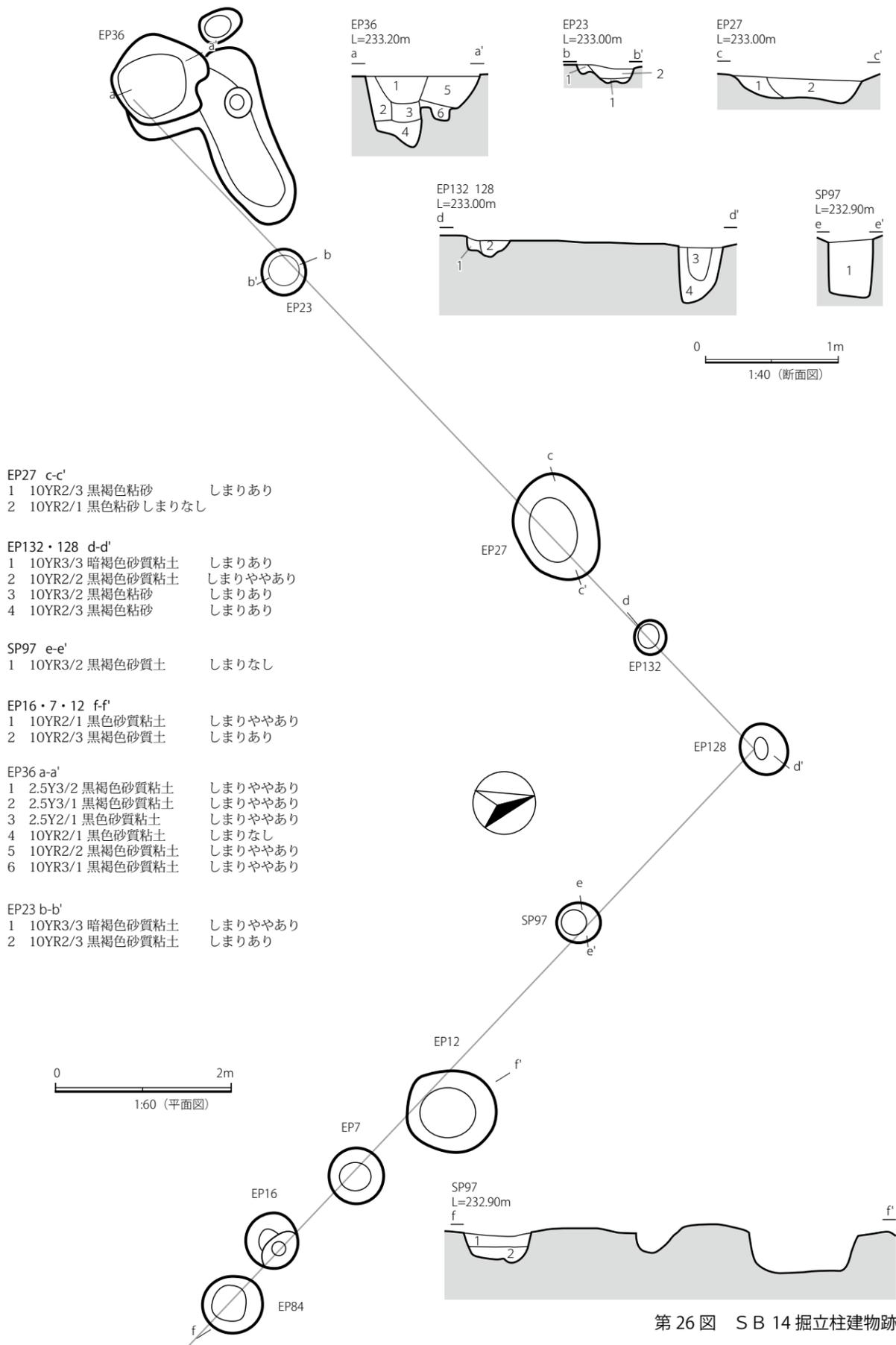
EP32・33・34 h-h'	1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質粘土	しまりあり
	2 10YR3/3 暗褐色砂質粘土	しまりなし
	3 10YR2/1 黒色砂質粘土	しまりなし
	4 10YR2/2 黒褐色砂質粘土	しまりなし
	5 10YR1.7/1 黒色砂質粘土	橙色斑に混入 しまりなし
	6 2.5Y2/1 黒色砂質粘土	しまりなし
	7 10YR1.7/1 黒色砂質粘土	しまりなし
	8 10YR2/1 黒色砂質粘土	しまりあり
	9 10YR1.7/1 黒色砂質粘土	しまりややあり
	10 10YR2/2 黒褐色砂質粘土	しまりあり
	11 10YR3/3 暗褐色砂質粘土	しまりなし
	12 10YR2/1 黒色砂質粘土	しまりなし
SP331 i-i'	1 10YR4/4 褐色砂質粘土	しまりあり
	2 10YR3/3 暗褐色砂質粘土	橙色斑に混入 しまりあり
	3 10YR3/4 暗褐色砂質粘土	しまりあり
SP110 j-j'	1 2.5Y2/1 黒色砂質粘土	しまりややあり
	2 2.5Y3/1 黒褐色粘砂	礫混入 しまりややあり
SP103 k-k'	1 10YR1.7/1 黒色粘砂	しまりあり
EP26 l-l'	1 10YR2/1 黒色砂質粘土	しまりなし
	2 10YR2/3 黒褐色粘砂	しまりなし
	3 10YR3/3 暗褐色砂質粘土	しまりあり
SP95 m-m'	1 10YR3/3 暗褐色砂質粘土	しまりややあり

第22図 SB 6・7・8 掘立柱建物跡 (2)



EP67 a-a'	1 10YR2/1 黒色砂質粘土	
EP76 b-b'	1 2.5Y3/2 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
	2 2.5YR1.7/1 赤黒色砂質粘土	橙色斑に混入 しまりややあり
	3 2.5YR1.7/1 赤黒色砂質粘土	しまりなし
	4 10YR2/1 黒色砂質粘土	しまりなし
SP262・SP261 c-c'	1 7.5YR2/1 黒色砂質粘土	しまりややあり
	2 5YR1.7/1 黒色砂質粘土	粘性強 しまりなし
	3 7.5YR1.7/1 黒色砂質粘土	粘性強 しまりなし
	4 10YR2/1 黒色砂質粘土	しまりなし
	5 10YR1.7/1 黒色砂質粘土	しまりややあり
	6 7.5YR2/1 黒色砂質粘土	しまりあり
	7 10YR3/2 黒褐色砂質粘土	しまりあり
EP65 d-d'	1 2.5Y2/1 黒色砂質粘土	しまりややあり
	2 2.5Y3/1 黒褐色粘砂	礫多く混入 しまりややあり
	3 10YR2/2 黒褐色砂質粘土	しまりややあり
	4 10YR3/2 黒褐色粘砂	礫多く混入 しまりややあり
SP137 e-e'	1 7.5YR3/2 黒褐色粘砂	

第23図 SB 9 掘立柱建物跡



EP27 c-c'
 1 10YR2/3 黒褐色粘砂 しまりあり
 2 10YR2/1 黒色粘砂 しまりなし

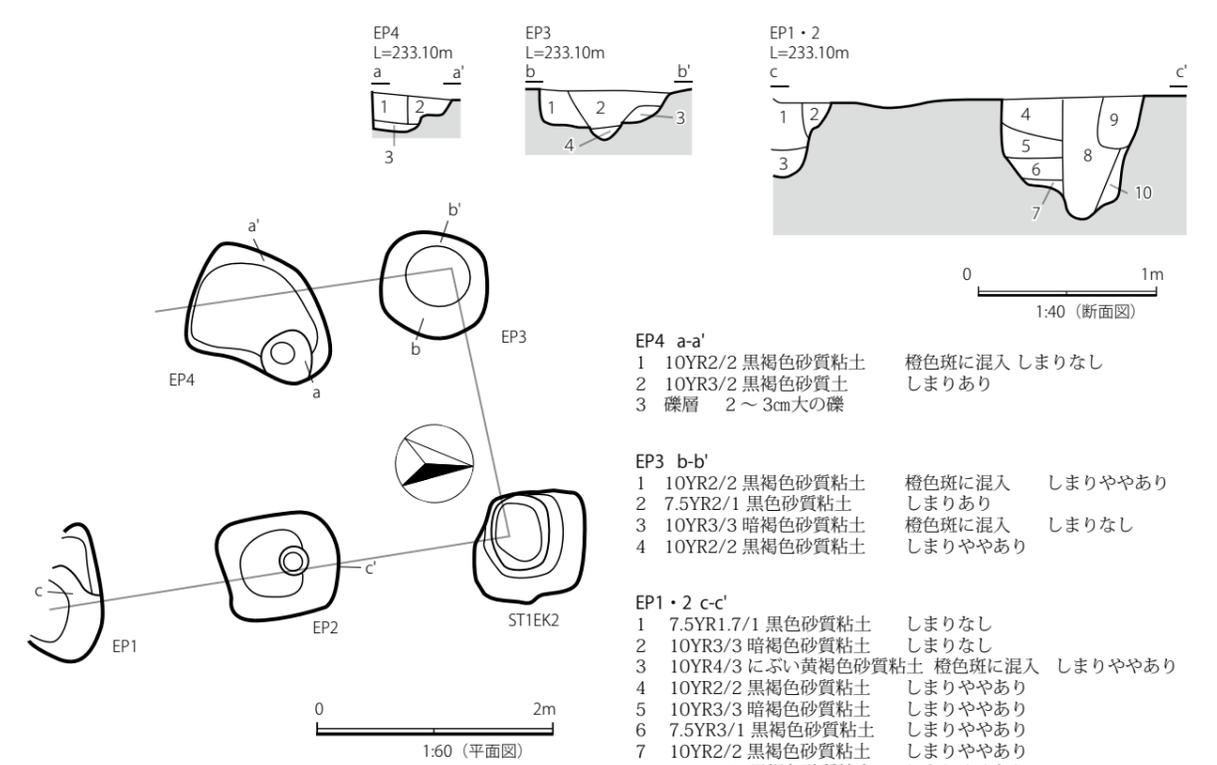
EP132・128 d-d'
 1 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 しまりあり
 2 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 しまりややあり
 3 10YR3/2 黒褐色粘砂 しまりあり
 4 10YR2/3 黒褐色粘砂 しまりあり

SP97 e-e'
 1 10YR3/2 黒褐色砂質土 しまりなし

EP16・7・12 f-f'
 1 10YR2/1 黒色砂質粘土 しまりややあり
 2 10YR2/3 黒褐色砂質土 しまりあり

EP36 a-a'
 1 2.5Y3/2 黒褐色砂質粘土 しまりややあり
 2 2.5Y3/1 黒褐色砂質粘土 しまりややあり
 3 2.5Y2/1 黒色砂質粘土 しまりややあり
 4 10YR2/1 黒色砂質粘土 しまりなし
 5 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 しまりややあり
 6 10YR3/1 黒褐色砂質粘土 しまりややあり

EP23 b-b'
 1 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 しまりややあり
 2 10YR2/3 黒褐色砂質粘土 しまりあり



EP4 a-a'
 1 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 橙色斑に混入 しまりなし
 2 10YR3/2 黒褐色砂質土 しまりあり
 3 礫層 2~3cm大の礫

EP3 b-b'
 1 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 橙色斑に混入 しまりややあり
 2 7.5YR2/1 黒色砂質粘土 しまりあり
 3 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 橙色斑に混入 しまりなし
 4 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 しまりややあり

EP1・2 c-c'
 1 7.5YR1.7/1 黒色砂質粘土 しまりなし
 2 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 しまりなし
 3 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質粘土 橙色斑に混入 しまりややあり
 4 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 しまりややあり
 5 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 しまりややあり
 6 7.5YR3/1 黒褐色砂質粘土 しまりややあり
 7 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 しまりややあり
 8 10YR3/1 黒褐色砂質粘土 しまりややあり
 9 7.5YR3/1 黒褐色砂質粘土 しまりややあり
 10 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 しまりなし

357 → S D 366 の順で形成されていった可能性が考えられる。

SB 掘立柱建物群

今回本報告書においてSB掘立柱建物は15棟と報告するが、今後検討すべき部分が多々ある。なお個々の掘立柱建物跡については遺構観察表(表3)に記し、全体の様相をここで述べたい。

掘立柱建物跡は調査区全体に配置されているが、特に集中しているのが調査区中央付近南北に走る旧河川跡の礫層域である。この地点は水源が存在するの調査中も湧水がみられた。柱穴が多く検出されたのは河川跡の礫層上の低地が中心で、礫層を掘り込んで建物を建てている。一方竪穴住居は微高地の乾燥した箇所に建てられていることから、建物により土地利用の「使い分け」をしていたことが窺える。また、SH3・4方形周溝墓周辺に柱穴が多く存在しているためSH3・4(の墳丘?)を削平し建物を建てたものとみられる。また、掘り方が大きいものはSB11・15のみ

で全体的には小規模～中規模な印象を受ける。また総柱建物跡は確認出来ず、すべて側柱の建物跡とみられる。そのことから重量物保管を目的とするものではない建物であることが想像される。

全体としては、SB2とSB4、SB6とSB7に関しては同時期存在の可能性はあるが、建物同士の新旧関係および並立関係は不明で、その点からも掘立柱建物跡の組み方の見直しは必要である。

以上のことを踏まえ、遺構からみた清水上遺跡の性格について、古墳時代前期の方形周溝墓跡もしくは方墳跡、8世紀後半から9世紀末にかけての集落跡としたい。

2 出土遺物

今回の清水上遺跡発掘調査から出土した遺物を大別すると、1. 縄文時代（中期）、2. 古墳時代（前期～中期）、3. 奈良・平安時代（8～9世紀）に分類することが出来る。

1 縄文時代（第44、45図）

縄文時代について、破片の単体出土のみで後世の混入の可能性が高い。縄文土器は粘土隆帯を施した渦巻ないし楕円形の文様を有する深鉢を主とする縄文中期大木8b～9式頃のものと思われる。ほかに石匙、くぼみ石などの石器も遺構外からも出土している。

2 古墳時代（第28・32・38・43～45図）

古墳時代の土器は、SH4周溝中～下層を除き、恐らく墳墓が削平され二次的に遺構に混入したものが大半とみられる。

SH4床面直上から出土したのは甕口縁部2点（28-1・2）と底部1点（28-3）である。4世紀代のものと思われるが、破片のため詳細な時期決定は難しい。なお28-1について、やや端部の引出しは短いものの「コ」字口縁をもつ甕である特徴に注目したい（鈴木・川田1995、菊池2011）。

古墳時代の遺物全体的な傾向として、古墳時代前期のものについては器台、高坏、小型壺、小型土器など赤色加工した所謂供献器的土器が目立ち、SH4付近の表土からも祭祀用小型土器が出土している。また、壺・甕類も一定数出土しているが、そのなかには底部焼成後穿孔とみられる壺底部（38-14・45-4）、底部開口壺の可能性のあるもの（32-22）も出土している。

また古墳時代中期に属すると思われる遺物も数点出土している。SH4周溝上層～中層から出土している大型甕や（28-9）倒卵型に近いと思われる甕（28-8）、遺構外出土の坏（43-12・44-16・45-6）などがある。

3 奈良・平安時代（第29～43・45図）

遺物の中心となるのは奈良・平安時代の坏・甕類な

どの土師器・須恵器・黒色土器で、多くは竪穴住居跡などから出土している。古手のものとしてはST1出土の須恵器坏（29-9）およびSK357の須恵器瓶と坏（40-9・12）の8世紀第3四半期前後のもの、新しいものとしてはST359の坏（39-9・11）など9世紀第4四半期と、形状から判断して約100年の時代幅があるとみられるが、途中途切れることなくこの場所で生活した様子が窺える。また、良好な状態の一括資料が得られたことが今回の調査での大きな収穫といえる。ST1のカマド一括資料（29-1～9、30-1～4）は甕と坏のセット関係が明瞭となる好例といえよう。ST2カマドの支脚のセット（転用甕も含めた、33-1～4）も稀有な資料になり得る。なおST2カマド周辺から土師器丸底碗（33-6）が、覆土からは須恵器稜碗及び回転ヘラケズリ後ケズリ調整を施した須恵器（35-12）が出土している。これらは従来米沢盆地において8世紀第4四半期の特徴とされる（阿部・水戸1999）。ただし、遺構の重複関係からST2はST1より古いものと考えられるため矛盾が生じる。これらの新旧関係については今後出土状況の検証及び吟味が必要である。

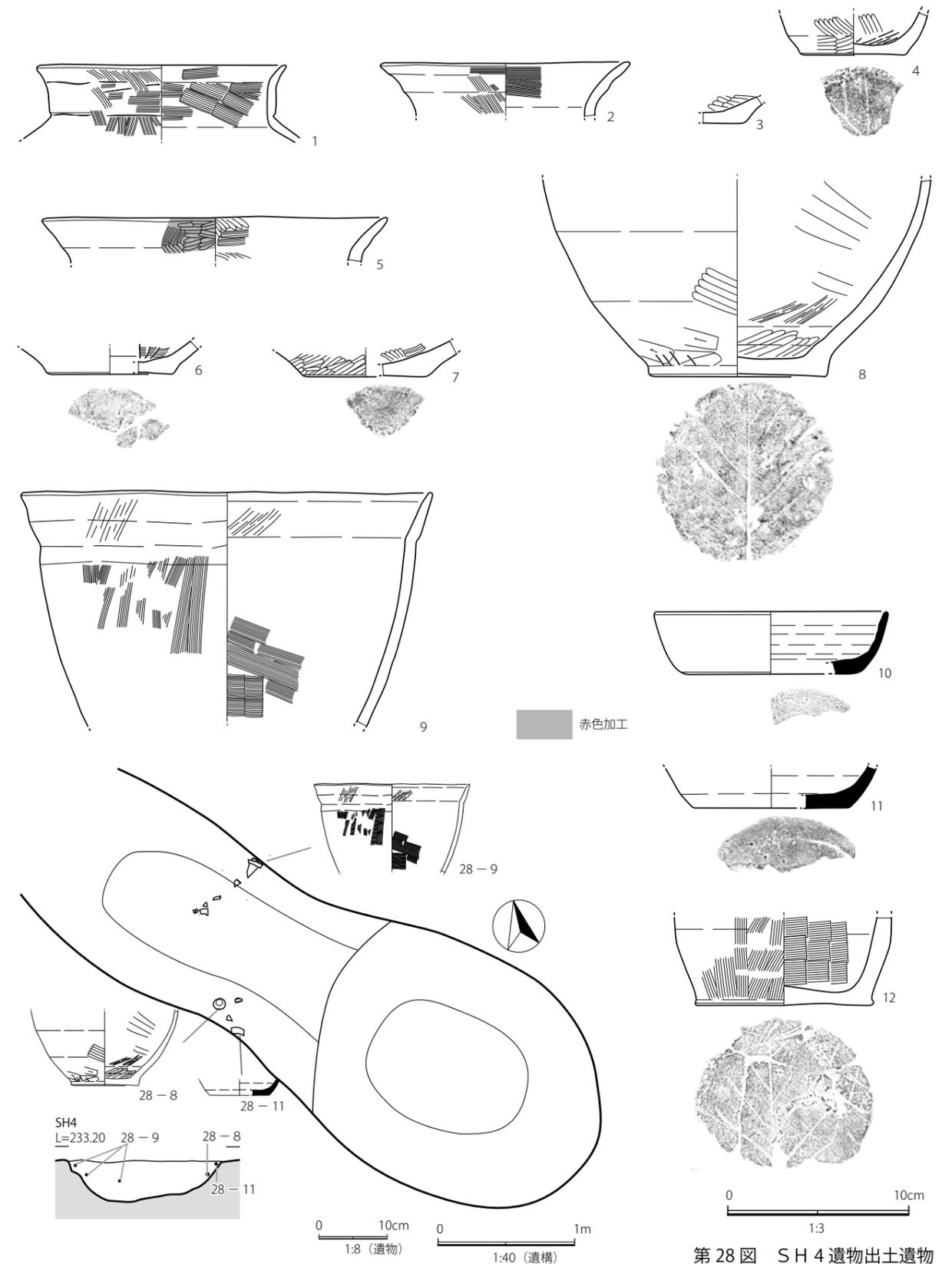
ほかにもST359出土の耳皿とみられる土師器片（39-7）が出土しているが、耳皿に関しては箸置きとして供養具（仏具）のひとつに想定されている（渋谷・高桑2004）。また、遺構外出土ではあるが須恵器模倣とみられる脚部に装飾のスリットの入った黒色土器高坏（43-21）なども出土している。

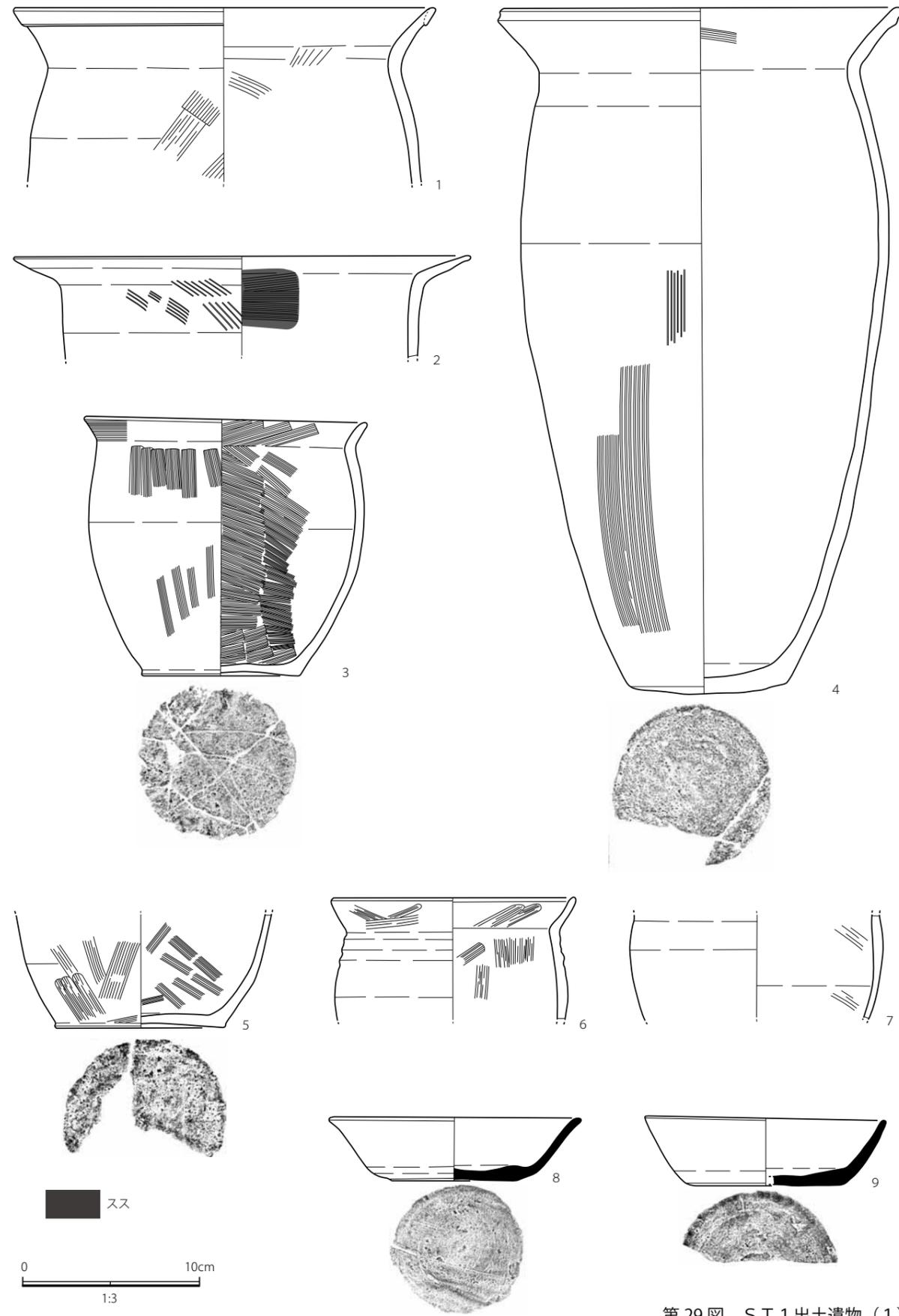
文字資料について、本遺跡において須恵器蓋に漆文字「エカ」^{（註）}1点（42-9）、須恵器坏底部墨書文字不明1点（40-20）、体部に篋書きのある須恵器（文字不明）1点（39-5）が出土している。

清水上遺跡から出土した古代須恵器坏について細部をみて分類を試みる。本報告書掲載遺物について、個体差が明確な坏類底部切離し技法の分類と比率を見た場合、回転ヘラ切底部37個体回転糸切底部32個体と、大きく比率に差は出ない。しかし、回転ヘラ切底部の坏37個体についてナデ・ケズリなど「ヘラ切後の調整を行っている」ものは25個体となるが、回転糸切底部坏は0個体となり、これは時代差による変化であろう。また須恵器坏について、供養具の模倣

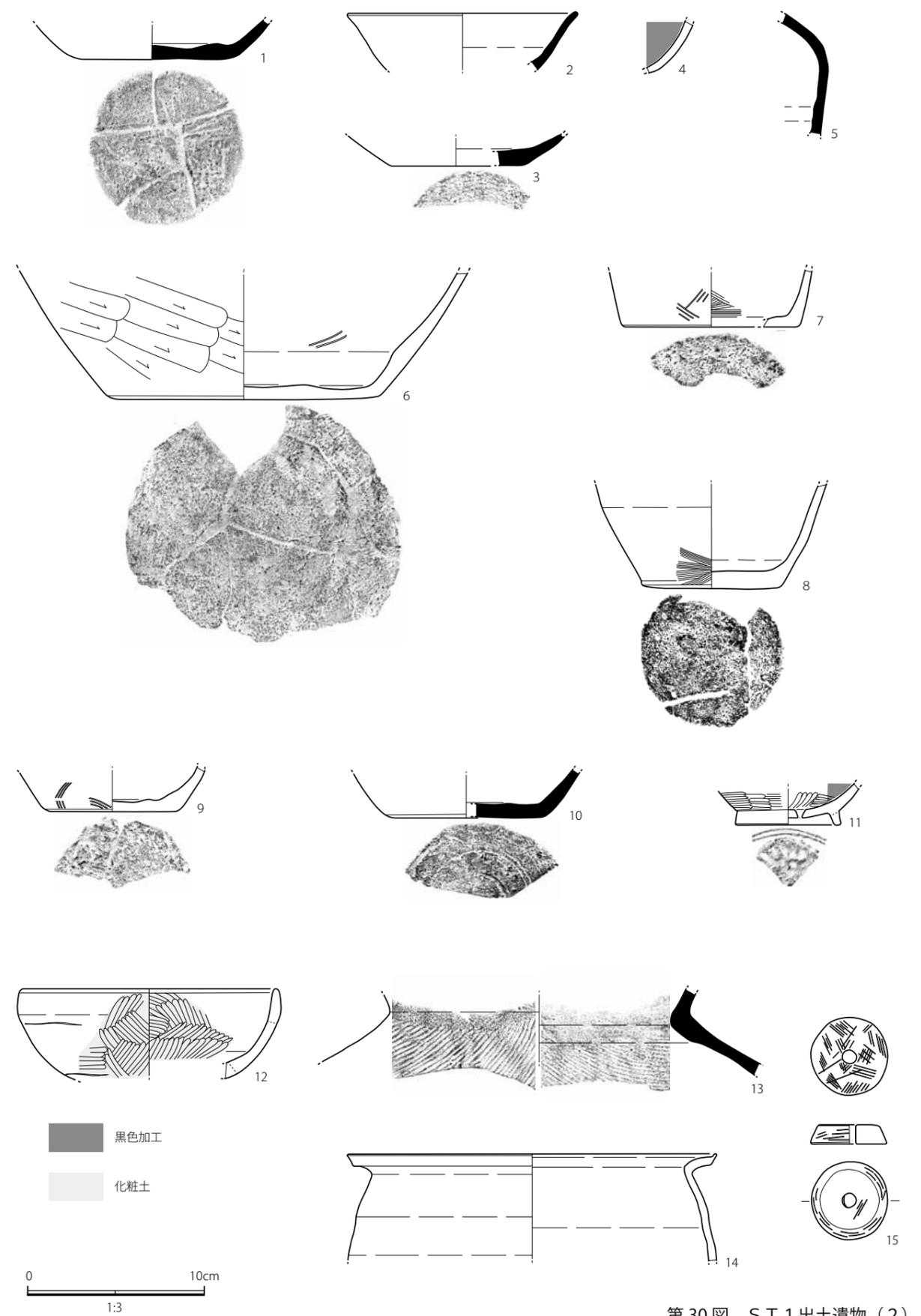
とされる稜碗（渋谷・高桑2004）とみられるものは2点（35-4・39-10）である。

註
三上喜孝氏のご教示による。

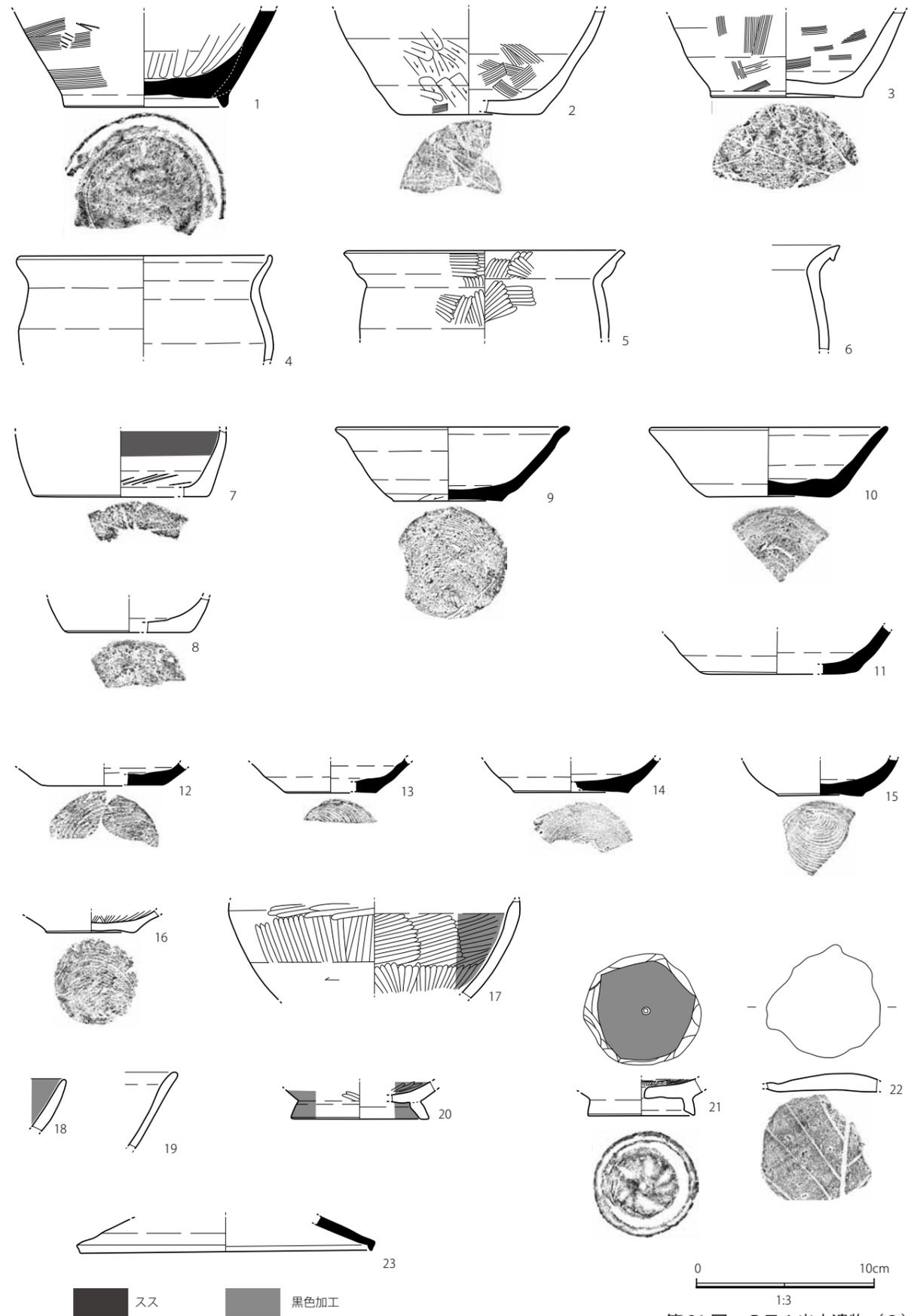




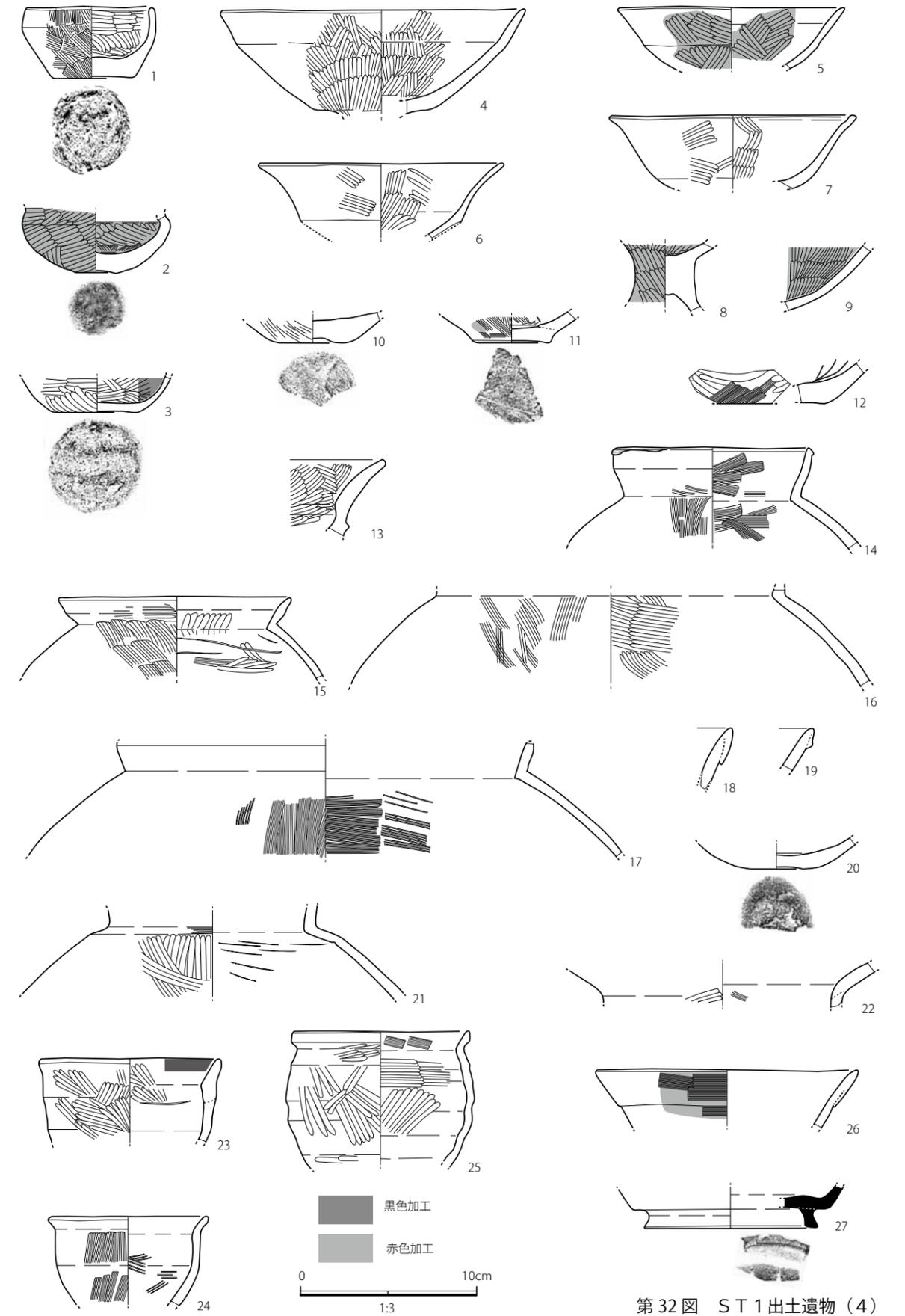
第29図 ST 1 出土遺物 (1)



第30図 ST 1 出土遺物 (2)



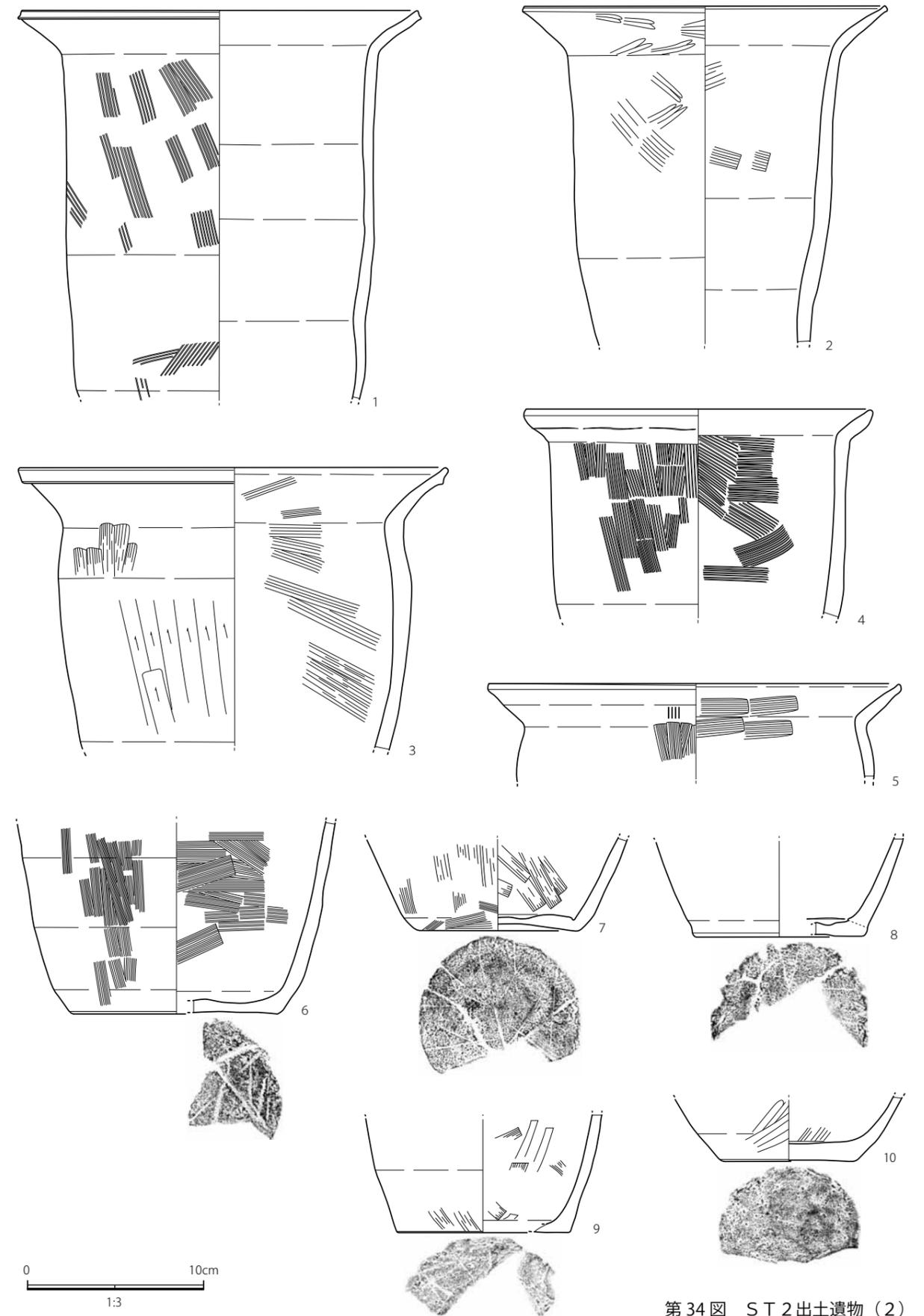
第31図 ST 1 出土遺物 (3)



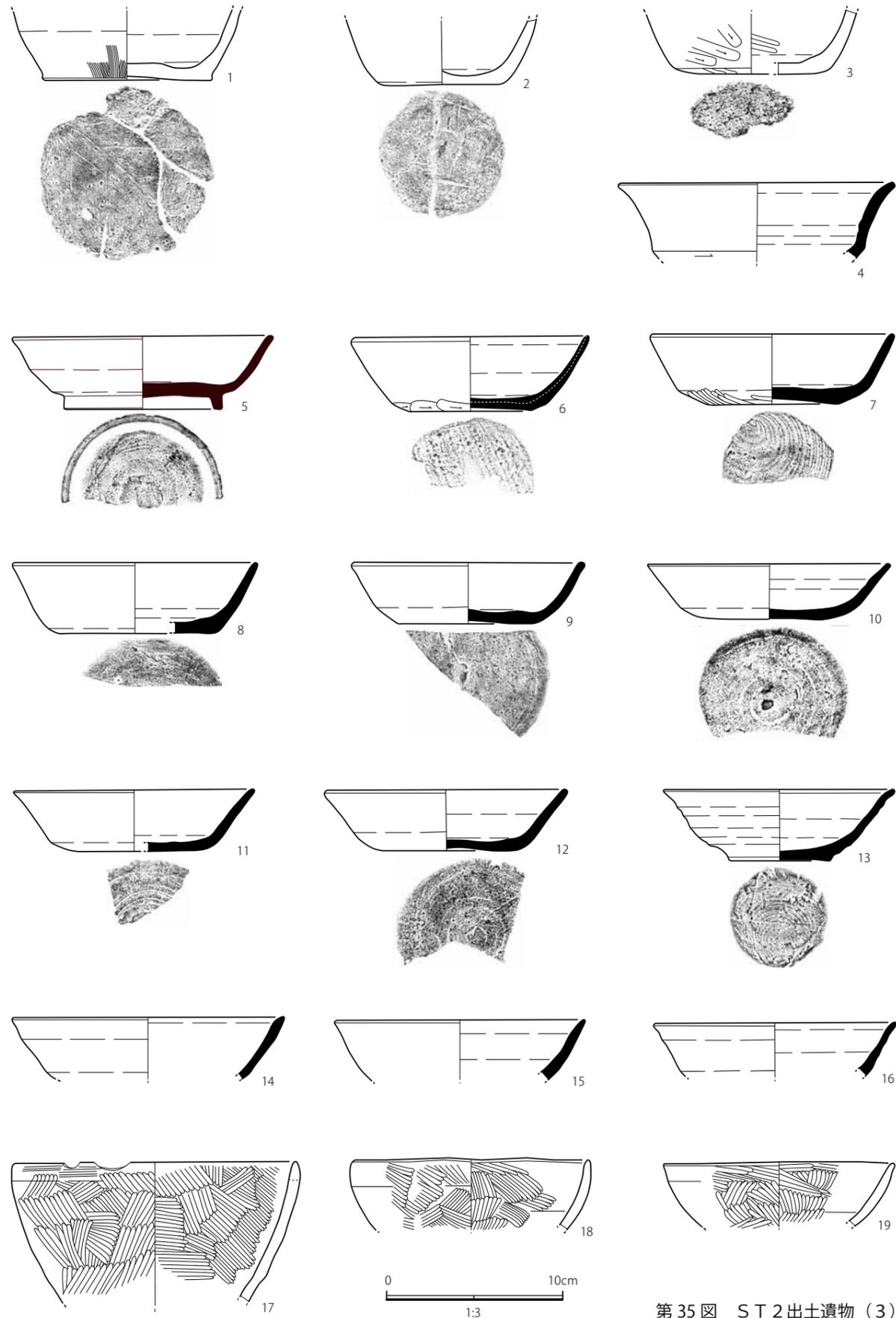
第32図 ST 1 出土遺物 (4)



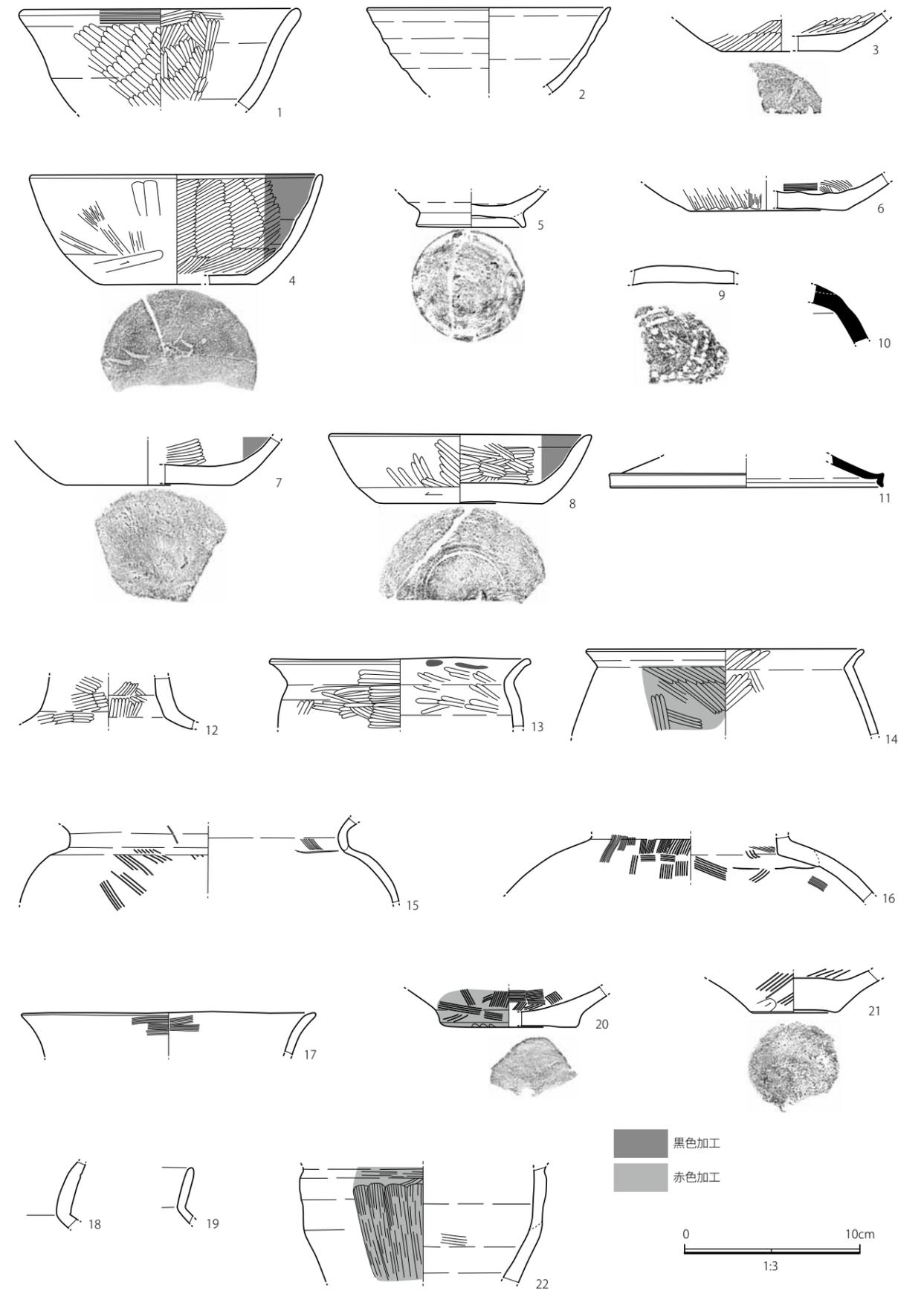
第33図 ST 2出土遺物 (1)



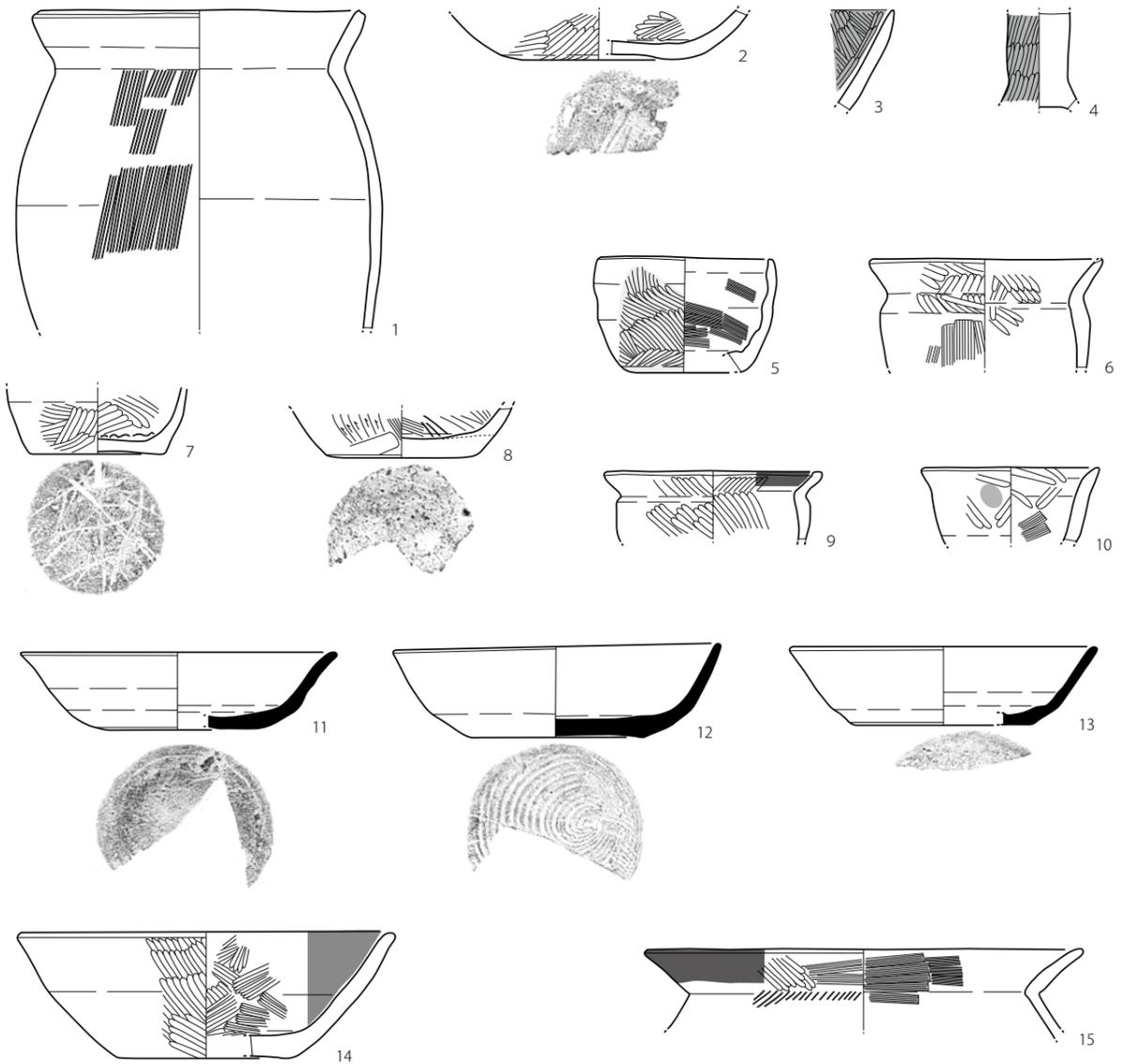
第34図 ST 2出土遺物 (2)



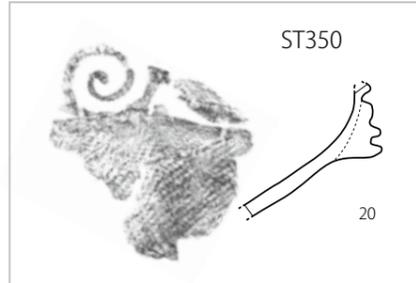
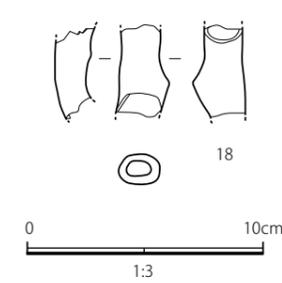
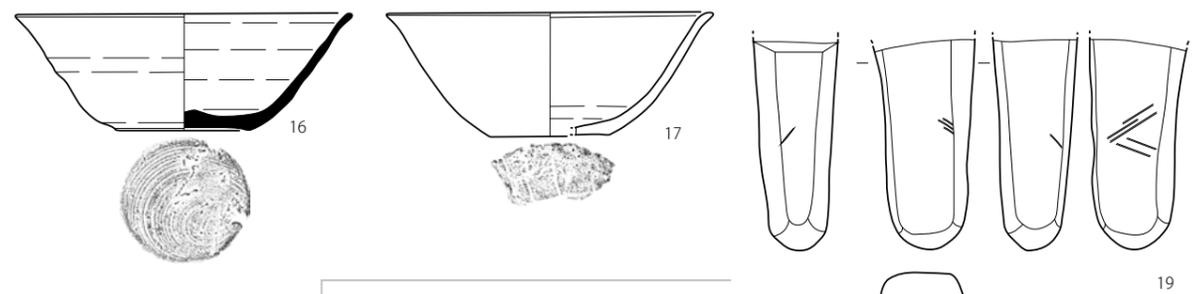
第35図 ST 2出土遺物 (3)



第36図 ST 2出土遺物 (4)

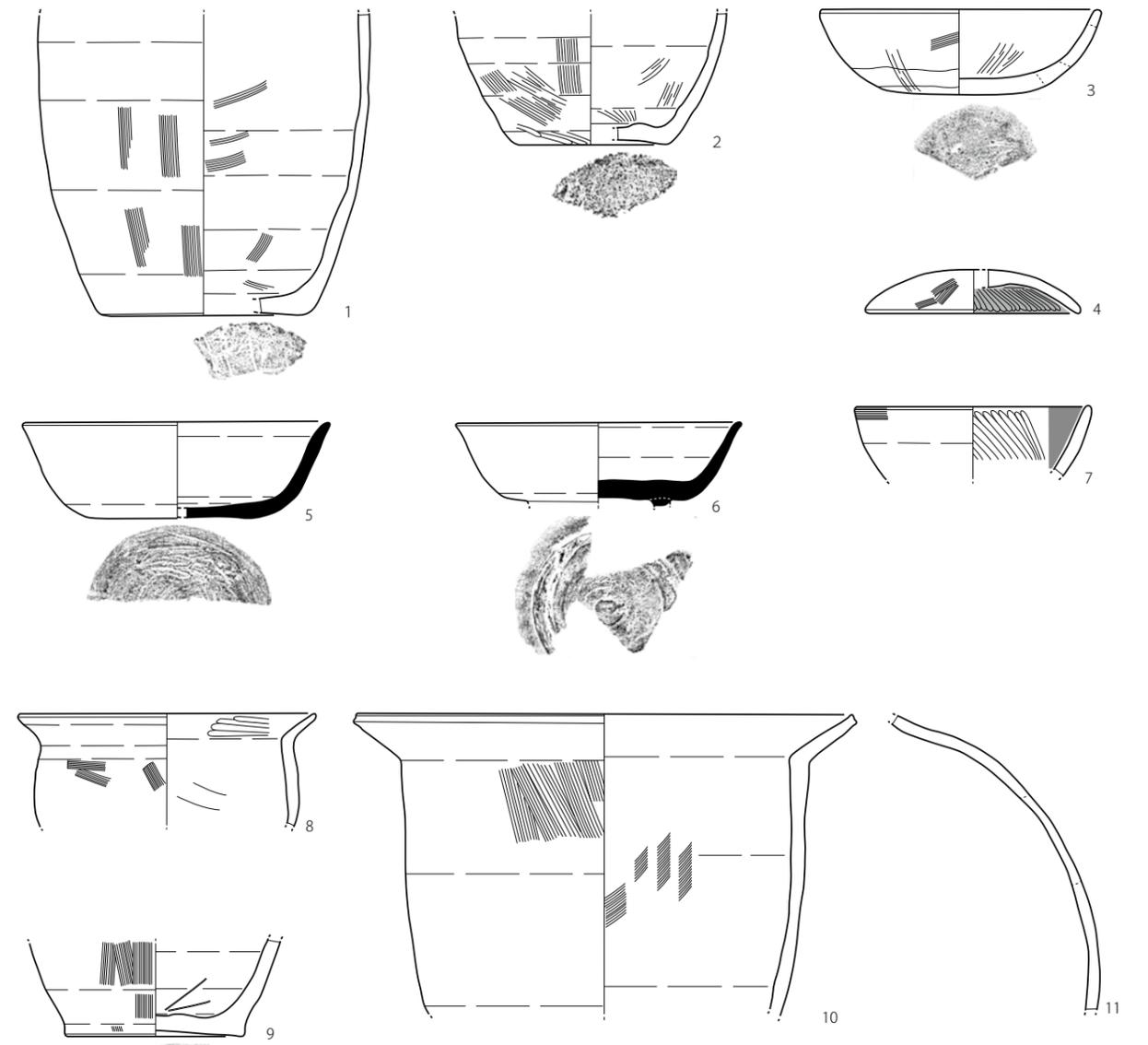


ST356



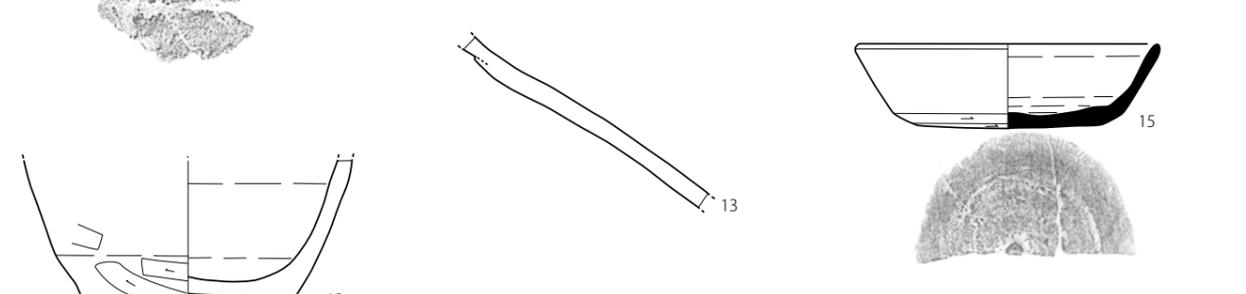
■ スス
 ■ 黒色加工
 ■ 赤色加工

第 37 図 S T 2 ・ 350 ・ 356 出土遺物



黒色加工

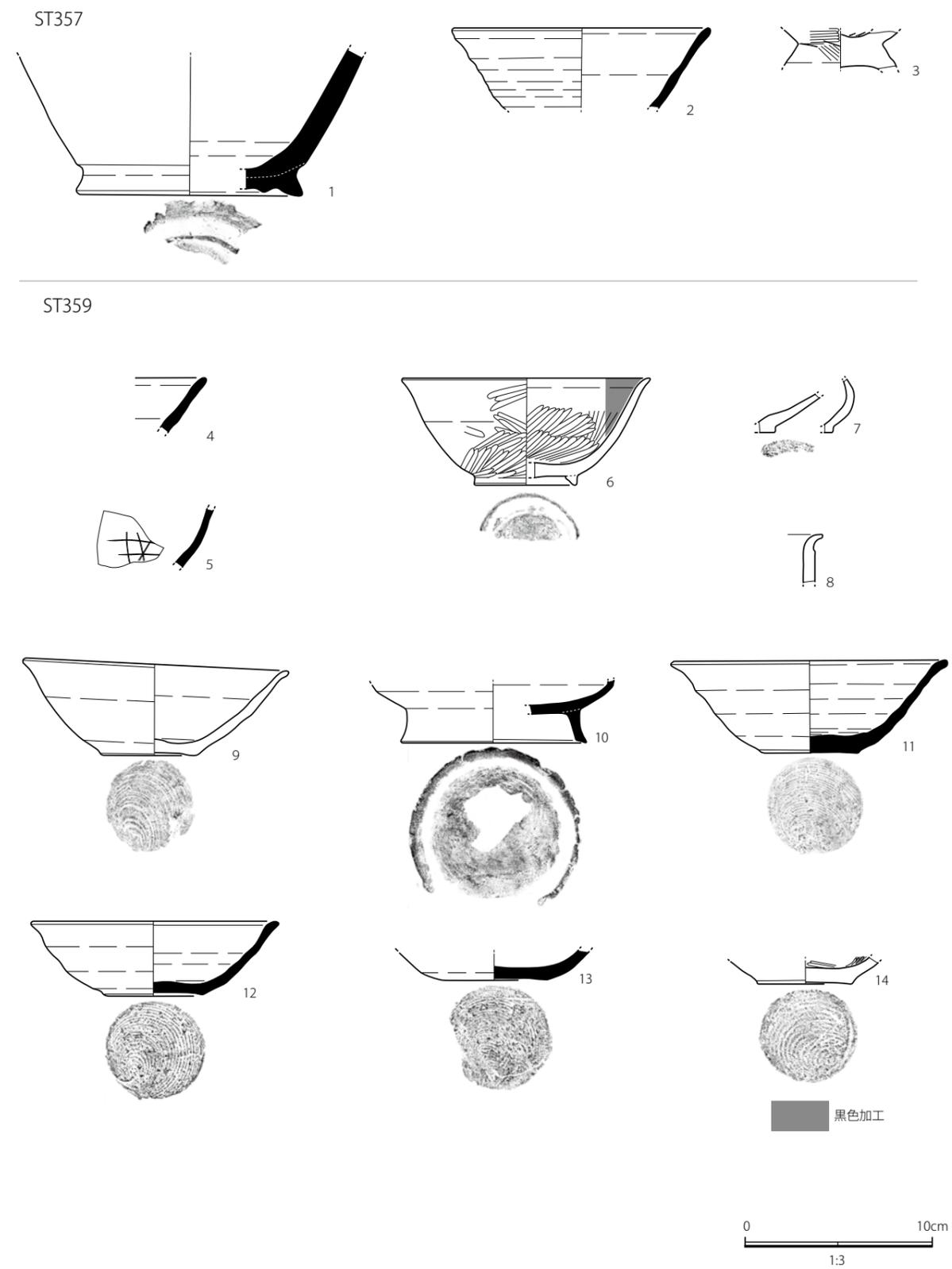
赤色加工



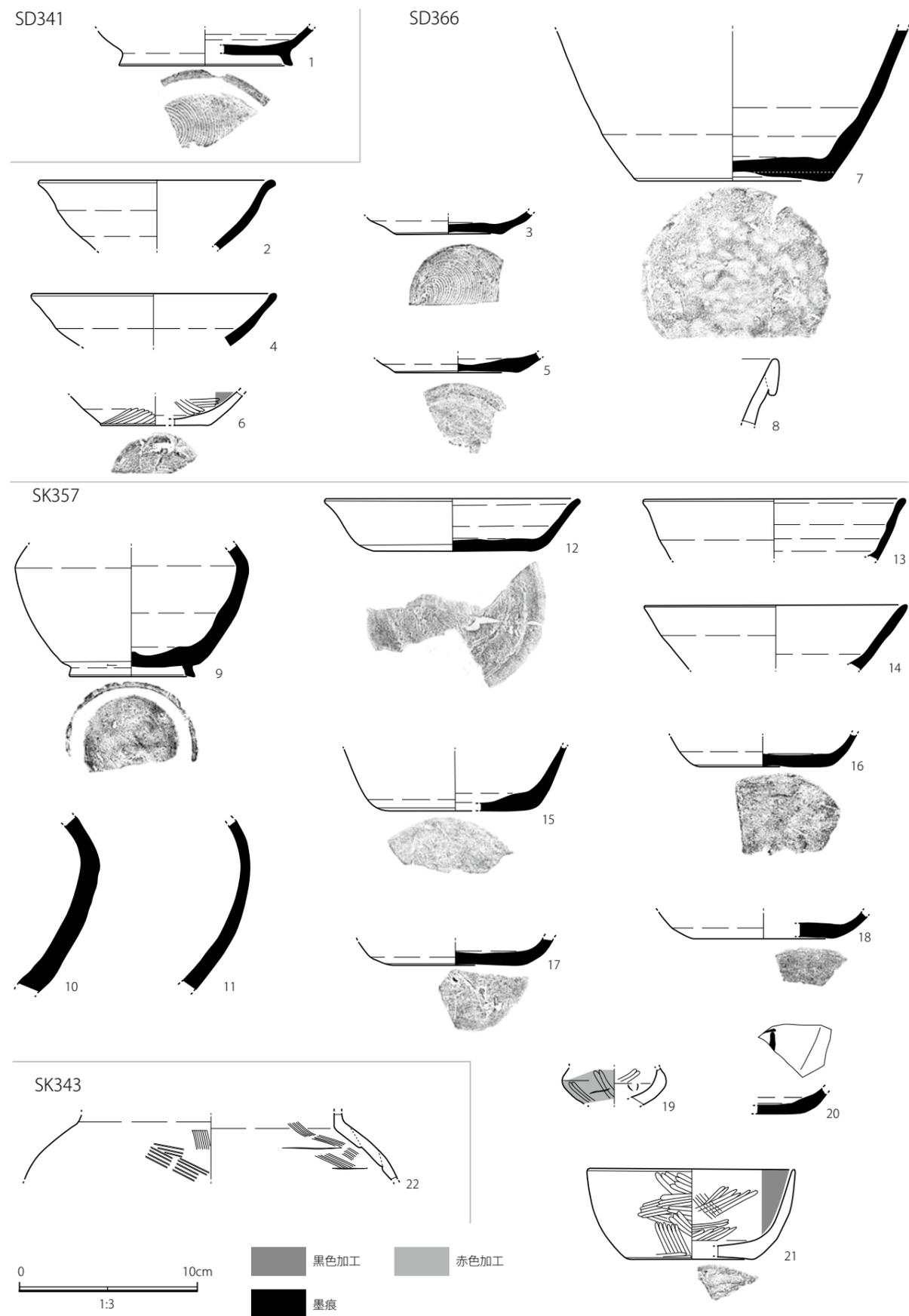
■ 黒色加工
 ■ 赤色加工



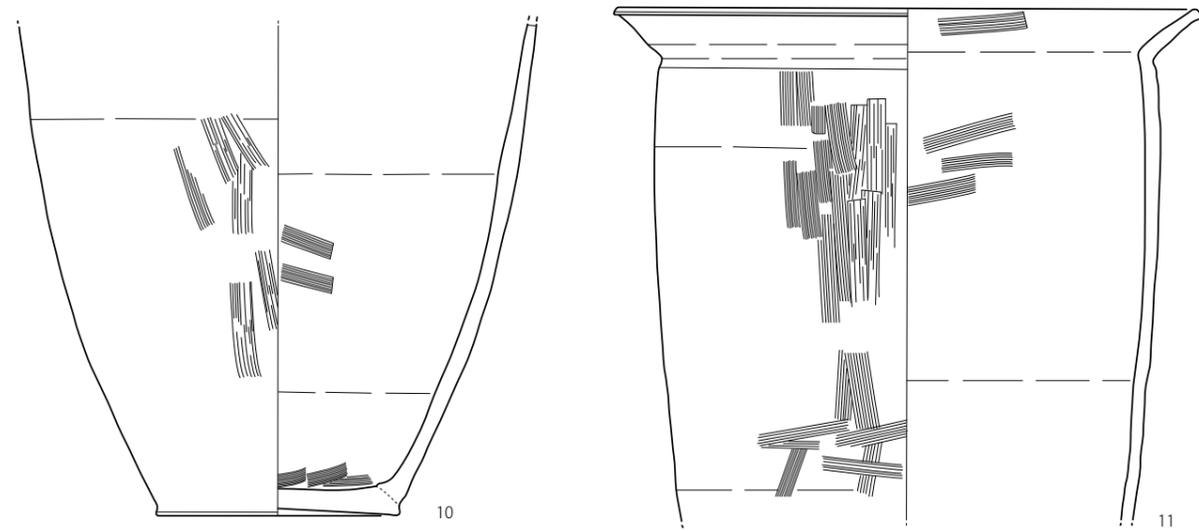
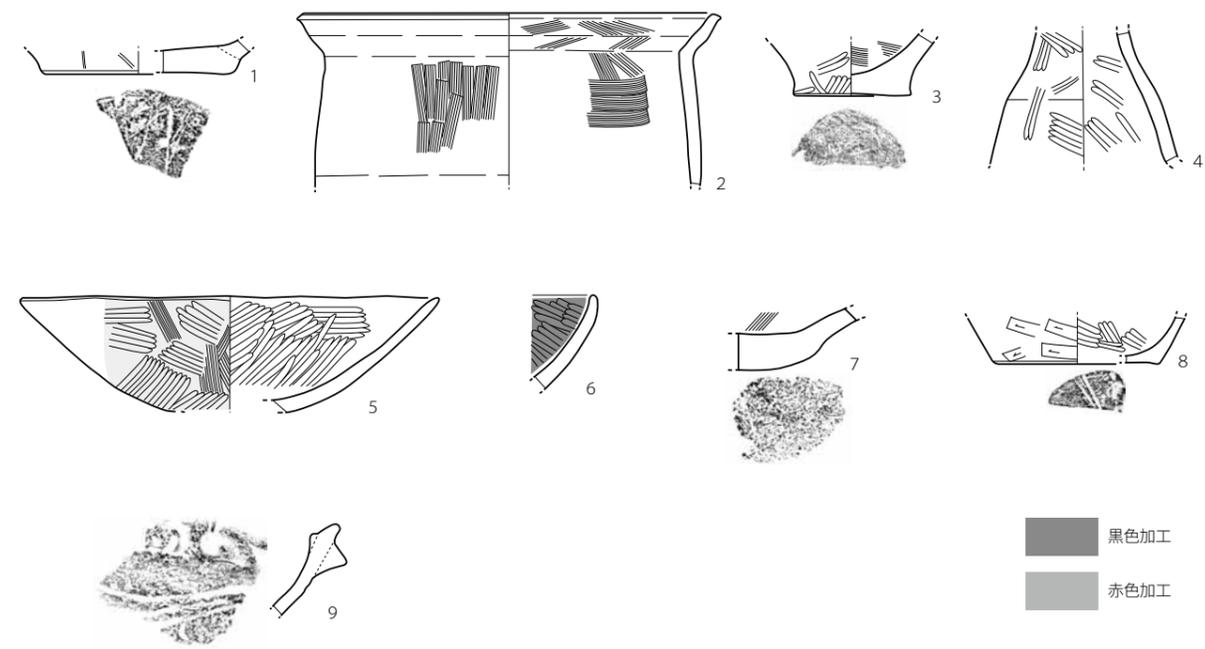
第 38 図 S T 347 ・ 348 出土遺物



第39図 ST 357・359 出土遺物

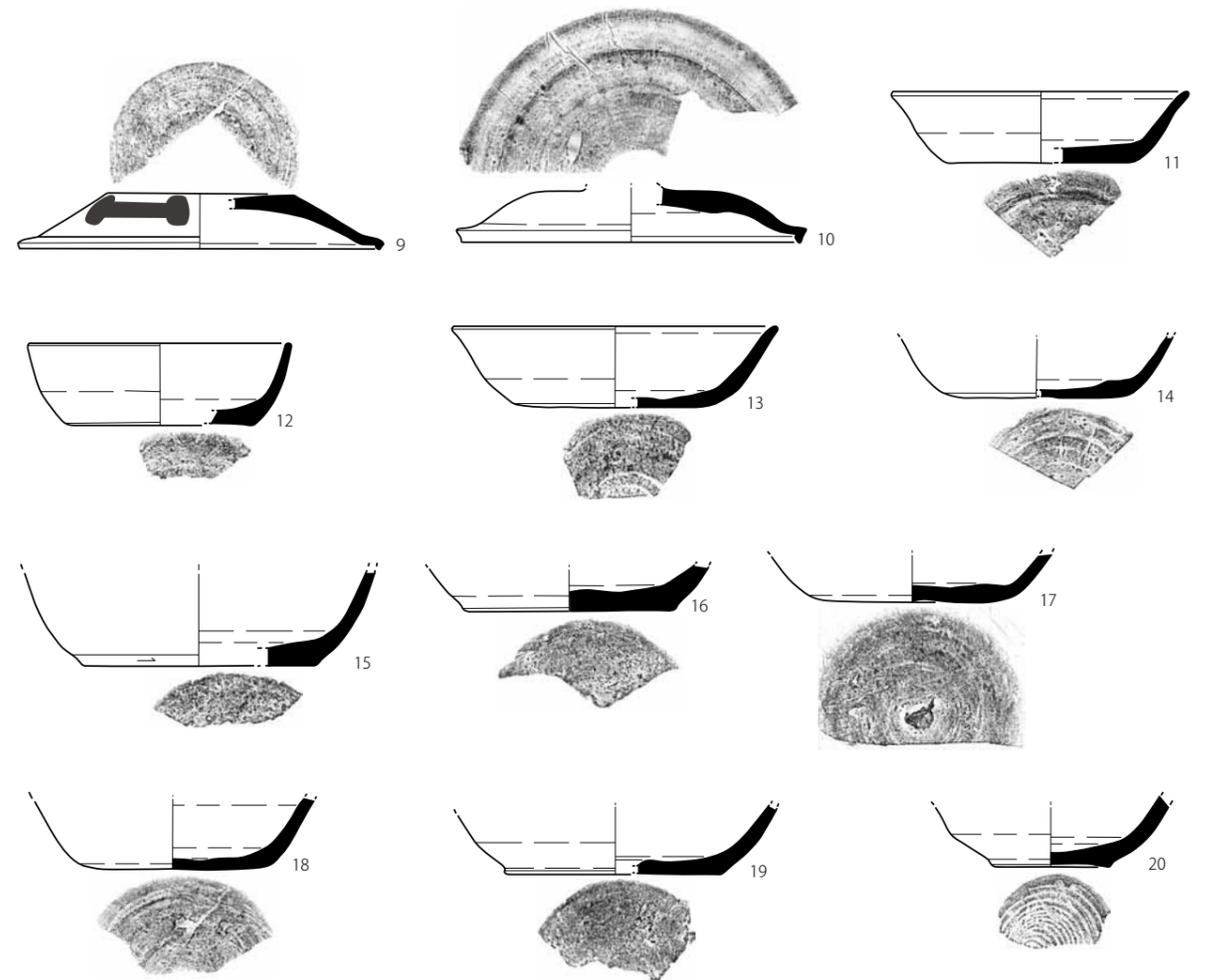
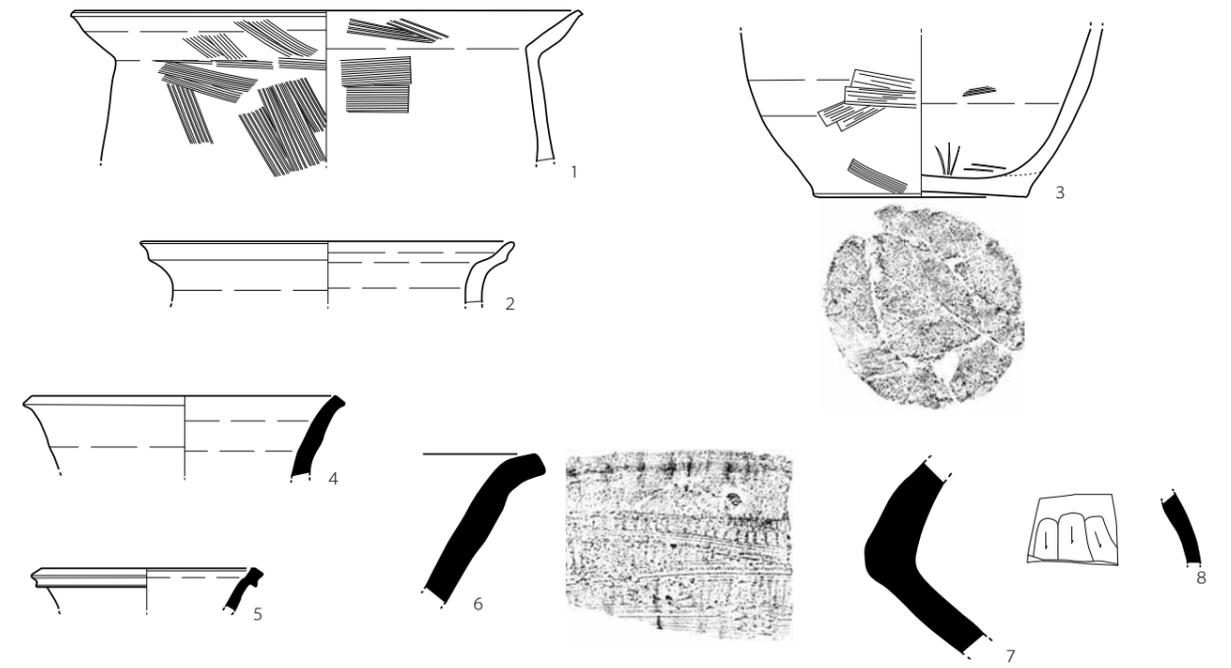


第40図 SD 366・SK 357 出土遺物



0 10cm
1:3

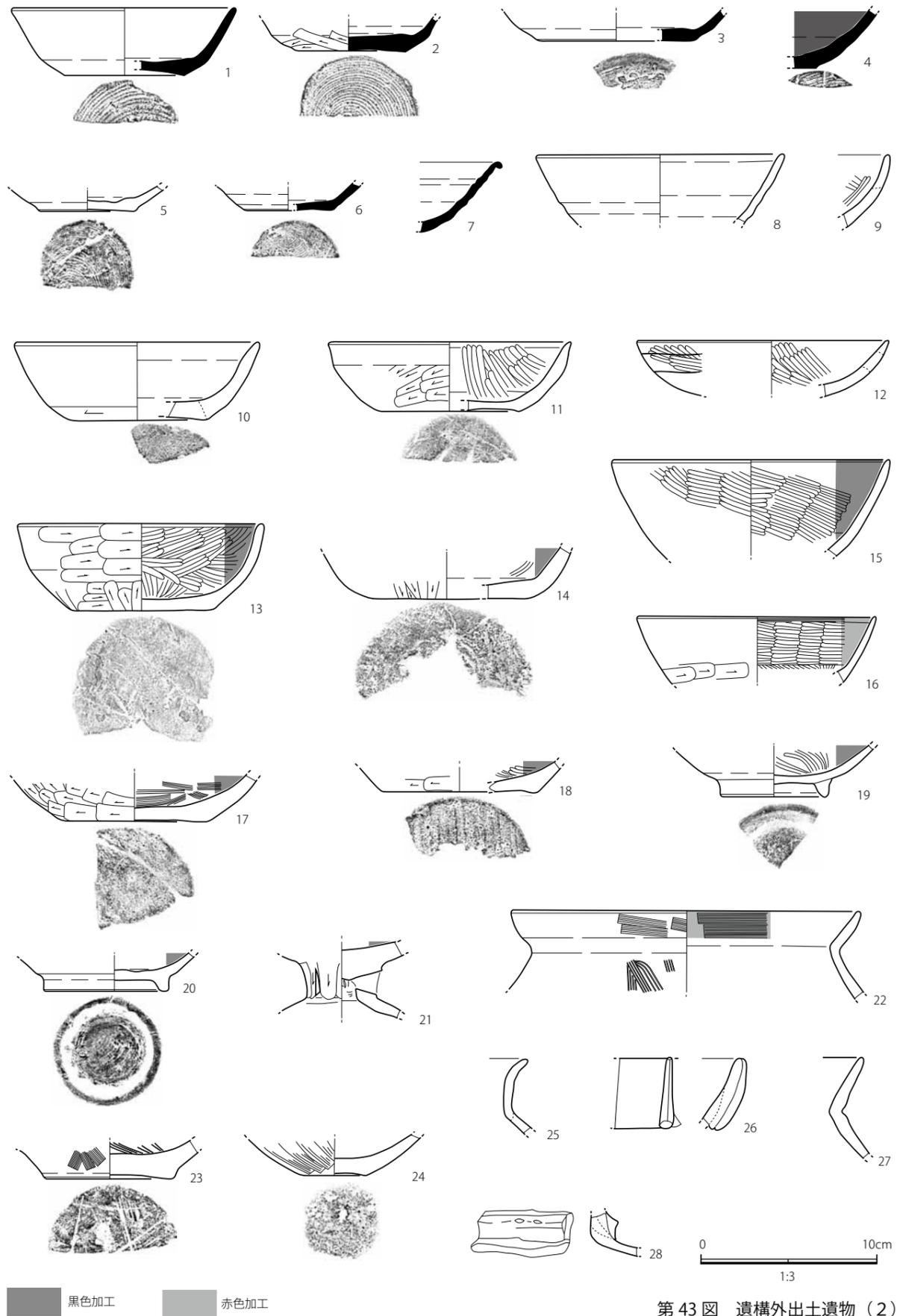
第41図 SP・EP 出土遺物



0 10cm
1:3

■ 墨痕 ■ 漆

第42図 遺構外出土遺物(1)

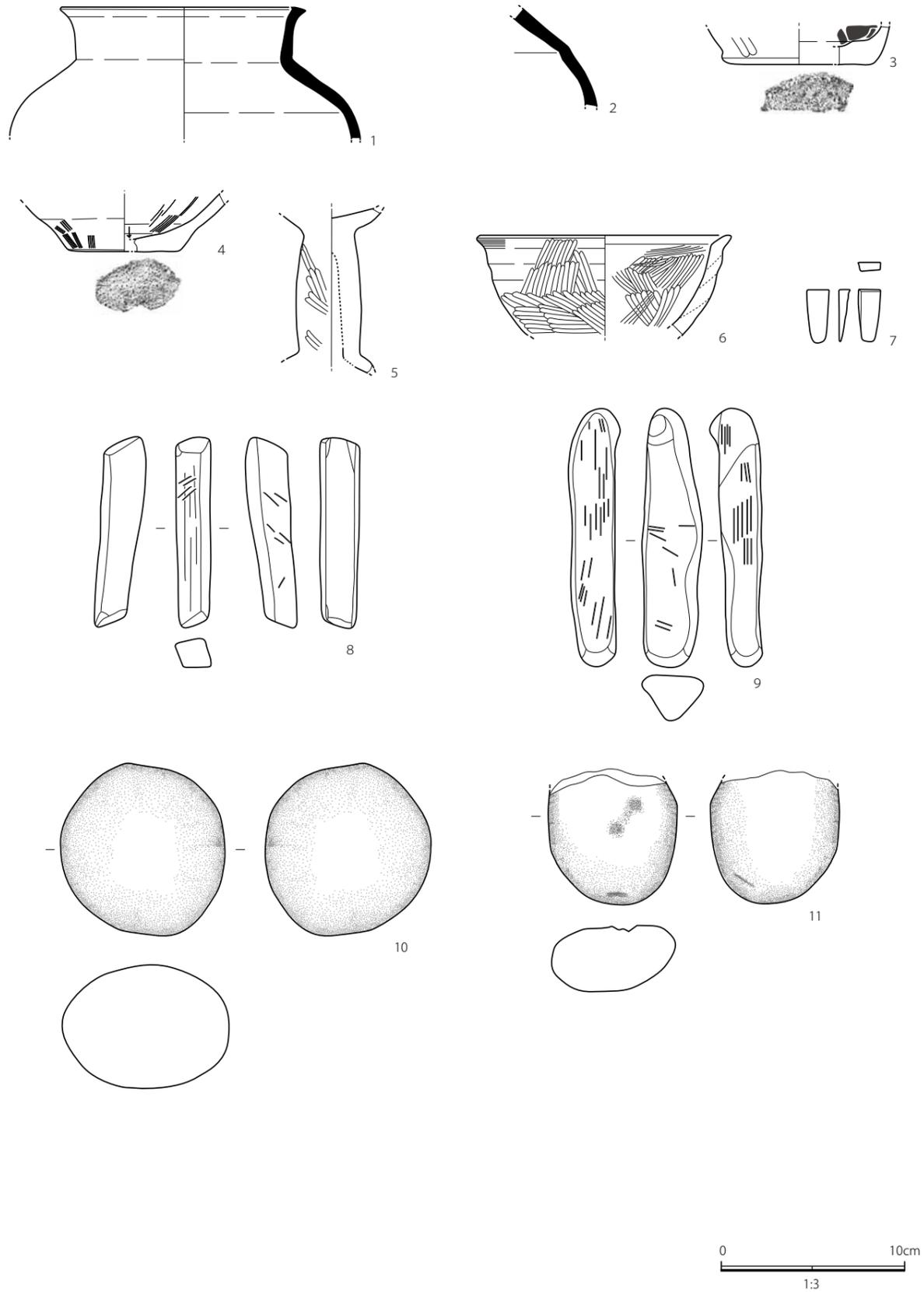


第43図 遺構外出土遺物(2)



第44図 遺構外出土遺物(3)

表4 清水上遺跡 遺物観察表(1)



第45図 遺構外出土遺物(4)

図版 番号	挿図 番号	種別	器種	登録 番号	計測値 (mm)				調整技法			出土 地点	備考
					口径	底径	器高	器厚	外面	内面	底部		
1		土師器	甕	-	(140)	-	-	4	ハケメ	ハケメ	-	SH4Y	
2		土師器	小型甕	-	(140)	-	-	5	ハケメ	ハケメ	-	SH4Y	
3		土師器	不明	-	-	-	-	6	ミガキ	ハケメ?	-	SH4Y	内面に化粧土?
4		土師器	小型土器	-	(60)	-	-	6	ミガキ・ハケメ	ミガキ	木葉痕	SH4F2	赤色粒中量混入
5		土師器	甕	-	(192)	-	-	5	ミガキ・ハケメ	ミガキ・ハケメ	-	SH4F2	外面のみ赤色加工
6		土師器	壺 or 甕	-	(70)	-	-	6	ハケメ	不明	木葉痕	SH4F2	磨減顕著 焼成後底部穿孔?
7		土師器	壺 or 甕	-	(70)	-	-	9	ミガキ	ミガキ	ミガキ	SH4F2	
28	8	土師器	壺 or 甕	RP64	(100)	-	-	6	ヘラナデ	ヘラナデ・ケズリ	木葉痕	SH4	
9		土師器	甕(甕?)	RP41	(230)	-	-	6	ハケメ	ハケメ	-	SH4F1	
10		須恵器	坏	-	(130)	(92)	35	3	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SH4F	切離し後調整有
11		須恵器	坏	RP33	(90)	-	-	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SH4F	切離し後調整有
12		土師器	甕	-	100	-	-	9	ハケメ	ハケメ	木葉痕	SH4F2	
1		土師器	甕	-	100	-	-	9	ハケメ	ハケメ	木葉痕	SH4F2	
2		土師器	甕	RP38	(242)	-	-	6	ハケメ	ハケメ	-	ST1EL	磨減顕著
3		土師器	甕	RP39	(262)	-	-	6	ハケメ	ハケメ	-	ET1EL	内面にスス附着
4		土師器	甕	RP37	228	92	389	7	ハケメ	ハケメ	不明	ST1EL	磨減激しい 特に内面
29	4	土師器	小型甕	RP34	(240)	-	-	6	ハケメ	ハケメ	-	ST1EL	
5		土師器	甕	RP34	-	96	-	5	ミガキ	ミガキ	木葉痕	ST1EL	体部上部が打欠 支脚転用? ソデに埋め込み
7		土師器	小型甕	RP34	-	-	-	6	ハケメ	不明	-	ST1EL	外面磨減顕著(火はね?)
8		須恵器	坏	RP36	144	72	37	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	ST1EL	切離し後ナデ調整
9		須恵器	坏	RP18	(138)	(88)	39	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	ST1cEL	切離し後ナデ調整
1		須恵器	坏	-	-	90	-	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	ST1EL	焼成不良
2		須恵器	坏	-	(132)	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	ST1EL	
3		須恵器	坏	-	-	(74)	-	4	ロクロ	ロクロ	-	ST1EL	焼成不良
4		黒色土器	坏	-	-	-	-	5	ミガキ	ミガキ	-	ST1EL	
5		須恵器	瓶	-	-	-	-	5	ロクロ	ロクロ	-	ST1aY	墨痕有
6		土師器	不明	-	-	156	-	7	ハケメ	ケズリ	ハケメ?	ST1cY	底部磨減顕著
7		土師器	不明	RP71	(100)	-	-	4	ハケメ	ハケメ	不明	ST1Y	底部中央に穿孔痕?
30	8	土師器	甕	RP6	-	80	-	6	不明	ハケメ	ハケメ・ミガキ	ST1cY	内外面磨減 外面火はね?
9		土師器	甕	-	-	(74)	-	6	ハケメ	ハケメ	-	ST1bY	外面被熱著しい
10		須恵器	坏	RP9	-	(88)	-	6	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	ST1Y	焼成不良
11		黒色土器	高台坏	-	-	(60)	-	5	ミガキ	ミガキ	-	ST1cY	底部中央に錐状工具で直径5mmの焼成後穿孔 紡錘車転用?
12		土師器	壺	-	(144)	-	-	5	ミガキ	ミガキ	-	ST1bY	内外面化粧土
13		須恵器	甕	RP30	-	-	-	9	アテ	タタキ	-	ST1F	
14		土師器	甕	-	(210)	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	ST1cF	
15		石製品	紡錘車	RQ4	34	44	11	-	-	ケズリ	-	ST1Y	上面火はね 粘板岩製
1		須恵器	壺	RP28	-	(92)	-	7	ナデ	ロクロ・ハケメ	コピナデ	ST1cF	
2		土師器	甕	-	-	(80)	-	6	ハケメ	ケズリ	木葉痕	ST1dF	磨減顕著
3		土師器	甕	RP29	-	(86)	-	7	ハケメ	ハケメ	木葉痕	ST1F	
4		土師器	小型甕	RP31	144	-	-	5	不明	不明	-	ST1cY	磨減顕著
5		土師器	小型甕	-	(160)	-	-	5	ミガキ	ミガキ	-	ST1cY	赤色粒多量混入 外面火はね著しい
6		土師器	甕	-	-	-	-	6	ロクロ	ロクロ・ケズリ	-	ST1c	
7		土師器	甕	-	(100)	-	-	5	ハケメ	不明	木葉痕	ST1bF	外面被熱、内面底部から2cm以上にスス附着
8		土師器	甕	-	-	(70)	-	5	不明	不明	不明	ST1dF	磨減顕著
9		須恵器	坏	-	134	62	42	5	ロクロ	ロクロ	回転系切	ST2bF	
10		須恵器	坏	-	-	(88)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	ST1cF	切離し後ナデ調整
31	11	須恵器	坏	RP36	(136)	(70)	30	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	ST1cF	切離し後調整有
12		須恵器	坏	-	-	(70)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転系切	ST1e	
13		須恵器	坏	-	-	50	-	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	ST1cF	
14		須恵器	坏	-	-	(66)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転系切	ST1cY	
15		須恵器	坏	-	-	(48)	-	-	ロクロ	ロクロ	回転系切	ST1	
16		土師器	坏	-	-	50	-	4	ミガキ	ロクロ	回転系切	ST1c	スス附着、黒色土器の作りそこね?
17		黒色土器	壺	RP52	-	-	-	7	ミガキ	ミガキ・ケズリ	-	ST1	
18		黒色土器	坏	-	-	-	-	5	ミガキ	ケズリ	-	ST1aF	
19		土師器	坏	-	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	ST1c	
20		黒色土器	高台坏	-	-	(78)	-	6	ミガキ	ミガキ	-	ST1	内面黒色加工
21		黒色土器	高台坏	-	-	60	-	7	ミガキ	ロクロ	不明	ST1	底部中央に錐状工具で直径3mmの焼成後穿孔 紡錘車転用

表5 清水上遺跡 遺物観察表(2)

図版 番号	押図 番号	種別	器種	登録 番号	計測値 (mm)				調整技法			出土 地点	備考
					口径	底径	器高	器厚	外面	内面	底部		
31	22	土師器	甕	-	-	-	-	10	-	-	木葉痕	ST1	甕の底部を円盤状に打欠いたものか
	23	須恵器	蓋	-	(166)	-	-	5	ロク口	ロク口	-	ST1	
32	1	土師器	小型土器	RP21	72	44	40	4	ミガキ	ハケメ	ハケメ	ST1cY	
	2	土師器	小型丸底埴	RP5	-	24	-	7	ミガキ・ハケ	ミガキ	ケズリ	ST1Y	内外面赤彩加工
	3	黒色土器	坏	RP19	-	52	-	3	ミガキ	ミガキ	ハケメ	ST1cEL	
	4	土師器	高坏	RP12	(176)	-	-	5	ミガキ	ミガキ	-	ST1dY	
	5	土師器	高坏	-	(130)	-	-	3	ミガキ	ミガキ	-	ST1cF	赤色加工
	6	土師器	高坏	-	(142)	-	-	3	ミガキ	ミガキ	-	ST1eL	
	7	土師器	高坏	-	(142)	-	-	5	ミガキ	ミガキ	-	ST1c	
	8	土師器	高坏	-	-	-	-	5	-	ミガキ	-	ST1EL	赤色加工
	9	土師器	高坏	-	-	-	-	5	ミガキ	ミガキ	-	ST1bY	高坏皿部 内外面赤彩加工
	10	土師器	壺 or 甕	-	-	(40)	-	6	不明	ハケメ	ケズリ	ST1aY	被熱著しい
	11	土師器	壺 or 甕	-	-	(44)	-	6	ハケメ	ハケメ	ミガキ?	ST1EL	赤色化粧土一部に残る
	12	土師器	壺 or 甕	-	-	-	-	9	ハケメ	ミガキ・ケズリ	-	ST1dF	
	13	土師器	壺	-	-	-	-	9	ミガキ	ミガキ・ハケメ	-	ST1dF	外面スス付着
	14	土師器	甕	-	(110)	-	-	5	ハケメ	ハケメ	-	ST1dF	
	15	土師器	小型甕	-	(136)	-	-	4	ミガキ・ハケメ	ミガキ・ハケメ	-	ST1cF	直行口縁
	16	土師器	壺	-	-	-	-	7	ミガキ	ハケメ	-	ST1c	
	17	土師器	甕	-	-	-	-	5	ハケメ	ハケメ	-	ST1	
	18	土師器	壺 or 甕	-	-	-	-	7	不明	不明	-	ST1EL	折返直行口縁 化粧土 赤色粒多量混入
	19	土師器	壺	-	-	-	-	6	ハケメ	ミガキ	-	ST1EL	折返直行口縁
	20	土師器	小型壺?	-	-	(30)	-	6	不明	不明	不明	ST1aF	
21	土師器	壺	-	-	-	-	5	ハケメ	ミガキ	-	ST1dF		
22	土師器	壺 or 甕	-	-	-	-	7	ハケメ?	ミガキ	-	ST1cF	底部開口部の可能性有 胎土が蒲生田山古墳出土土器と類似	
23	土師器	小型土器	RP7	(107)	-	-	5	ミガキ	ミガキ	-	ST1F	口縁部水平にスス付着 外面被熱	
24	土師器	小型土器	-	(90)	-	-	4.5	ハケメ	ハケメ	-	ST1EK2		
25	土師器	小型土器	-	100	-	-	4	ミガキ	ミガキ	-	ST1c		
26	土師器	壺	-	(150)	-	-	4	不明	ハケメ	-	ST1EK2	折返直行口縁 赤色加工	
27	須恵器	高台坏	-	-	(100)	-	5	ロク口	ロク口	不明	SE1EK2		
33	1	土師器	支脚	RP44	-	70	-	6	ハケメ	不明	木葉痕	ST2EL	外面被熱のため火はね著しい 入れご状態で出土
	2	土師器	甕	RP46	-	96	-	8	ハケメ	ハケメ	木葉痕	ST2EL	入れごの1点
	3	土師器	甕	RP46	-	96	-	7	ハケメ	ハケメ	木葉痕	ST2EL	被熱著しい 入れご状態で出土
	4	土師器	甕	RP48	-	(100)	-	5	ハケメ	ハケメ	木葉痕	ST2EL	スス付着
	5	土師器	甕	-	-	-	-	6	ハケメ	ハケメ	-	ST2EL	口縁部スス付着
	6	土師器	丸底埴	RP48	150	64	50	7	ミガキ	ミガキ	ハケメ	ST2EL	内側で何かを燃やしたか 内面火はね
	7	須恵器	坏	RP47	(140)	(76)	40	5	ロク口	ロク口	ケズリ	ST2EL	
	8	土師器	甕	-	-	96	-	6	ハケメ	ケズリ	不明	ST2cY	外面被熱(底面火はね、側面スス)
	9	土師器	壺	RP23	(144)	-	-	6	ハケメ	ハケメ	-	ST2 b	内外面磨減
	10	土師器	甕	RP23	(116)	-	-	4	不明	ハケメ	-	ST2	磨減顕著
34	2	土師器	甕	RP24	(210)	-	-	7	ハケメ	ハケメ	-	ST2b	
	3	土師器	甕	RP23	(244)	-	-	6	ハケメ	ハケメ	-	ST2bF	
	4	土師器	甕	-	(200)	-	-	7	ハケメ	ハケメ	-	ST2cF	
	5	土師器	甕	-	(240)	-	-	6	ハケメ	ハケメ	-	ST2aF	
	6	土師器	甕	-	-	(110)	-	7	ハケメ	ハケメ	木葉痕	ST2bF	底部付近火はね著しい
	7	土師器	甕	-	-	90	-	7	ハケ	ハケ	木葉痕	ST2bF	外面被熱 スス付着
	8	土師器	甕	-	-	(98)	-	5	不明	不明	木葉痕	ST2bF	磨減顕著
	9	土師器	甕	-	-	(100)	-	6	ハケメ	ハケメ	木葉痕	ST2bF	
	10	土師器	甕	RP16	-	78	-	5	ハケメ	ミガキ	ユビナデ	ST2F	
	1	土師器	甕	RP23	-	98	-	6	不明	ハケメ	木葉痕	ST2bF	
35	2	土師器	甕	-	-	72	-	7	不明	不明	-	ST2cF	磨減顕著
	3	土師器	不明	-	-	(95)	-	7	ミガキ	ケズリ	ミガキ	ST2	
	4	須恵器	稜埴	-	(170)	-	-	5	ロク口	ロク口・ケズリ	-	ST2bF	
	5	須恵器	高台坏	RP72	(150)	90	43	4	ロク口	ロク口	回転ヘラ切	ST2	
	6	須恵器	坏	RP53	(136)	70	43	4	ロク口	ロク口・ケズリ	ケズリ	ST2bF	
	7	須恵器	坏	-	(140)	76	40	5	ロク口	ロク口・ミガキ	回転糸切	ST2eF	稜埴を意識した?
	8	須恵器	坏	RP51	(140)	(86)	42	4	ロク口	ロク口	回転ヘラ切	ST2	切離し後ユビナデ調整
	9	須恵器	坏	RP53	(134)	(40)	36	4	ロク口	ロク口	回転ヘラ切	ST2bF	切離し後ケズリ調整
	10	須恵器	坏	RP49	140	80	32	5	ロク口	ロク口	回転ヘラ切	ST2dF	

表6 清水上遺跡 遺物観察表(3)

図版 番号	押図 番号	種別	器種	登録 番号	計測値 (mm)				調整技法			出土 地点	備考
					口径	底径	器高	器厚	外面	内面	底部		
35	11	須恵器	坏	RP50	(140)	(64)	35	4	ロク口	ロク口	回転ヘラ切	ST2dF	
	12	須恵器	坏	-	(140)	(80)	35	5	ロク口	ロク口	回転ヘラ切	ST2cF	切離し後調整有
	13	須恵器	坏	-	132	68	41	4	ロク口	ロク口	回転糸切	ST2bF	
	14	須恵器	坏	-	(156)	-	-	5	ロク口	ロク口	-	ST2aF	
	15	須恵器	坏	-	(144)	-	-	5	ロク口	ロク口	-	ST2cF	
	16	須恵器	坏	-	(140)	-	-	4	ロク口	ロク口	-	ST2bF	
	17	土師器	埴	-	(164)	-	-	6	ミガキ	ミガキ	-	ST2bF	
	18	土師器	小型丸底壺	-	(138)	-	-	6	ミガキ	ミガキ	-	ST2dF	口縁〜頸部
	19	土師器	埴	-	(132)	-	-	5	ミガキ	ミガキ	-	ST2bF	
	36	1	土師器	埴	-	(162)	-	-	7	ミガキ	ミガキ	-	ST2dF
2		土師器	坏	-	(140)	-	-	4	ロク口	ロク口	-	ST2cF	
3		土師器	不明	-	-	(70)	-	6	ミガキ	ミガキ	ミガキ?	ST2	
4		黒色土器	埴	RP15	168	(90)	64	6	ミガキ	ケズリ・ハケメ	ケズリ?	ST2a	
5		土師器	高台坏	-	-	60	-	5	ロク口	ロク口	回転糸切	ST2cF	
6		土師器	不明	-	-	(90)	-	7	ハケメ	ハケメ	木葉痕	ST2cF	内面にユビ痕有 磨減顕著
7		黒色土器	坏	-	-	(100)	-	7	ミガキ・ユビナデ	不明	回転ヘラ切	ST2bF	外面磨減顕著
8		黒色土器	坏	-	(152)	96	40	8	ミガキ	ロク口・ミガキ	回転ヘラ切	ST2bF	海綿骨針混入
9		土師器	甕	-	-	-	-	10	-	-	布痕	ST2dF	
10		須恵器	壺	-	-	-	-	8	ロク口	ロク口	-	ST2bF	
37	11	須恵器	蓋	-	(178)	-	-	4	ロク口	ロク口	-	ST2	
	12	土師器	高坏	-	-	-	-	9	ミガキ	ミガキ	-	ST2fF	短脚
	13	土師器	甕	-	(150)	-	-	7	ミガキ	ミガキ	-	ST2bF	口縁部スス付着
	14	土師器	小型甕	RP23	(160)	-	-	4	ミガキ	ミガキ	-	ST2bF	化粧土による赤色加工
	15	土師器	甕	-	-	-	-	5	ハケメ	ハケメ	-	ST2	
	16	須恵器	壺	-	-	-	-	7	ハケメ	ハケメ	-	ST2	赤色粒(大) 胎土に混入
	17	土師器	甕	-	(170)	-	-	5	ハケメ	ハケメ	-	ST2bF	
	18	土師器	甕	-	-	-	-	8	ハケメ	ハケメ	-	ST2	
	19	土師器	小型甕	-	-	-	-	5	ミガキ	ミガキ・ハケメ	-	ST2bF	白色化粧土
	20	土師器	壺 or 甕	-	-	(80)	-	7	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ST2	外面赤色加工
38	21	土師器	壺 or 甕	-	-	50	-	8	ハケメ	ハケメ	不明	ST2fF	
	22	土師器	鉢?	RP23	-	-	-	6	ハケメ	ハケメ	-	ST2bF	化粧土による赤色加工
	1	土師器	小型甕	RP26	(152)	-	-	4	不明	ハケメ	-	ST2a	スス付着
	2	土師器	丸底壺	RP23	-	(78)	-	5	ミガキ	ミガキ	ケズリ	ST2bF	
	3	土師器	小型壺	-	-	-	-	6	ミガキ	ミガキ	-	ST2	内外面赤彩加工
	4	土師器	高坏	-	-	-	-	28	-	ミガキ	-	ST2bF	赤色加工
	5	土師器	小型土器	-	(80)	(50)	52	4	ハケメ	ミガキ	-	ST2aF	外面化粧土
	6	土師器	小型甕	-	(106)	-	-	6	ミガキ	ミガキ・ハケメ	-	ST2dF	外面赤色化粧土
	7	土師器	小型土器	RP8	-	32	-	3	ミガキ	ミガキ	木葉痕	ST2F	
	8	土師器	小型土器	RP23	-	70	-	5	ハケメ	ケズリ	ケズリ	ST2bF	
39	9	土師器	小型土器	-	(100)	-	-	4.5	ミガキ	ミガキ	-	ST2	口縁部水平にスス付着
	10	土師器	小型土器	-	(80)	-	-	6	ミガキ・ハケメ	ミガキ・ユビナデ	-	ST2bF	
	11	須恵器	坏	-	(144)	74	36	4	ロク口	ロク口	回転ヘラ切	ST2EK	
	12	須恵器	坏	RP23	150	40	41	4	ロク口	ロク口	回転糸切	ST2bF	
	13	須恵器	坏	-	(140)	(80)	35	40	ロク口	ロク口	不明	ST2EK4	切離し後調整有
	14	黒色土器	坏	-	(172)	(80)	58	8	ミガキ	ミガキ	不明	ST2EK4	復元実測
	15	土師器	甕	RP70	(200)	-	-	6	ハケメ	ミガキ・ハケメ	-	ST2EP	外面スス付着
	16	須恵器	坏	RP57	(144)	56	5	3	ロク口	ロク口	回転糸切	ST356F	
	17	土師器											

表7 清水上遺跡 遺物観察表(4)

図版 番号	押図 番号	種別	器種	登録 番号	計測値 (mm)				調整技法			出土 地点	備考
					口径	底径	器高	器厚	外面	内面	底部		
	8	土師器	小型甕	-	(140)	-	-	6	ミガキ・ハケメ	ハケメ	-	ST348	被熱している
	9	土師器	甕	-	-	(44)	-	6	ハケメ	ハケメ	木葉痕	SK403	スス付着
	10	土師器	甕	RP81	(232)	-	-	7	ハケメ	ハケメ	-	ST348	
	11	土師器	壺	RP67	-	-	-	4	ハケメ	ハケメ	-	ST348	
38	12	土師器	甕	RP67	-	90	-	6	不明	ケズリ	木葉痕	ST348	内外面磨減顕著
	13	土師器	壺 or 甕	RP83	-	-	-	7	ハケメ	ハケメ	-	ST348EP2	
	14	土師器	甕	-	-	(50)	-	7	ハケメ	ハケメ	不明	SK409	焼成後底部穿孔?
	15	須恵器	坏	RP77	(130)	80	36	4	ロクロ	ロクロ・ケズリ	回転ヘラ切	ST348EP	切離し後コピナデ調整
	16	須恵器	坏	-	(140)	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	ST347	
	1	須恵器	壺	-	-	(120)	-	10	ロクロ	ロクロ	不明	ST358	
	2	土師器	坏	-	(140)	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	ST358	
	3	土師器	高坏	-	-	-	-	-	不明	ミガキ	-	ST358	
	4	須恵器	坏	-	(140)	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	ST359	
	5	須恵器	坏	-	-	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	ST359	体部にヘラ書あり「□」
	6	黒色土器	高台坏	-	(134)	(54)	57	5	ミガキ	ミガキ	回転糸切?	ST359	
	7	土師器	耳皿	-	-	-	-	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	ST359	
39	8	土師器	小型土器	-	-	-	-	6	手づくね	手づくね	-	ST359	
	9	土師器	坏	RP60	144	50	49	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	ST3359Y	
	10	須恵器	稜塊	-	-	(100)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	ST359	
	11	須恵器	坏	RP61	(150)	50	50	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	ST359	焼成良好
	12	須恵器	坏	RP59	134	53	40	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	ST359F	
	13	須恵器	坏	RP62	-	56	-	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	ST359	
	14	黒色土器	坏	RP63	-	50	-	5	ミガキ	ロクロ	回転糸切	ST359	
	1	須恵器	高台坏	-	-	(100)	-	3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD341	
	2	須恵器	坏	-	(134)	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	SD366	
	3	須恵器	坏	-	(60)	-	-	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD366	
	4	須恵器	坏	-	(140)	-	-	5	ロクロ	ロクロ	-	SD366	
	5	須恵器	坏	-	(70)	-	-	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	SD366	
	6	黒色土器	坏	-	-	(64)	-	4	ミガキ	ミガキ	回転糸切	SD366	
	7	須恵器	甕	-	-	110	-	5	ロクロ・ユビオシ	ロクロ	ユビオシ	SD366	
	8	土師器	壺	-	-	-	-	6	ミガキ	ハケメ	-	SD366	
	9	須恵器	小型壺	RP55	-	72	-	8	ロクロ	ロクロ・ケズリ	高台調整	SK357Y	算盤玉型体部
	10	須恵器	壺	-	-	-	-	10	ロクロ	ロクロ	-	SK357	
40	11	須恵器	壺	-	-	-	-	5	ロクロ・ハケメ	ロクロ・ハケメ	-	SK357	
	12	須恵器	坏	RP55	144	90	30	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SK357	切離し後調整有
	13	須恵器	坏	-	(150)	-	-	3.5	ロクロ	ロクロ	-	SK357	
	14	須恵器	坏	-	(150)	-	-	5	ロクロ	ロクロ	-	SK357	
	15	須恵器	坏	-	-	(84)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SK356	切離し後ナデ調整
	16	須恵器	坏	-	-	(74)	-	3	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SK357	切離し後調整有 焼成甘い
	17	須恵器	坏	-	-	(80)	-	6	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SK357	切離し後ミガキ調整
	18	須恵器	坏	-	-	(80)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SK357	切離し後調整有
	19	土師器	小型土器	-	-	-	-	7	ミガキ・ハケメ	ミガキ	-	SK357	外面赤色加工
	20	須恵器	坏	-	-	-	-	5.5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	SD366	墨痕あり「□」
	21	黒色土器	平底塊	-	(180)	(70)	53	6	ミガキ	ミガキ	不明	SK357	
	22	土師器	甕	-	-	-	-	5	ハケメ	ハケメ	-	SK434	スス付着
	1	土師器	甕	-	-	(80)	-	12	不明	ハケメ	木葉痕	EP36	
	2	土師器	甕	-	(182)	-	-	6	ハケメ	ハケメ	-	EP49	
	3	土師器	甕	-	-	(50)	-	7	ハケメ	ミガキ	ミガキ	EP60	ミニチュア土器?
	4	土師器	高坏 or 器台	-	-	-	-	6	ミガキ	ミガキ	-	EP76	磨減顕著
	5	土師器	高坏	RP11	(180)	-	-	5	ミガキ	ミガキ・ハケメ	-	SP8	外面化粧土
41	6	黒色土器	塊 or 坏	-	-	-	-	6	ミガキ	ケズリ	-	SP147	
	7	土師器	壺 or 甕	-	-	-	-	7	ハケメ	ケズリ	ケズリ	SP156	
	8	黒色土器	坏	-	-	(70)	-	4	ミガキ	ケズリ	ミガキ	SP278	
	9	縄文土器	鉢	-	-	-	-	5	-	-	-	EP125	
	10	土師器	壺	RP65	-	104	-	7	ハケメ	ハケメ	木葉痕	SK355	
	11	土師器	甕	RP54	(252)	-	-	6	ハケメ	ハケメ	-	SP299	
42	1	土師器	甕	-	(110)	-	-	5	ハケメ	ハケメ	-	C-9G	
	2	土師器	甕	-	(160)	-	-	7	ロクロ	ロクロ	-	C-3G	コゲ付着・ナベ?

表8 清水上遺跡 遺物観察表(5)

図版 番号	押図 番号	種別	器種	登録 番号	計測値 (mm)				調整技法			出土 地点	備考
					口径	底径	器高	器厚	外面	内面	底部		
	3	土師器	甕	-	-	92	-	6	ハケメ	ハケメ	-	D-5G	
	4	須恵器	壺	-	(138)	-	-	6	ロクロ	ロクロ	-	C-3G	
	5	須恵器	壺	-	(100)	-	-	4	ロクロ	ロクロ	-	C-3G	
	6	須恵器	鉢	-	-	-	-	12	ロクロ	ロクロ	-	トレンチ3	
	7	須恵器	甕	-	-	-	-	14	ロクロ	ロクロ	-	C-3G	
	8	須恵器	不明	-	-	-	-	7	ロクロ	ケズリ	-	D-3G	
	9	土師器	蓋	RP1	156	80	23	6	ロクロ	ロクロ	ケズリ	C-9G	外部に漆文字「工」か? 内部に墨痕と漆、転用硯?
	11	須恵器	坏	-	(126)	(80)	30	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	D-5G	切離し後調整有
42	12	須恵器	坏	-	(112)	(80)	35	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	C-4G	
	13	須恵器	坏	-	(140)	(86)	35	6	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	E-5G	切離し後調整有
	14	須恵器	坏	-	-	(74)	-	3	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	E-5G	切離し後調整有
	15	土師器	坏	-	-	(100)	-	5	ロクロ	ロクロ・ケズリ	回転ヘラ切	D-3G	切離し後調整有 外面下部ケズリ
	16	須恵器	坏	RP2	-	90	-	8	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切?	D-9G	磨減顕著
	17	須恵器	坏	-	-	(70)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	C-3G	切離し後調整有
	18	須恵器	坏	-	-	(84)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	C-3G	切離し後調整有
	19	須恵器	坏	-	-	(90)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	D-3G	切離し後ナデ調整 焼成後底部穿孔
	20	須恵器	小型瓶?	-	-	(50)	-	6	ロクロ	ロクロ	回転糸切	C-3G	
	1	須恵器	坏	-	(130)	(70)	49	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	E-5G	稜塊を意識?
	2	須恵器	坏	-	-	(66)	-	3	ロクロ	ロクロ・ケズリ	回転糸切	D-3G	底部付近ヘラケズリ調整
	3	須恵器	坏	-	-	(94)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	E-9G	
	4	須恵器	坏	-	-	-	-	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	D-3G	墨痕あり、転用硯?
	5	土師器	坏	-	-	(56)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	C-3G	
	6	須恵器	坏	-	-	(50)	-	4	ロクロ	ロクロ	回転糸切	D-3G	
	7	須恵器	坏	-	-	-	-	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	D-3G	
	8	土師器	坏	-	-	144	-	5	ロクロ	ロクロ	-	D-3G	
	9	土師器	塊	-	-	-	-	5	ロクロ・ミガキ	ロクロ・ミガキ	-	C-4G	
	10	土師器	坏	-	(140)	(80)	445	8	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	E-5G	底部に調整痕有
	11	土師器	坏	-	(140)	(80)	40	7	ミガキ	ケズリ	ケズリ	E-2G	赤色粒混入
	12	土師器	坏	-	(144)	-	-	6	ミガキ	ミガキ	-	G-3G	外面磨減顕著
	13	黒色土器	坏	-	(140)	(82)	50	5	ミガキ	ミガキ	ケズリ	E-4G	
43	14	黒色土器	丸底塊	-	-	(90)	-	9	ミガキ	ケズリ	ケズリ	F-4G	磨減顕著
	15	黒色土器	塊	-	(160)	-	-	5	ミガキ	ミガキ	-	D-3G	
	16	黒色土器	坏	-	(138)	-	-	4	ロクロ・ミガキ	ロクロ・ケズリ	-	D-5G	
	17	黒色土器	塊	-	-	(82)	-	8	ケズリ	ミガキ	不明	E-5G	
	18	黒色土器	平底塊	-	-	(900)	-	6	ミガキ	ケズリ	ケズリ	C-3G	底部穿孔痕有
	19	黒色土器	高台坏	-	-	(60)	-	4	ミガキ	ロクロ	回転糸切	C-3G	
	20	黒色土器	坏	-	-	(62)	-	5	ロクロ	ロクロ	回転糸切	C-3G	
	21	黒色土器	高坏	-	-	-	-	8	-	ケズリ	-	C-4G	須恵器高坏の模倣 脚部に3ヶ所スリットあり
	22	土師器	甕	-	(102)	-	-	6	ハケメ	ハケメ	-	C-4G	赤色加工
	23	土師器	壺 or 甕	-	-	(74)	-	9	ハケメ	ハケメ	ハケメ	D-3G	
	24	土師器	壺 or 甕	-	-	38	-	6	不明	ハケ	ケズリ	TP14	外面にスス付着、使用痕?
	25	土師器	甕	-	-	-	-	5	ハケメ	ハケメ・ナデ	-	D-3G	小型甕・使用痕あり
	26	土師器	壺	-	-	-	-	7	不明	不明	-	C-3G	口縁部加飾棒状浮紋・磨減顕著
	27	土師器	甕	-	-	-	-	7	不明	不明	-	C-4G	
	28	土師器	壺	-	-	-	-	5	ハケメ	ナデ	-	TP19	凸帯加飾
	1	土師器	甕	-	-	(44)	-	6	ハケメ	ケズリ	ケズリ	E-5G	内面に使用痕(コゲ有)
	2	土師器	小型壺	-	-	-	-	5	ハケメ	ミガキ	-	TP14	
	3	土師器	小型甕	-	(130)	-	-	5	ハケメ	ロクロ・ハケメ	-	C-5G	
	4	土師器	壺 or 甕	-	-	-	-	5	不明	不明	-	E-5G	
	5	土師器	小型土器	-	(80)	(60)	56	4	ミガキ・ハケメ	ミガキ・ハケメ	木葉痕	E-4G	赤色粒中量混入
	6	土師器	小型土器	-	-	36	-	5	ハケメ	ナデ	ハケメ・ナデ	C-4G	
44	8	土師器	塊	-	-	-	-	6	ミガキ	ケズリ	-	E-3G	赤色加工
	9	土師器	器台	-	-	-	-	6	ミガキ	ミガキ	-	D-3G	ミニチュア?
	10	土師器	小型土器	-	-	-	-	7	-	ミガキ	-	TP15	赤色加工
	11	土師器	小型土器	-	-	-	-	5	-	ミガキ	-	TP13	赤色加工
	12	土師器	高坏	-	-	-	-	15	-	ミガキ	-	TP9	磨減顕著
	13	土師器	高坏	-	-	-	-	7	-	ミガキ	-	C-3G	赤色加工
	14	土師器	高坏	-	-	-	-	10	-	ミガキ	-	E-5G	赤色粒混入

写真図版



S D 353・366 溝跡と秋葉山（南西より）



清水上遺跡 調査前全景 (西より)



清水上遺跡 調査前全景 (南より)



清水上遺跡 調査前全景 (東より)



表土除去作業 (南より)



面整理作業 (北より)



面整理作業 (東より)



面整理作業 (西より)



遺構確認状況（西より）



遺構確認状況（西より）



遺構確認状況（西より）



空中撮影（上が西方向）



空中撮影（上が北方向）



SH3完掘状況(東より)



SH4完掘状況(北より)



SH3土層断面 b-b' (南より)



SH3土層断面 c-c' (南東より)



SH4土層断面 a-a' (西より)



SH4土層断面 b-b' (東より)



SH4 28-11 出土状況(北より)



SH4 28-8 出土状況(南より)



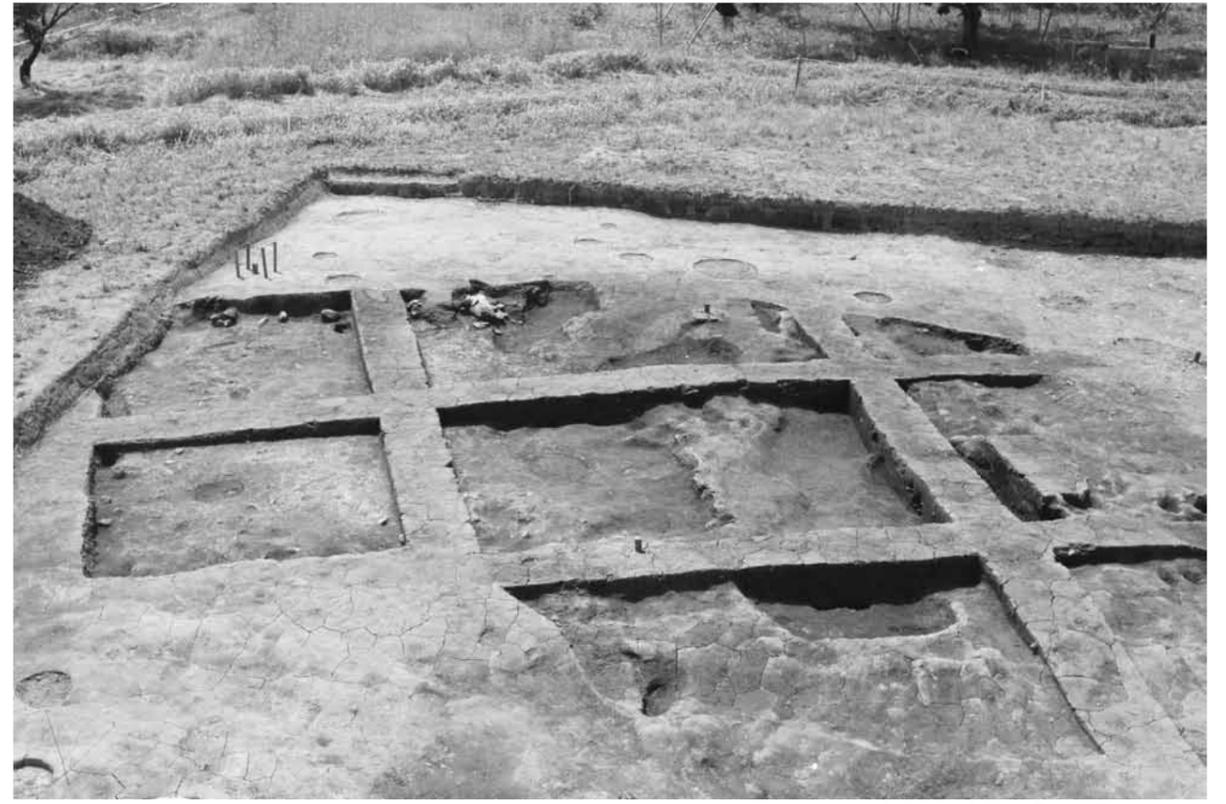
SH4土層断面 d-d' (南東より)



SH4 28-9 出土遺物(北西より)



ST 1・2完掘状況（北東より）



ST 1・ST 2調査状況（北より）



ST 1・2完掘状況 空中撮影（上が東方向）



ST 1調査状況（北より）



ST1カマド周辺
遺物出土状況（南より）



ST1カマド周辺遺物出土状況（北より）



ST1カマド断面（西より）



ST1カマド周辺調査状況（北より）



ST1カマド調査状況（1）

写真図版8

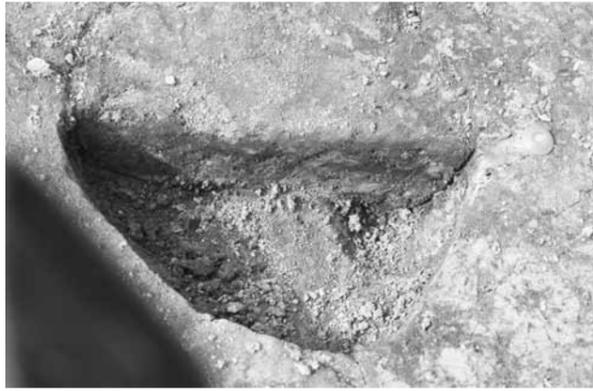
40-5（転用支脚）
埋設状況
（北東より）

ST1カマド調査状況（2）

写真図版9



ST1EP1 (東より)



ST1EP3 (南より)



ST1EP4 (東より)



ST1EP5 (東より)



ST1 32-1・2・3 (ミニチュア土器) 出土状況 (南より)



ST1 30-15 (紡錘車) 出土状況 (東より)



ST1 29-9 (須恵器) 出土状況 (東より)



ST1 31-17 (黒色土器) 出土状況 (北より)

ST1 調査状況(2)

写真図版 10



33-1・2・3 遺物出土状況 (東より)



ST2 カマド周辺遺物出土状況 (南より)



ST2 34-1・2・4 出土状況 (東より)

ST2 調査状況(1)

写真図版 11



ST 1 E K 1 礫出土状況 (南より)



ST 2 E K 1 土層断面 (北西より)



ST 2 E P 3 土層断面 (西より)



ST 2 E K 1 35-12 (須恵器) 出土状況 (北西より)



ST 2 E K 2 土層断面 (東より)



ST 347 小・348 (大) 完掘状況 (北西より)



ST 347・348 E K 1 土層断面 (北より)



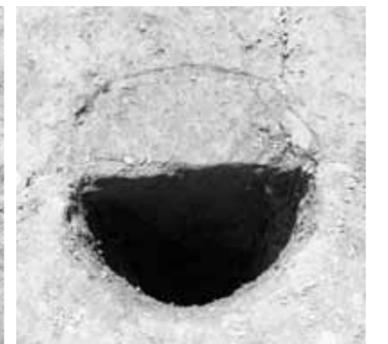
ST 347・348 E K 2 土層断面 (北より)



ST 347・348 E P 1 土層断面 (北より)



ST 347・348 E P 2 土層断面 (北より)



ST 47・348 E P 3 土層断面 (北より)



S T 347・348 調査状況 (東より)



S T 347・348 調査状況 (南より)



S T 347・348 カマド周辺
調査状況 (北より)



S T 347・348 E K 3 土層断面 (北より)



S T 356 (左)・350 (右) 完掘状況 (西より)



S T 350 土層断面 (西より)



S T 356 土層断面 (南より)



S T 356 カマド完掘 (西より)



S T 356 カマド焼土断面 (南より)



S T 356 カマド断面 (北より)



S T 356 カマド・敷石調査状況 (西より)



S T 359 (奥) 360 (手前)
完掘 (南西より)



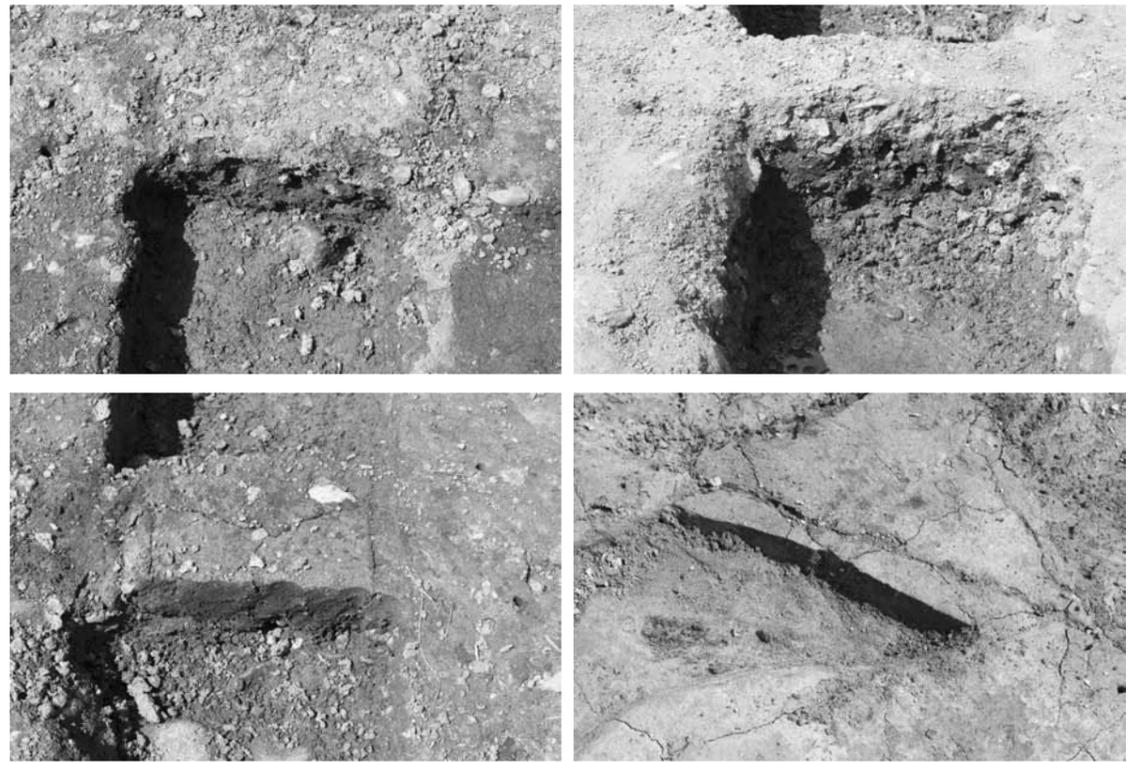
S T 359 (奥) 360 (手前)
調査状況 (南より)



S T 359 出土遺物 (北より)
S T 359・360 調査状況
写真図版 17



S D 353・366・S K 357 完掘状況 (北より)



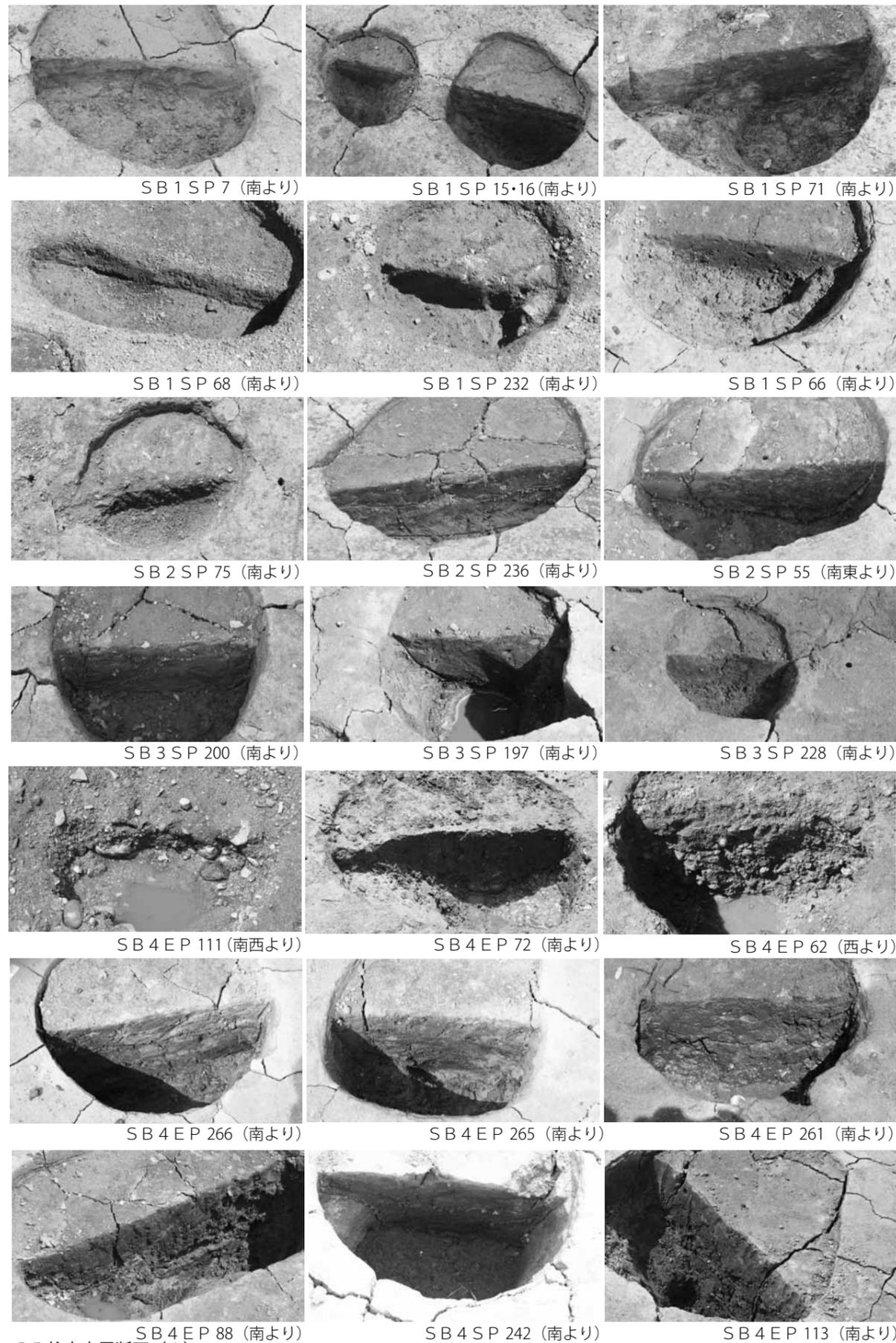
(左上から)
S D 353a-a'、b-b、c-c'
S D 366d-d' 土層断面
(南より)



S K 357 土層断面(南より)



S K 357 40-9 出土状況 (南より)
S D 353・366・S K 357 調査状況
写真図版 19



SB1 SP 7 (南より)

SB1 SP 15・16(南より)

SB1 SP 71 (南より)

SB1 SP 68 (南より)

SB1 SP 232 (南より)

SB1 SP 66 (南より)

SB2 SP 75 (南より)

SB2 SP 236 (南より)

SB2 SP 55 (南東より)

SB3 SP 200 (南より)

SB3 SP 197 (南より)

SB3 SP 228 (南より)

SB4 EP 111(南西より)

SB4 EP 72 (南より)

SB4 EP 62 (西より)

SB4 EP 266 (南より)

SB4 EP 265 (南より)

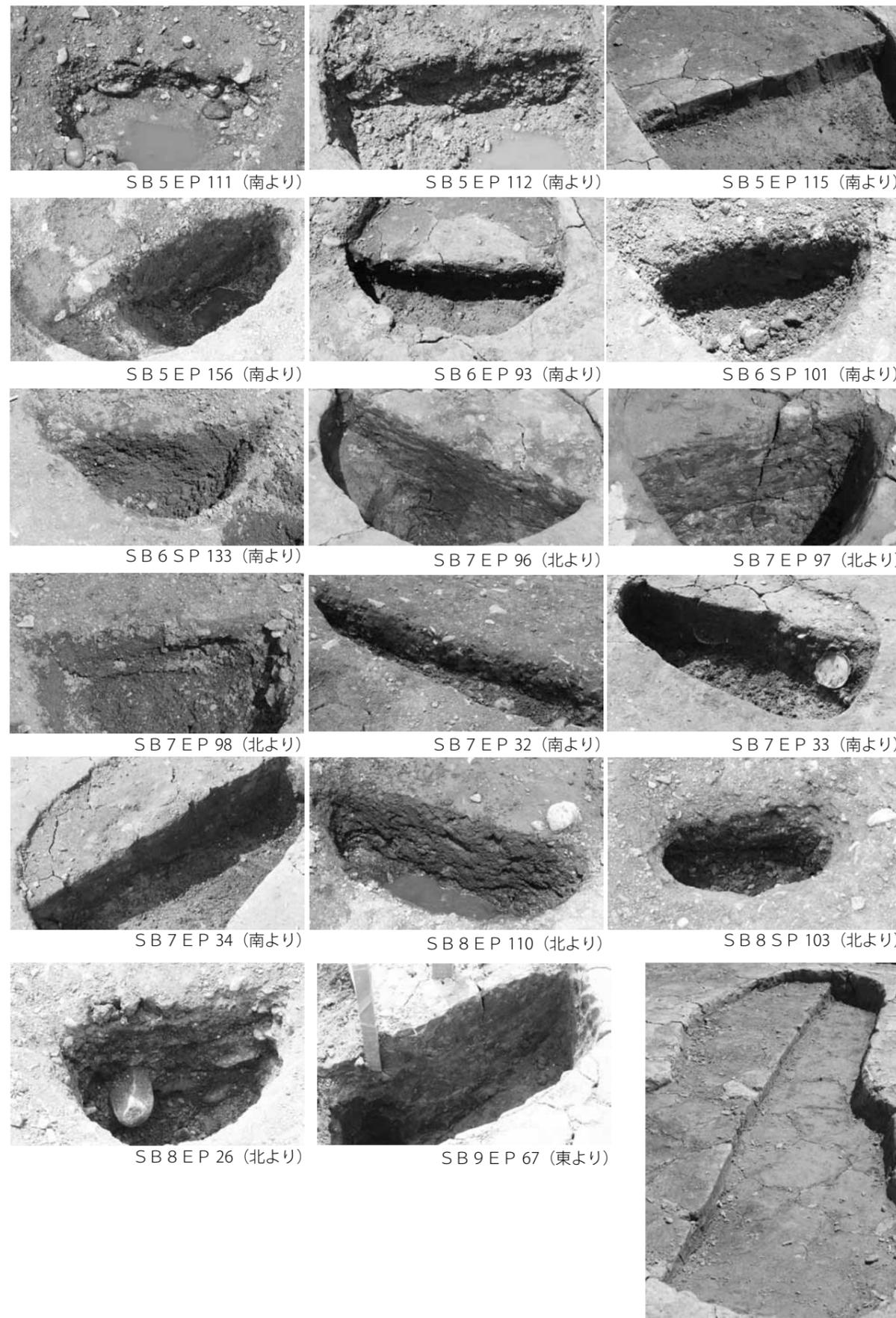
SB4 EP 261 (南より)

SB4 EP 88 (南より)

SB4 SP 242 (南より)

SB4 EP 113 (南より)

SB柱穴土層断面 (1)



SB5 EP 111 (南より)

SB5 EP 112 (南より)

SB5 EP 115 (南より)

SB5 EP 156 (南より)

SB6 EP 93 (南より)

SB6 SP 101 (南より)

SB6 SP 133 (南より)

SB7 EP 96 (北より)

SB7 EP 97 (北より)

SB7 EP 98 (北より)

SB7 EP 32 (南より)

SB7 EP 33 (南より)

SB7 EP 34 (南より)

SB8 EP 110 (北より)

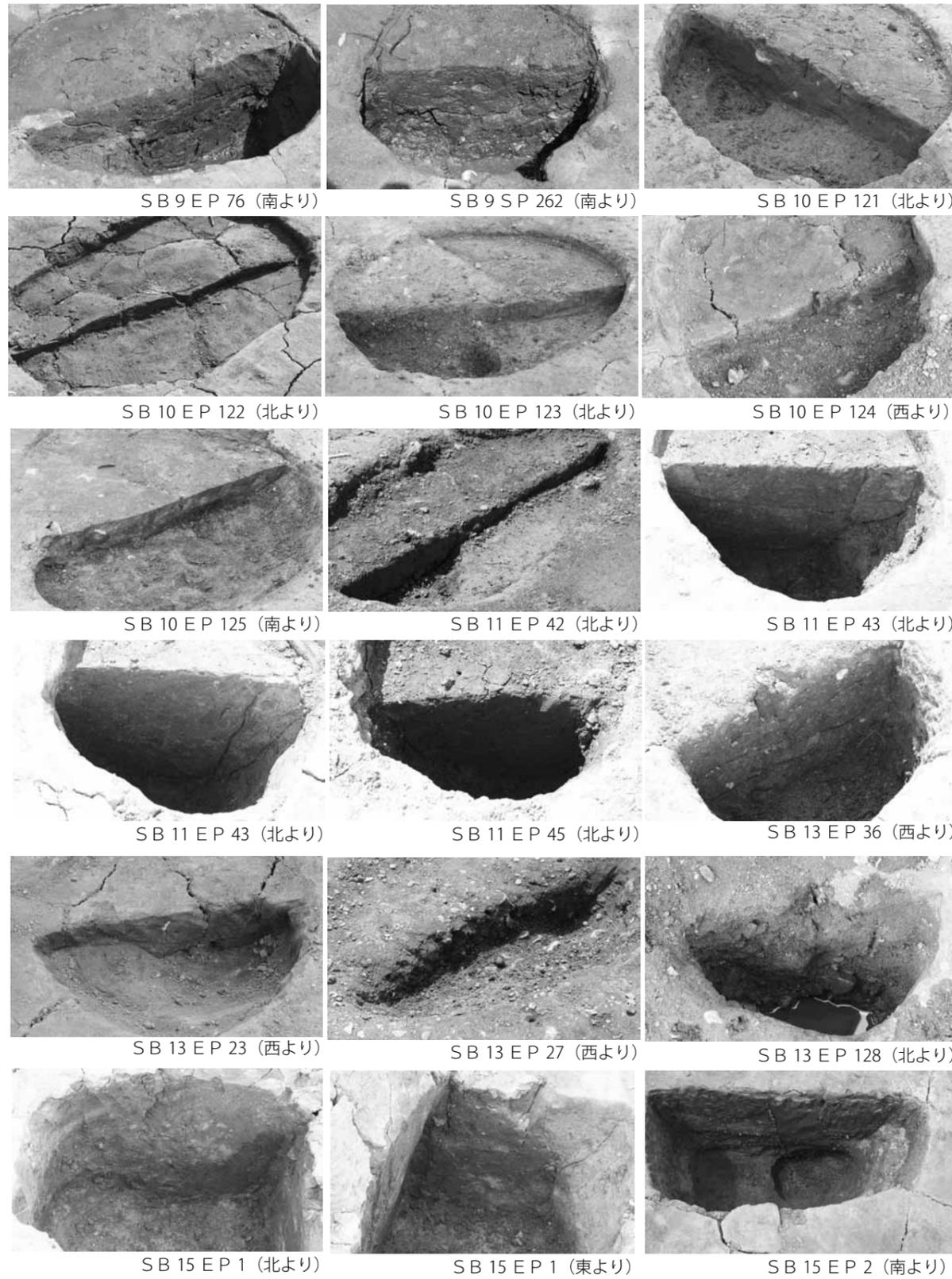
SB8 SP 103 (北より)

SB8 EP 26 (北より)

SB9 EP 67 (東より)

SB8 EP 331(南西より)

SB柱穴土層断面 (2)



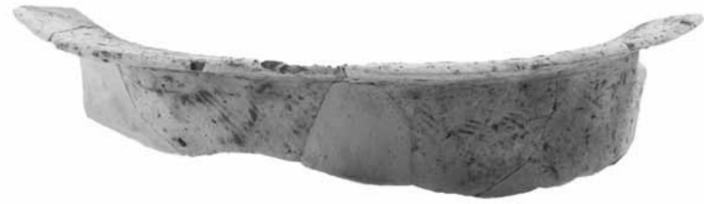
SB柱穴土層断面 (3)
写真図版 22



SH 4 出土遺物
写真図版 23



29-1



29-2



29-6・3-2
29-7・3-1
(左上から)



29-3



29-4



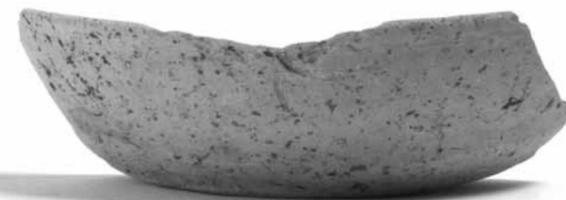
29-8



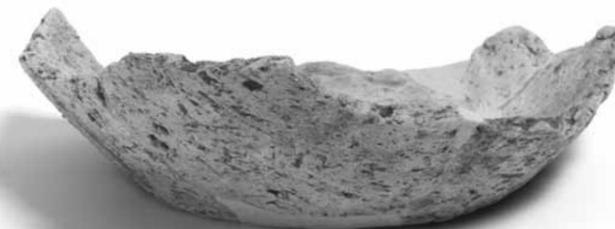
30-15



29-5



29-9



30-6



30-4・3・5・7
30-9・10・11
(左上から)



30-13・12・4-6
30-13・4-5
(左上から)



31-1



31-2



31-11・8・7
31-12・13・14・15
(左上から)



31-18・19・20・16
31-23・22・21
(左上から)



31-3



31-9



31-17



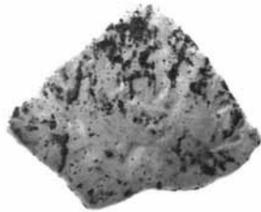
32-1



32-2



32-15・16・17
32-18・19・21・22
(左上から)



32-4・5・7
32-6・8・9
(左上から)



32-20・23
32-26・24
(左上から)



32-3・10・11
32-13・12・14
(左上から)



32-27



ST2 カマド一括出土土器



33-3



33-4



33-6



33-7



33-1



33-2



33-5



33-8



33-9



34-1



34-5



34-8



34-9



34-2



34-3



34-4



34-10・35-1
35-3・2
(左上から)



34-6



34-7



35-5



35-6



35-7



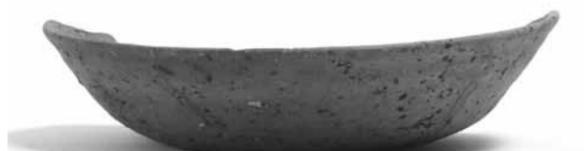
35-8



35-4・14・15・16
35-17・18・19
(左上から)



35-9



35-10



35-11



35-12



35-13



36-1・2・3
36-5・4・9
(左上から)



36-7・13・11
36-14・15・16
(左上から)

36-17・20・21
36-18・19・22
(左上から)



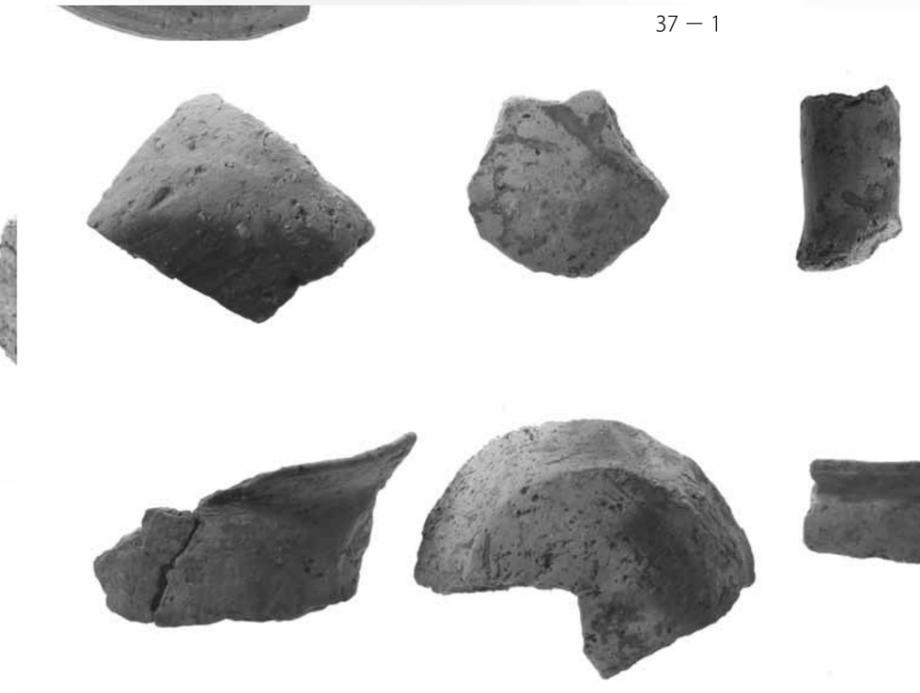
37-1



37-2



37-7



37-2・3・4
37-6・8・9
(左上から)



37-11



37-12
ST 2 出土土器 (6)
写真図版 37



37-6・14・15 (左から)



37-13



37-18



37-16



37-19



37-17



37-20



38-1



38-2



38-3



38-4



38-5



38-6



38-7



38-7・8・11 (左から)



39-1



39-3



39-4



38-10



38-12



38-15



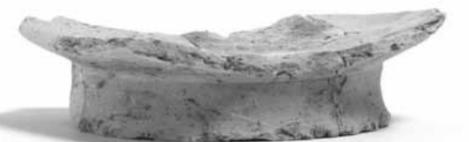
39-2・4・5
39-7・8・13
(左上から)



38-13・14・16 (左から)



39-9



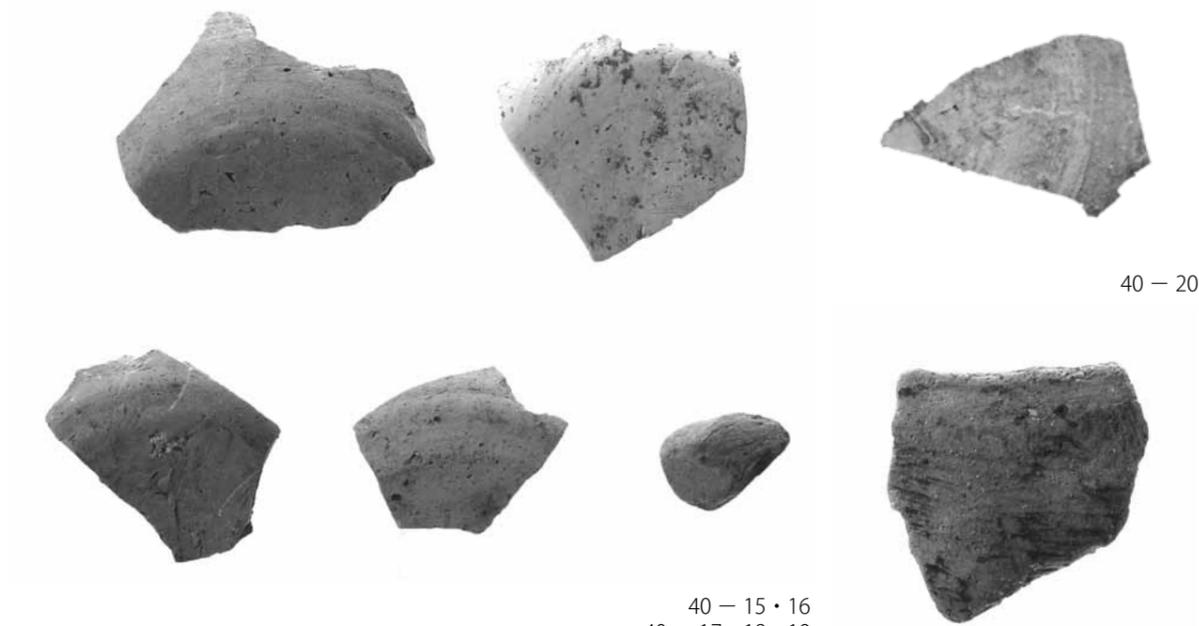
39-10



39-14・40-1・2
40-3・4・6
(左上から)

40-7

40-9



40-20

40-15・16
40-17・18・19
(左上から)

40-22

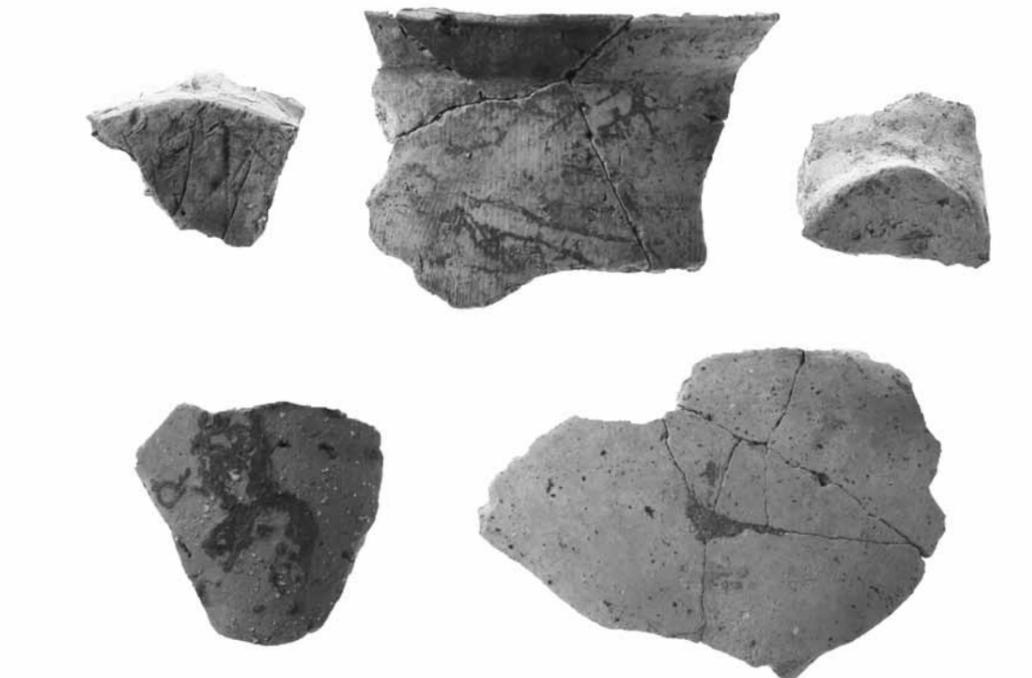


40-12

40-21



40-5・8・13
40-14・10・11
(左上から)



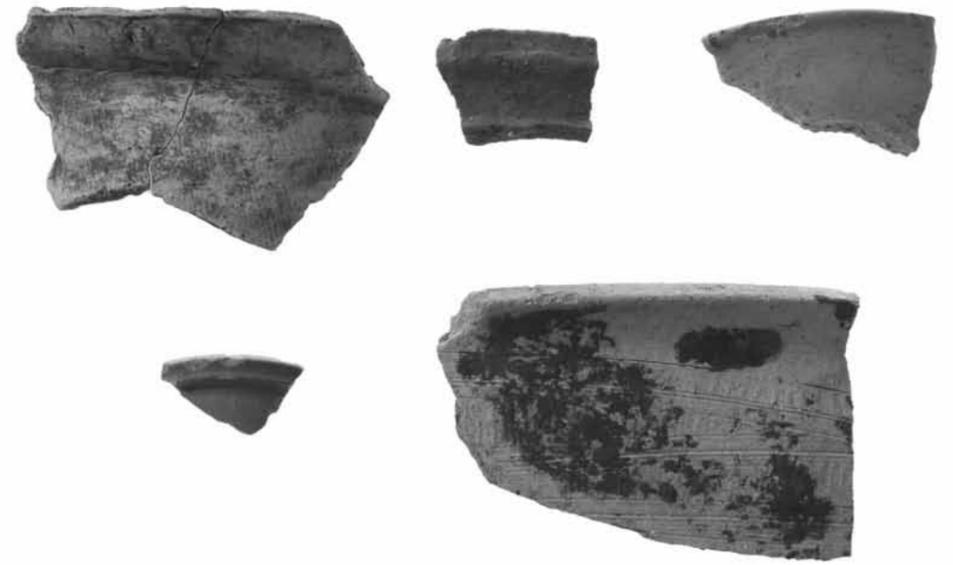
41-1・2・3
41-4・5
(左上から)



41-10



41-11

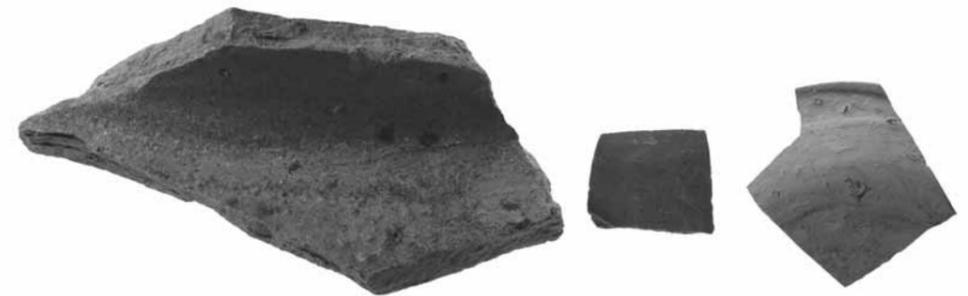


42-1・2・4
42-5・6
(左上から)

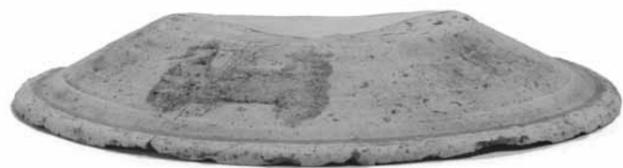


42-3

41-6・7
41-8・9
(左上から)



42-7・8・11
42-14・15・16
(左上から)



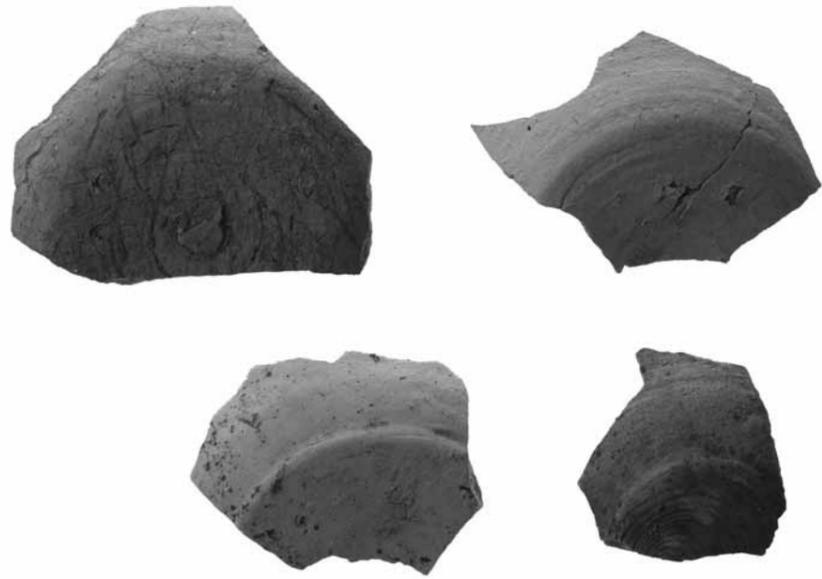
42-9



42-10



42-13



42-17・19
42-20・21
(左上から)

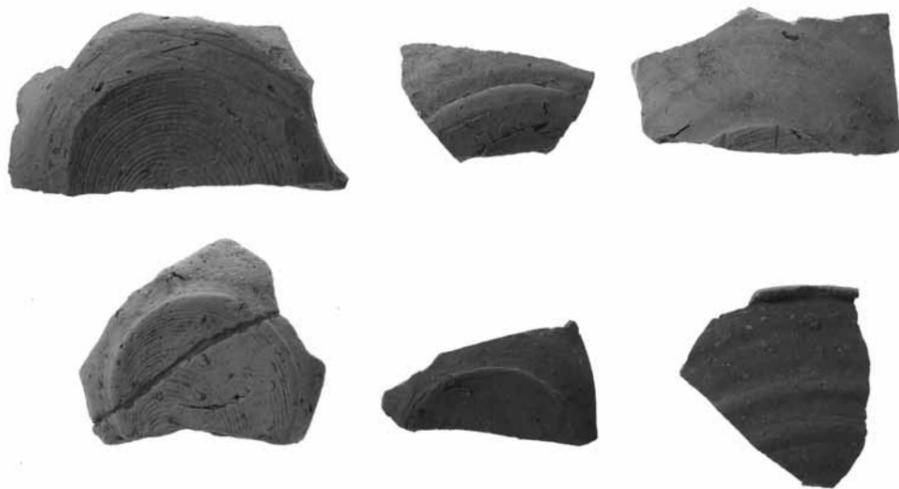


43-8・9・12
43-15・16
(左上から)



43-1

43-10



43-2・3・4
43-5・6・7
(左上から)



43-17・18
43-19・22・25
(左上から)



43-20

43-21



43-26・27・23
43-24・28
(左上から)



44-1・2・8
44-3・4・10
(左上から)



44-5

44-6



44-8

44-9



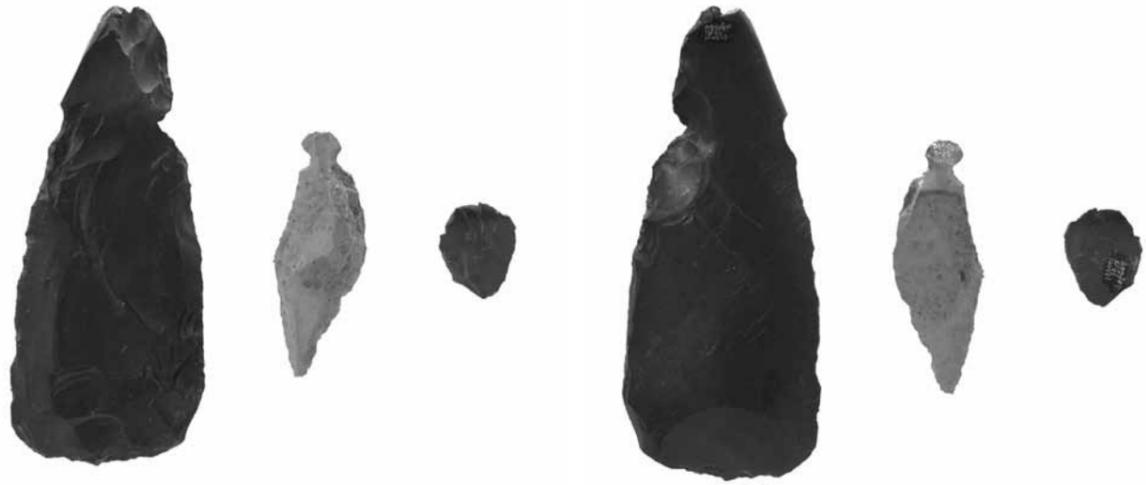
44-11・12・13・14・15
(左から)



44-17・16・13・18
44-19・20・21
(左上から)



45-7



44-23・24・25 (左から)



45-8・9・10・11 (左から)



44-22・26 (左から)



45-1・2・3
45-4・5・6
(左上から)

報告書抄録

ふりがな	しみずがみいせきはつくつちょうさほうこくしよ						
書名	清水上遺跡発掘調査報告書						
副書名							
巻次							
シリーズ名	南陽市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第9集						
編著者名	角田朋行 吉田江美子						
編集機関	南陽市教育委員会						
所在地	〒 999-2292 山形県南陽市三間通 436 番地 1 T E L 0238-40-3211						
発行年月日	2015年3月31日						

ふりがな	ふりがな	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しみずがみいせき 清水上遺跡	やまがたけん 山形県 なんようし 南陽市 かもうだ 蒲生田 あざしみずがみ 字清水上	6213	新規登録	38° 03' 48"	140° 08' 23"	20140701 } 20140829	1,050	民間開発

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
しみずがみいせき 清水上遺跡	墳墓 集落跡	古墳時代 奈良～平安時代	方形周溝跡 竪穴住居跡 掘立柱建物跡 道路跡 製鉄遺構 土坑・溝・柱穴	縄文土器 石器 土師器 須恵器 鉄製品 石製品	古墳時代前期の周溝跡が確認された。また、8～9世紀の竪穴住居跡群および掘立柱建物跡群が確認された。また古代の道路側溝とみられる並行する溝跡が確認された。

要約	<p>旧吉野川・上無川・織機川によって形成された複合扇状地上に位置する南陽市には縄文・弥生・古墳・奈良～平安・中世・近世の遺跡が存在している。稲荷森古墳に代表される古墳時代前期の古墳群、丘陵の尾根に群集する奈良時代終末期古墳群、奈良～平安時代の官衙的性格を持つ遺跡が近年の調査で確認されている。</p> <p>本遺跡は南北に走る吉野川旧河道兩岸の微高地に位置する。調査前中世館跡の「蒲生田館跡」の遺跡範囲北端部分としてとらえていたが、今回の調査により古墳時代および奈良～平安時代を主とする「清水上遺跡」として、改めて遺跡名と遺跡範囲を登録した。この調査において、旧吉野川河岸に造営された古墳時代前期の方形周溝墓もしくは方墳と奈良～平安時代の集落（竪穴住居群および掘立柱建物群）が確認された。奈良時代末～平安時代初頭の竪穴住居跡のカマドからは当時使用した土器が良好な状態で一括出土し、米沢盆地の土器編年の基礎資料を得られた。また、墳墓を削平しそこに掘立柱建物を建築している事が確認され、この地域における権力と社会構造の移行を示す重要な遺跡といえる。</p>
----	---

南陽市埋蔵文化財調査報告書第9集

清水上遺跡

2015年3月31日

発行 南陽市教育委員会
〒 999-2292 山形県南陽市三間通 436 番地 1
電話 0238-40-3211 (代)

印刷 有限会社 文進堂印刷
〒 999-2221 山形県南陽市柵塚 811 番地 3
電話 0238-43-2116